

年齢階級別、薬効分類別ジェネリック医薬品使用割合について 【概要版】

国民健康保険・協会けんぽ分析結果

1. 目的

国では、ジェネリック医薬品使用割合を2020年9月までに80%以上にすることを目標に掲げており、本県の使用割合は徐々に上昇傾向にあるが、全国的にみるとまだまだ低迷している状況であります。

ジェネリック医薬品使用割合（年代別等）に関する状況を把握し、今後の事業の検討材料にするため、国民健康保険と協会けんぽのデータを統合した分析資料を作成しました。

2. 集計対象

- 国民健康保険と協会けんぽの医科、DPC、歯科、調剤レセプトについて集計（電子レセプトに限る、再審査分を除く）
- 令和2年9月診療分（10月審査分）レセプトを使用

3. 算出方法

- [後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出
- 項目の「対象薬剤数」とは[後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]
- 「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいう

4. 統計分析

(1) 薬効分類別の使用割合

①使用割合の状況（総数）

※資料No.1-4より

	令和元年9月診療分	令和2年9月診療分	差
使用割合（総数）	74.2%	77.1%	2.9%

- 0歳から74歳までの使用割合の総数は、77.1%であり、昨年度より2.9%伸びているが、国で掲げた目標値80%には、まだ届いていない状況でした。

②使用割合の状況（薬効分類別）

【0歳から74歳において使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】

※資料No.1-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤=対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤=対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (1,658+1,722)	96.3%	人工透析用薬 (396+1,709)	23.2%
消化器官用薬 (3,019,025+3,522,971)	85.7%	放射性医薬品 (501+1,917)	26.1%
ビタミン剤 (674,838+804,479)	83.9%	その他の治療を主目的としない医薬品 (186+569)	32.7%

- 使用割合が高い薬剤は、歯科口腔用薬、消化器官用薬、ビタミン剤という状況でした。
- 使用割合が低い薬剤は、人工透析用薬、放射性医薬品、その他の治療を主目的としない医薬品という状況でした。

③被保険者からみた使用割合に差異がある要因

- 被保険者が市販薬として、広く認知されているものについては使用割合が高い傾向にあると考えられます。
- 使用割合が低い薬剤については市販薬として目に触れることが少ないことから、後発医薬品に変更することに対して、抵抗があると考えられます。

④昨年度との比較

【薬効分類別の使用割合(前年度比較)】

※資料No.1-4より一部抜粋

項目	薬効分類別	令和元年9月診療分	令和2年9月診療分	差
使用割合が高い薬剤 (令和2年度)	27 歯科口腔用薬	83.7%	96.3%	12.6%
	23 消化器官用薬	85.2%	85.7%	0.5%
使用割合が低い薬剤 (令和2年度)	43 放射性医薬品	16.8%	26.1%	9.3%
	34 人工透析用薬	24.6%	23.2%	△1.4%
昨年度から最も使用割合が 伸びた薬剤	72 診断用薬(対外診断用 医薬品を除く)	47.1%	68.4%	21.3%

- 使用割合が最も高い歯科口腔用薬は、昨年度と比較して12.6%伸びていた。
- 放射性医薬品は、全体から見ると使用割合が低い薬剤であるが、昨年度から9.3%伸びていた。
- 昨年度から最も伸びたのは、診断用薬（体外診断用医薬品を除く）であり、21.3%伸びていた。

(2) 年齢階級別の使用割合

①使用割合の状況

※資料No.2-1、2-2より

年齢階級	0歳～4歳	5歳～9歳	10歳～14歳	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳
年齢階級別 使用割合比較(%)	70.4	64.3	64.6	69.8	78.0	76.6	74.5	76.6
年齢階級	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	
年齢階級別 使用割合比較(%)	75.7	76.6	77.9	77.8	79.2	78.4	77.3	

- 0歳から19歳までの若年層の使用割合が低い状況でした。
- 高齢者においては使用割合が高く、その中で最も高い年齢階級が60歳から64歳（使用割合79.2%）でした。

②使用割合の低い要因

- 0歳から19歳の使用割合が低い状況は、県内で多くの市町村において義務教育終了まで窓口無料化が実施されていることから自己負担額に対するコスト意識が薄いことが要因の1つと考えられる。

③昨年度との比較

【年齢階級別使用割合(%)】

※資料No.2-3、2-4より

年齢階級	令和元年9月 診療分	令和2年9月 診療分	差	年齢階級	令和元年9月 診療分	令和2年9月 診療分	差
0歳から4歳	68.6	70.4	1.8	40歳から44歳	72.6	75.7	3.1
5歳から9歳	62.1	64.3	2.2	45歳から49歳	75.8	76.6	0.8
10歳から14歳	61.0	64.6	3.5	50歳から54歳	76.8	77.9	1.2
15歳から19歳	69.7	69.8	0.1	55歳から59歳	77.0	77.8	0.8
20歳から24歳	74.7	78.0	3.4	60歳から64歳	76.6	79.2	2.6
25歳から29歳	73.6	76.6	2.9	65歳から69歳	75.5	78.4	2.9
30歳から34歳	74.2	74.5	0.3	70歳から74歳	73.4	77.3	3.9
35歳から39歳	74.1	76.6	2.4				

- 全年齢階級において、昨年度より使用割合は伸びており、最も高い年齢階級は、70歳から74歳で、3.9%伸びていた。
- 0歳から19歳までの若年層の使用割合は、昨年度と同様低い状況であるが、10歳から14歳は昨年度から3.5%と伸びていた。

(3) 若年層における薬効分類別の使用割合

①使用割合の状況

- 若年層での使用割合が低い薬剤については、ホルモン剤【抗ホルモン剤を含む】、外皮用薬、循環器官用薬、その他の代謝性医薬品、抗生物質製剤、アレルギー用薬という状況でした。

5. まとめ

- 今回の統計結果から、本県では昨年度と同様に若年層の使用割合が低いことが分かりました。このことより、保険者協議会としても県、医師会、歯科医師会、薬剤師会などの関係機関との連携した取り組みを行い、保護者の方々にジェネリック医薬品が安心・安全な薬剤であることや医療費の抑制につながることを引き続き周知していく必要があると考えます。

年齢階級別、薬効分類別ジェネリック 医薬品使用割合について

～国民健康保険・協会けんぽ分析結果～

(令和2年度)

山梨県保険者協議会

目 次

1.	目的	1
2.	集計対象	1
3.	算出方法	1
4.	統計分析	
	（1）薬効分類別の使用割合	2
	（2）年齢階級別の使用割合	7
	（3）若年層における薬効分類別の使用割合	29
5.	まとめ	39

■年齢階級別、薬効分類別ジェネリック医薬品使用割合
～データ分析(数量ベース)～

1. 目的

国では、医療費の抑制や患者の負担軽減につながるため、ジェネリック医薬品使用割合を2020年9月までに80%以上にすることを目標に掲げ、取り組んできました。

山梨県の使用割合については、年々上昇傾向で、令和2年3月時点で79.0%となっており、対前年同月比5.1%で全国1位となっておりますが、全国的にみると36位であり、まだまだ低迷している状況であります。

このようなことから、本協議会では昨年度と同様に、ジェネリック医薬品使用割合(年代別等)について、国保と協会けんぽのデータを統合した分析を行うとともに、昨年度のデータと比較しジェネリック医薬品使用割合の状況を把握する資料を作成いたしました。

2. 集計対象

○国保(一般分、退職分)、協会けんぽ(一般分)の医科、DPC、歯科、調剤レセプトについて集計したものである。(ただし、電子レセプトに限る。)

○DPCレセプトについては、直接の診療報酬請求の対象としていないコーディングデータを集計対象としている。

○再審査分を除くレセプトを集計対象としている。

○令和2年9月診療分(10月審査分)レセプトを使用

○今回の統計資料作成において、国保、協会けんぽともに処方がない薬剤については対象外としております。

19. その他の神経系及び感覚器用医薬品、41. 細胞賦活用薬、

49. その他の組織細胞機能用医薬品、51. 生薬、52. 漢方製剤、

59. その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品、63. 生物学的製剤、

64. 寄生動物用薬、69. その他の病原生物に対する医薬品、71. 調剤用薬、

73. 公衆衛生用薬、74. 体外診断用医薬品

3. 算出方法

○ $\frac{\text{〔後発医薬品の数量〕}}{\text{〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕} + \text{〔後発医薬品の数量〕}}$ で算出している。なお、項目の「対象薬剤数」とは $\text{〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕} + \text{〔後発医薬品の数量〕}$

「切替薬剤数」とは 〔後発医薬品の数量〕 の事を示します。

○「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいう。

○薬効分類は37薬剤に分類、「日本標準商品分類」の「中分類87-医薬品及び関連製品」に準拠して設定している。

○年齢階級は5歳刻み、年齢は実際の診療年月末日時点で判別している。

4. 統計分析 (1)薬効分類別の使用割合 (資料No.1-1、1-2、1-3、1-4)

《使用割合の状況(総数)》

○0歳から74歳までの使用割合の総数は、77.1%であり、昨年度より2.9%伸びているが、国で掲げた目標値80%には、まだ届いていない状況である。

※資料No.1-4より

	令和元年9月診療分	令和2年9月診療分	差
使用割合(総数)	74.2%	77.1%	2.9%

《使用割合の状況(薬効分類別)》

○全年齢階級対象に薬効分類別でみると、使用割合が高い薬剤は歯科口腔用薬96.3%、消化器官用薬85.7%、ビタミン剤83.9%という状況である。

○また、使用割合が低い薬剤は人工透析用薬23.2%、放射性医薬品26.1%、その他の治療を主目的としない医薬品32.7%という状況である。

【0歳から74歳において使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】 ※資料No.1-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (1,658÷1,722)	96.3%	人工透析用薬 (396÷1,709)	23.2%
消化器官用薬 (3,019,025÷3,522,971)	85.7%	放射性医薬品 (501÷1,917)	26.1%
ビタミン剤 (674,838÷804,479)	83.9%	その他の治療を主目的としない 医薬品(186÷569)	32.7%

※歯科口腔用薬 (歯科用局所麻酔剤、歯科用抗生物質製剤等)

《被保険者からみた場合の使用割合に差異がある要因》

○被保険者が市販薬として、広く認知されているものについては使用割合が高い傾向にあるが、使用割合が低い薬剤については市販薬として目に触れることが少ないことから、後発医薬品に変更することに対して、抵抗があると感じられる。

《昨年度との比較》

○使用割合が最も高い歯科口腔用薬は、昨年度から12.6%伸びている。

○放射性医薬品は、全体から見ると使用割合が低い薬剤であるが、昨年度から9.3%伸びている。

○昨年度から最も伸びたのは、診断用薬(体外診断用医薬品を除く)であり、21.3%伸びている。

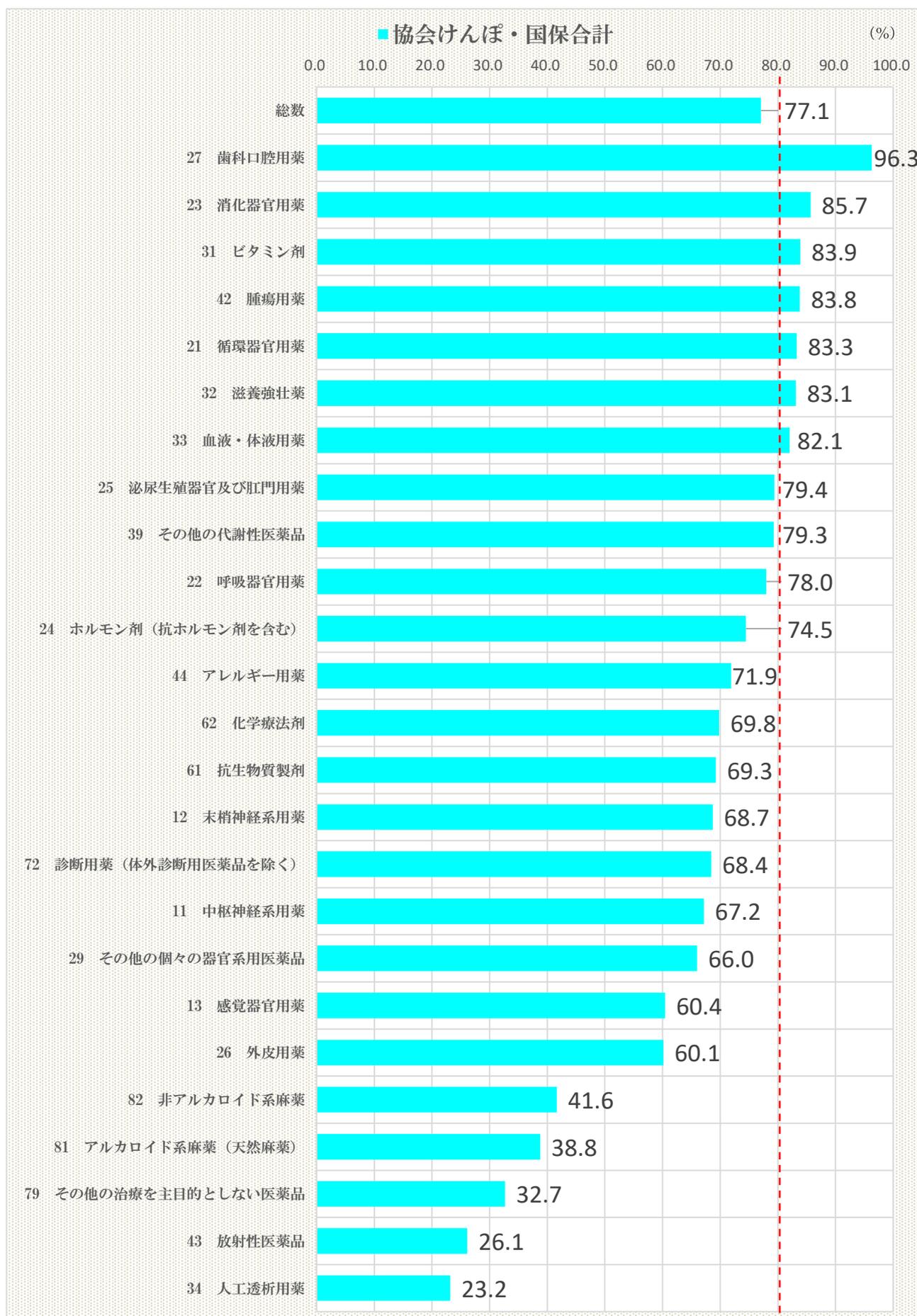
【薬効分類別の使用割合(前年度比較)】

※資料No.1-4より一部抜粋

項目	薬効分類別	令和元年9月診療分	令和2年9月診療分	差
使用割合が高い薬剤 (令和2年度)	27 歯科口腔用薬	83.7%	96.3%	12.6%
	23 消化器官用薬	85.2%	85.7%	0.5%
使用割合が低い薬剤 (令和2年度)	43 放射性医薬品	16.8%	26.1%	9.3%
	34 人工透析用薬	24.6%	23.2%	△1.4%
昨年度から最も使用割合が 伸びた薬剤	72 診断用薬(対外診断用 医薬品を除く)	47.1%	68.4%	21.3%

薬効分類別の使用割合

資料No.1-1



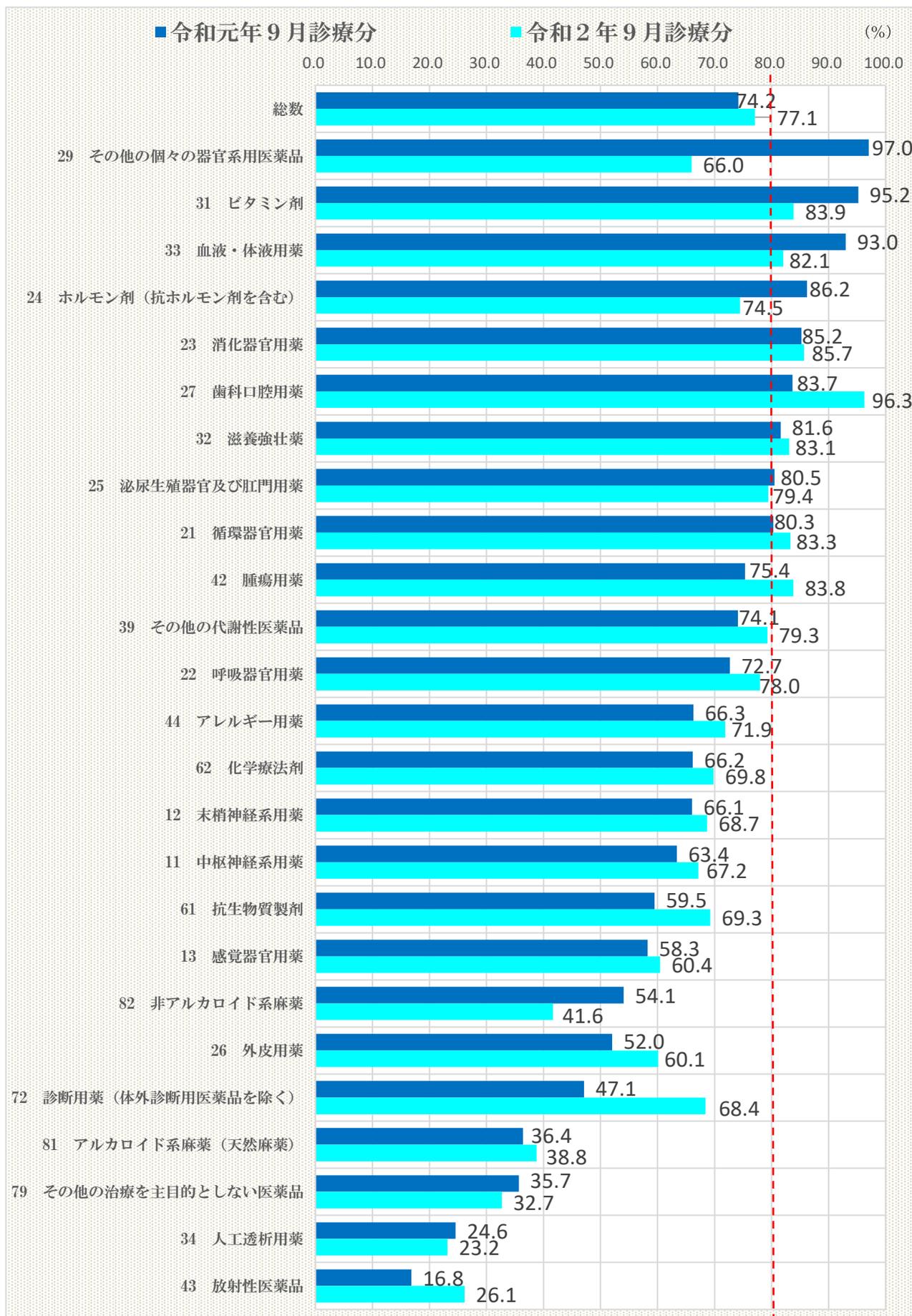
薬効分類別の使用割合

資料No.1-2

薬効分類別	協会けんぽ・国保合計		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	77.1	22,577,187	17,402,122
27 歯科口腔用薬	96.3	1,722	1,658
23 消化器官用薬	85.7	3,522,971	3,019,025
31 ビタミン剤	83.9	804,479	674,838
42 腫瘍用薬	83.8	85,909	72,015
21 循環器官用薬	83.3	5,910,594	4,923,013
32 滋養強壯薬	83.1	123,034	102,256
33 血液・体液用薬	82.1	1,567,972	1,286,808
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	79.4	288,244	228,912
39 その他の代謝性医薬品	79.3	1,645,835	1,304,707
22 呼吸器官用薬	78.0	728,120	567,855
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	74.5	162,244	120,819
44 アレルギー用薬	71.9	1,151,787	827,843
62 化学療法剤	69.8	110,354	77,061
61 抗生物質製剤	69.3	211,848	146,709
12 末梢神経系用薬	68.7	292,873	201,201
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	68.4	3,812	2,608
11 中枢神経系用薬	67.2	3,695,051	2,481,900
29 その他の個々の器官系用医薬品	66.0	5,823	3,842
13 感覚器官用薬	60.4	258,582	156,299
26 外皮用薬	60.1	1,990,701	1,197,251
82 非アルカロイド系麻薬	41.6	4,840	2,016
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	38.8	6,197	2,404
79 その他の治療を主目的としない医薬品	32.7	569	186
43 放射性医薬品	26.1	1,917	501
34 人工透析用薬	23.2	1,709	396

薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.1-3



薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.1-4

薬効分類別	令和元年9月診療分			令和2年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	74.2	8,978,573	6,658,503	77.1	22,577,187	17,402,122
29 その他の個々の器官系用医薬品	97.0	1,284	1,246	66.0	5,823	3,842
31 ビタミン剤	95.2	240,092	228,601	83.9	804,479	674,838
33 血液・体液用薬	93.0	591,403	550,050	82.1	1,567,972	1,286,808
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	86.2	57,250	49,356	74.5	162,244	120,819
23 消化器官用薬	85.2	1,334,708	1,137,637	85.7	3,522,971	3,019,025
27 歯科口腔用薬	83.7	435	364	96.3	1,722	1,658
32 滋養強壯薬	81.6	62,341	50,866	83.1	123,034	102,256
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	80.5	68,820	55,417	79.4	288,244	228,912
21 循環器官用薬	80.3	2,040,581	1,639,392	83.3	5,910,594	4,923,013
42 腫瘍用薬	75.4	30,808	23,220	83.8	85,909	72,015
39 その他の代謝性医薬品	74.1	611,788	453,372	79.3	1,645,835	1,304,707
22 呼吸器官用薬	72.7	651,728	473,773	78.0	728,120	567,855
44 アレルギー用薬	66.3	585,711	388,233	71.9	1,151,787	827,843
62 化学療法剤	66.2	57,718	38,197	69.8	110,354	77,061
12 末梢神経系用薬	66.1	122,219	80,731	68.7	292,873	201,201
11 中枢神経系用薬	63.4	1,346,287	853,416	67.2	3,695,051	2,481,900
61 抗生物質製剤	59.5	215,858	128,380	69.3	211,848	146,709
13 感覚器官用薬	58.3	120,634	70,297	60.4	258,582	156,299
82 非アルカロイド系麻薬	54.1	3,000	1,622	41.6	4,840	2,016
26 外皮用薬	52.0	830,494	432,217	60.1	1,990,701	1,197,251
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	47.1	2320	1093.5	68.4	3812.2	2608.2
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	36.4	1,722	627	38.8	6,197	2,404
79 その他の治療を主目的としない医薬品	35.7	586	209	32.7	569	186
34 人工透析用薬	24.6	675	166	23.2	1,709	396
43 放射性医薬品	16.8	111	19	26.1	1,917	501

4. 統計分析 (2)年齢階級別の使用割合 (資料No.2-1、2-2、2-3、2-4)

《若年層の使用割合の状況》

- 協会けんぽ、国保分の合計を年代別に見た場合、0歳から19歳までの若年層の使用割合が低い状況にあります。この年代においては、概ね70%を下回る状況にあります。
- 具体的には、0歳から4歳が70.4%、5歳から9歳が64.3%、10歳から14歳が64.6%、15歳から19歳が69.8%という状況でした。

《高齢者の使用割合の状況》

- 年齢別に見ると高齢者においては使用割合が高い状況にあり、その中でも最も高い年齢階級が60歳から64歳であり、使用割合は79.2%と高い状況にありますが、それでも国が目標とする令和2年9月末までに80%という目標値には届いていない状況でした。

《若年層の使用割合の低い要因》

- 0歳から19歳の使用割合が低い状況は、県内で多くの市町村において義務教育終了まで窓口無料化が実施されていることから自己負担額に対するコスト意識が薄いことが要因の1つと考えられる。

《高齢者の使用割合の高い要因》

- 60歳以上75歳未満の使用割合が高い要因の一つとして、現役を退いた年金受給者、及び定年退職後に国保に加入する方は、現役時より収入が減ることから、自己負担額に対するコスト意識が高いことが考えられる。

《昨年度との比較》

- 全年齢階級において、昨年度より使用割合は伸びており、最も高い年齢階級は、70歳から74歳で、3.9%伸びている。
- 0歳から19歳までの若年層の使用割合は、昨年度と同様低い状況であるが、10歳から14歳は昨年度から3.5%と伸びている。
- 0歳から19歳までの薬効分類別の使用割合は、その他の代謝性医薬品や化学療法剤の伸びが平均して大きくなっている。

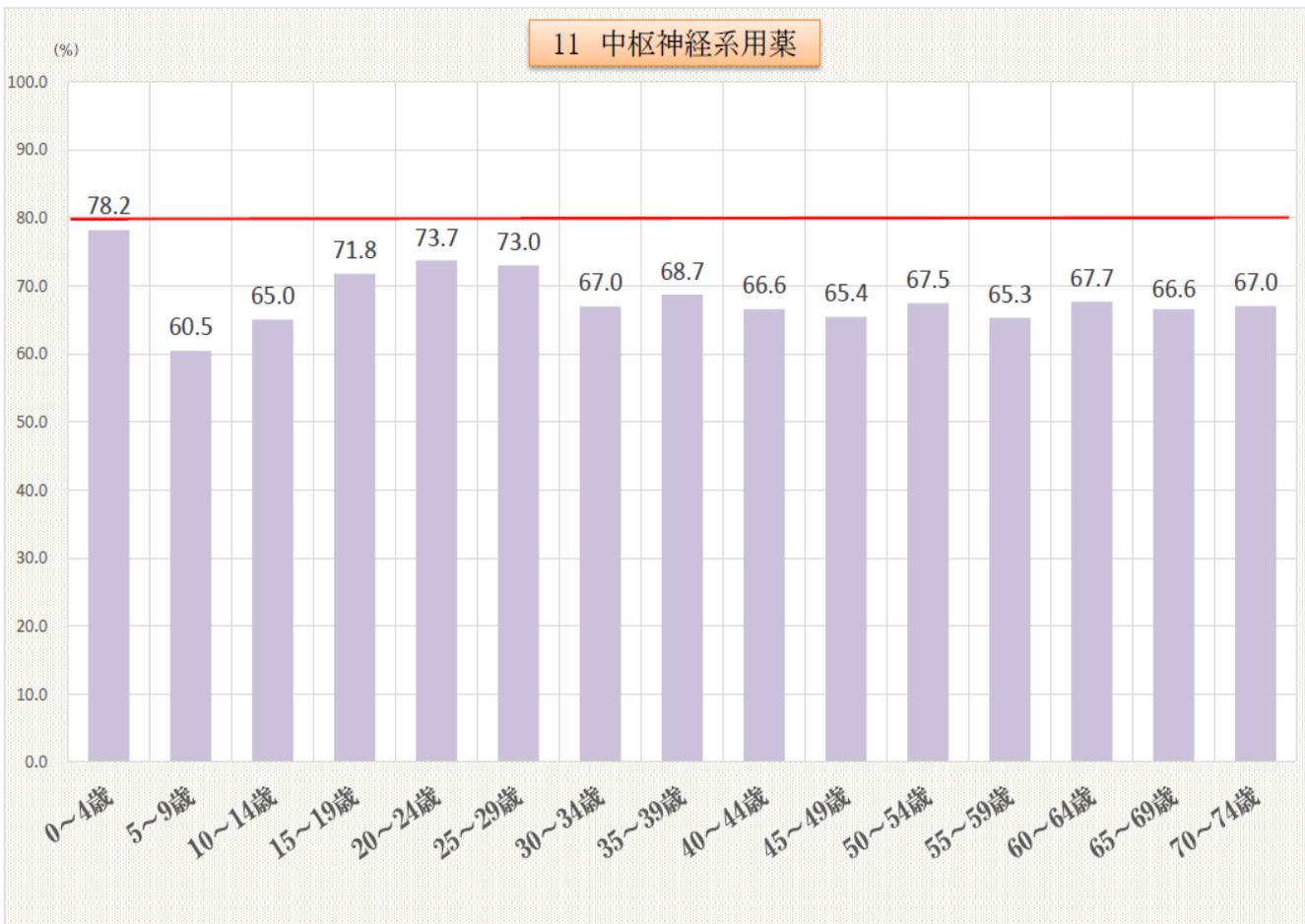
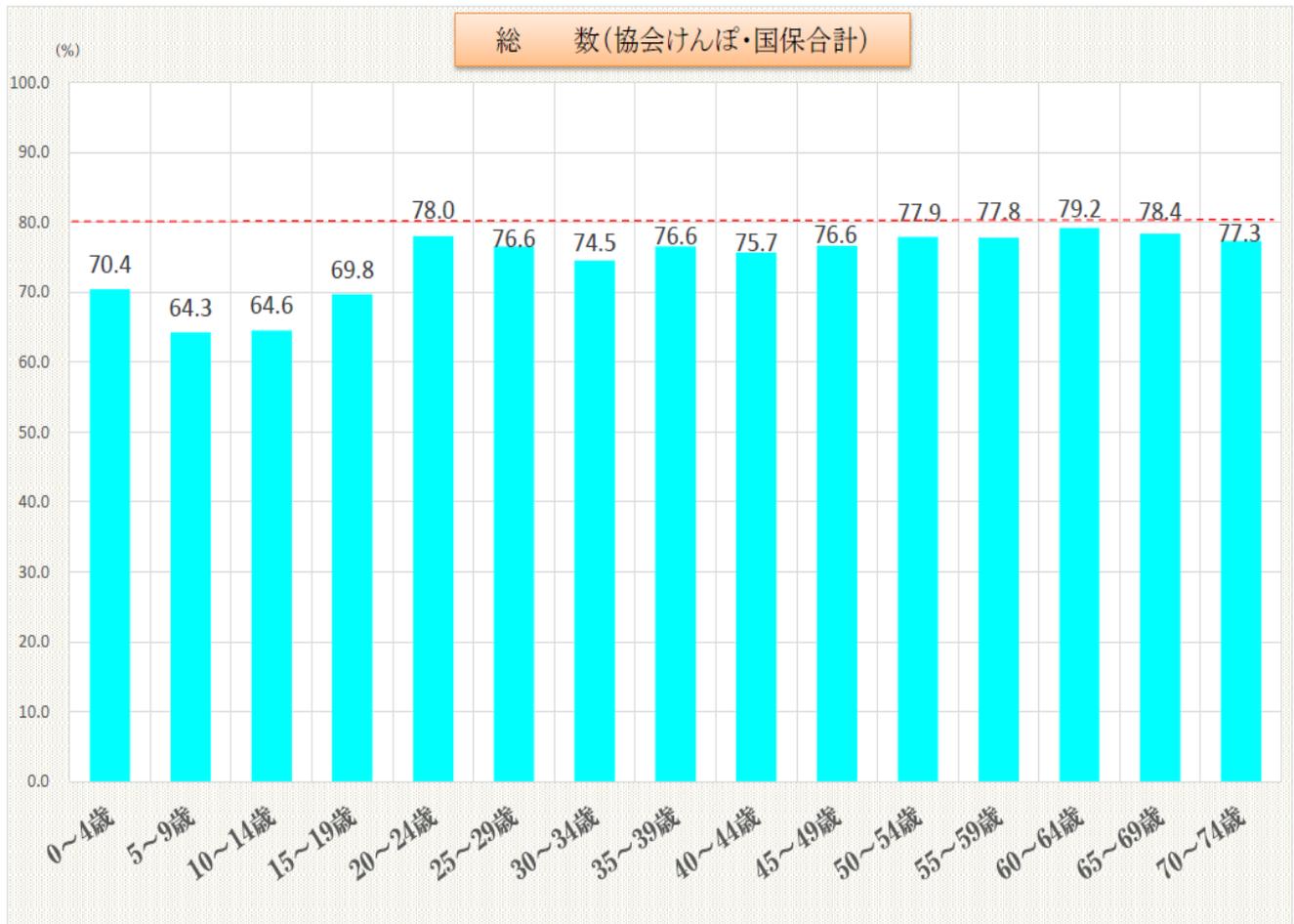
【年齢階級別使用割合(%)】

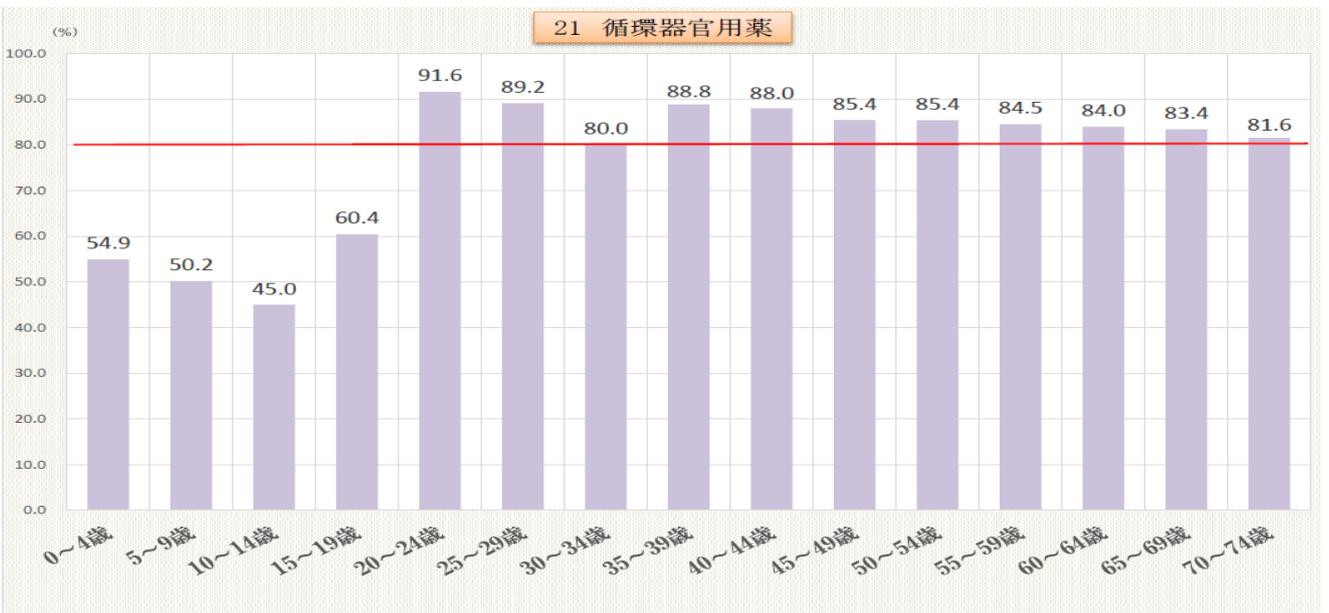
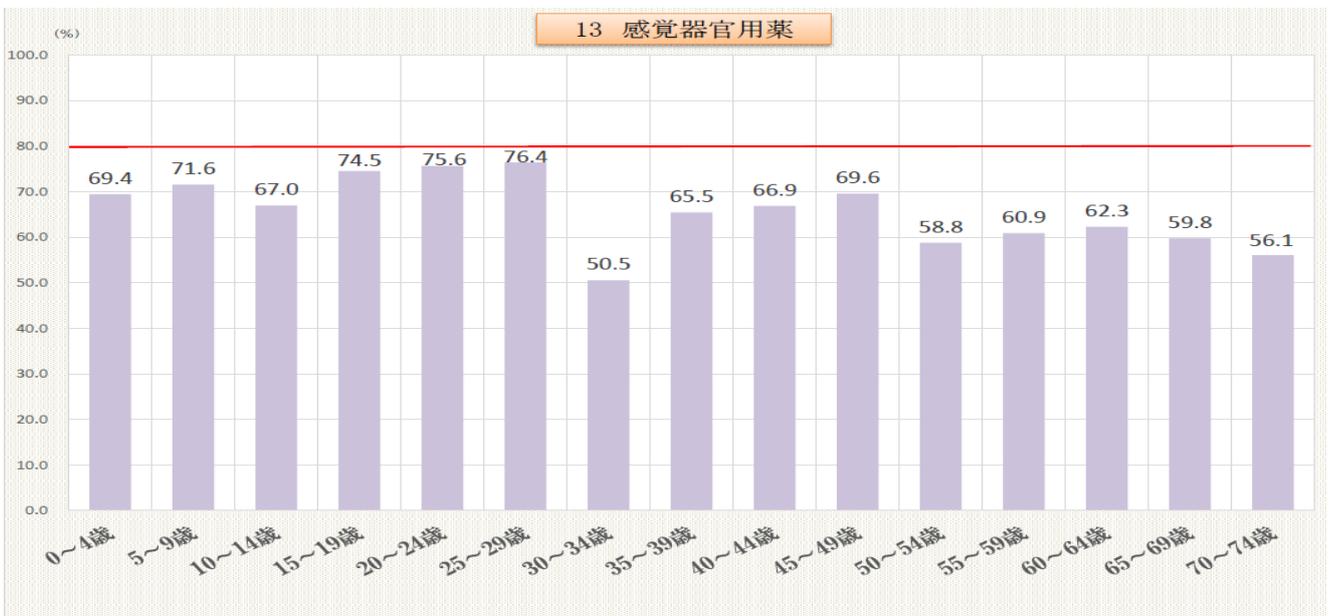
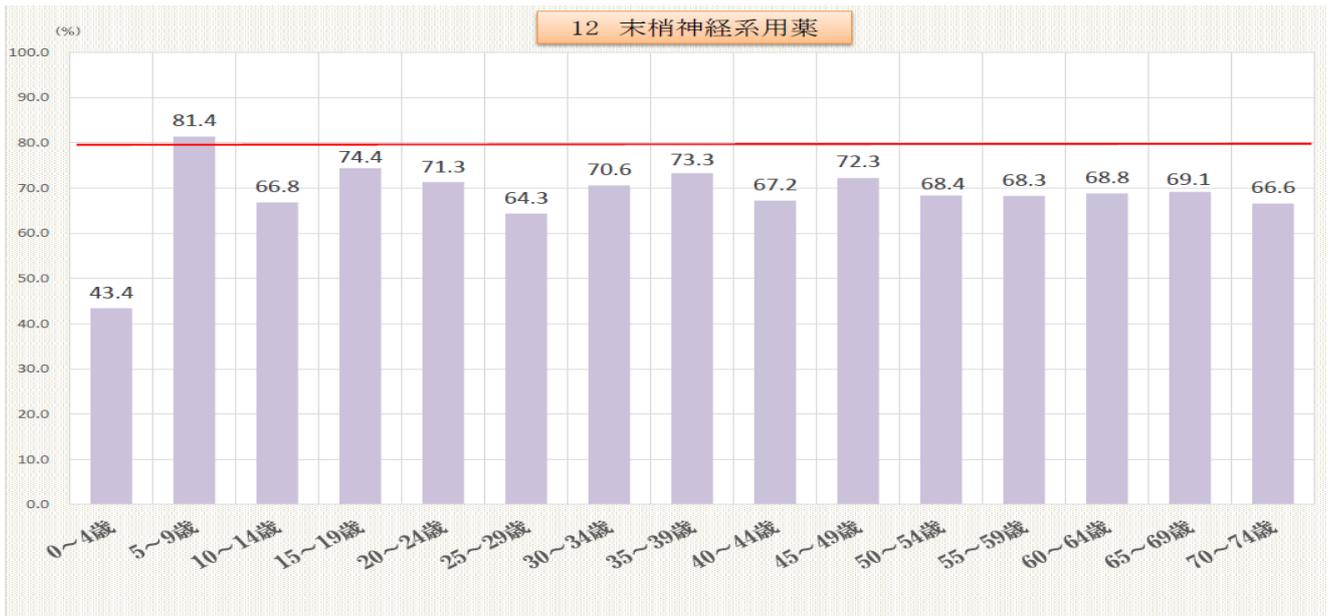
※資料No.2-3、2-4より

年齢階級	令和元年9月診療分	令和2年9月診療分	差
0歳から4歳	68.6	70.4	1.8
5歳から9歳	62.1	64.3	2.2
10歳から14歳	61.0	64.6	3.5
15歳から19歳	69.7	69.8	0.1
20歳から24歳	74.7	78.0	3.4
25歳から29歳	73.6	76.6	2.9
30歳から34歳	74.2	74.5	0.3
35歳から39歳	74.1	76.6	2.4
40歳から44歳	72.6	75.7	3.1
45歳から49歳	75.8	76.6	0.8
50歳から54歳	76.8	77.9	1.2
55歳から59歳	77.0	77.8	0.8
60歳から64歳	76.6	79.2	2.6
65歳から69歳	75.5	78.4	2.9
70歳から74歳	73.4	77.3	3.9

年齢階級別の使用割合

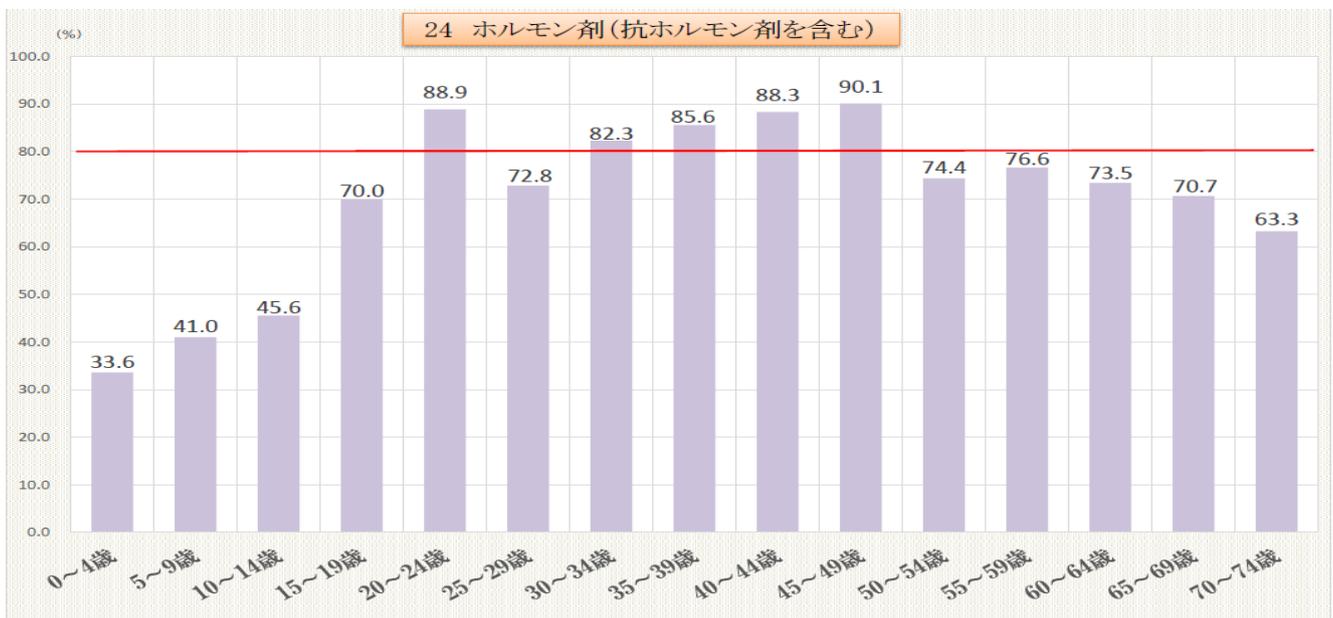
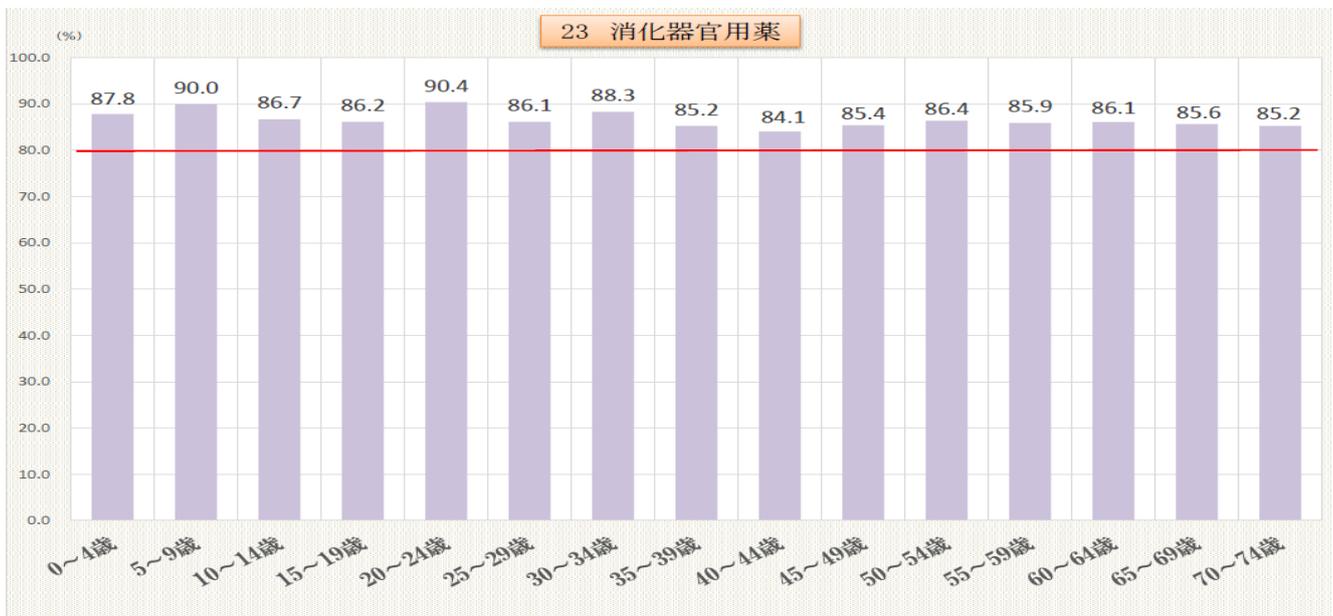
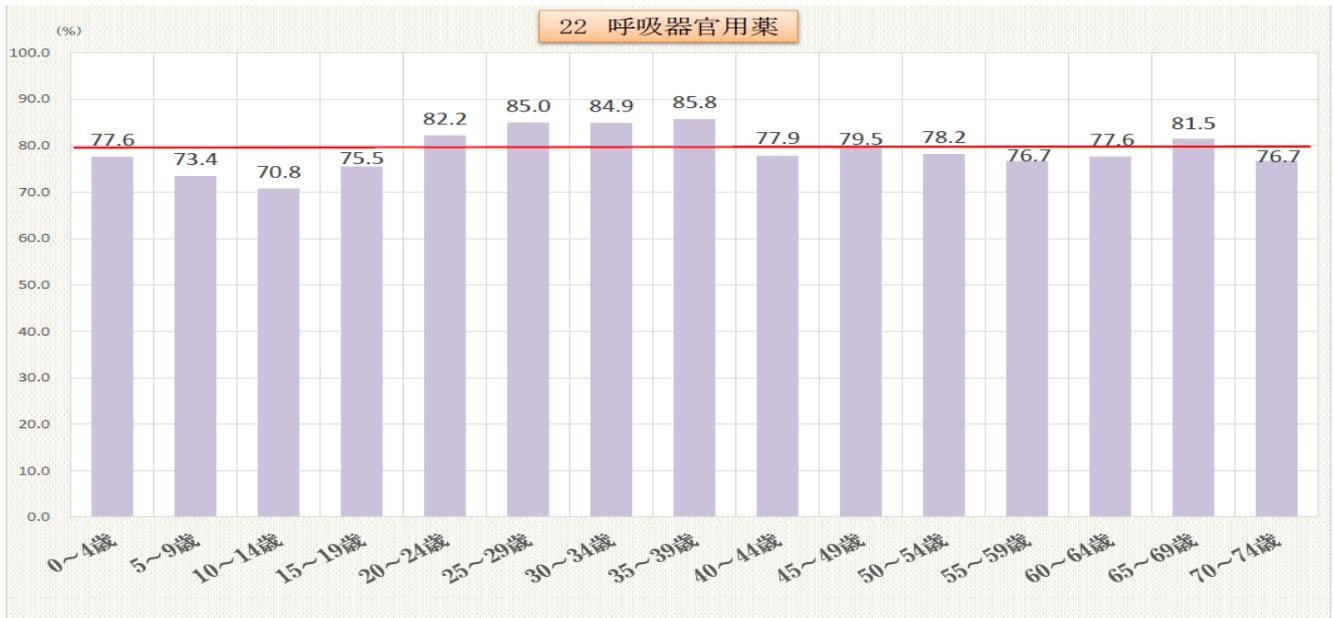
資料No.2-1





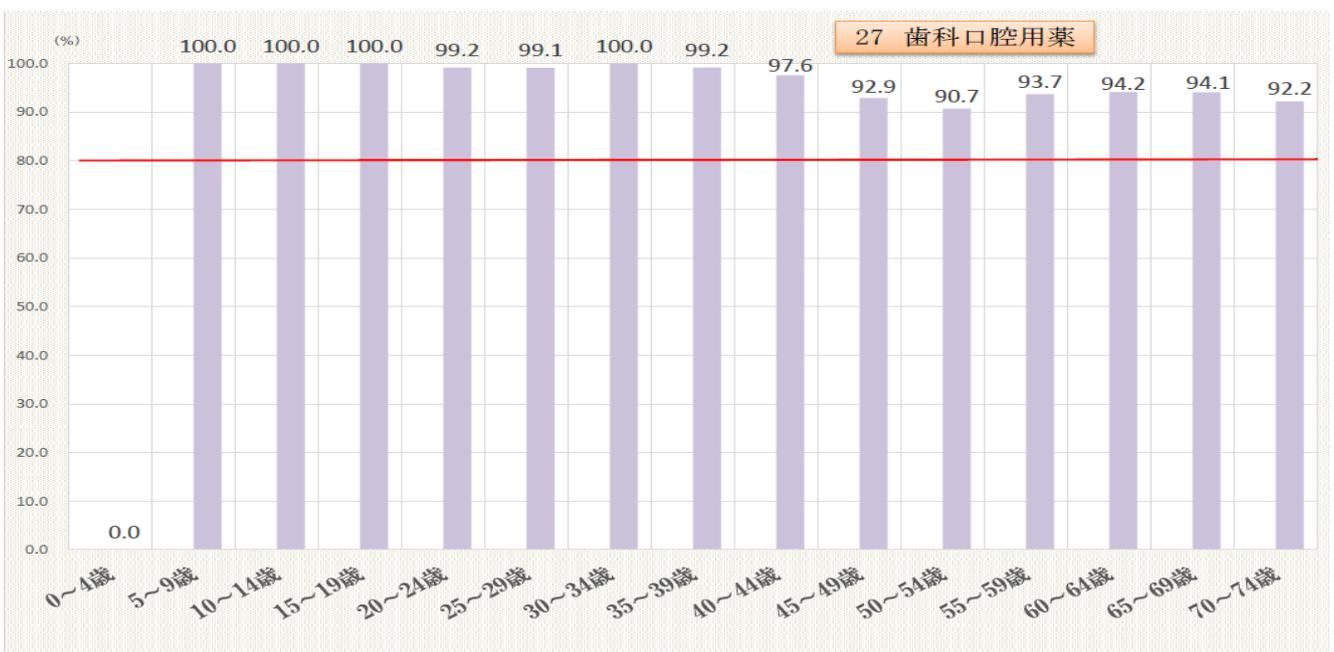
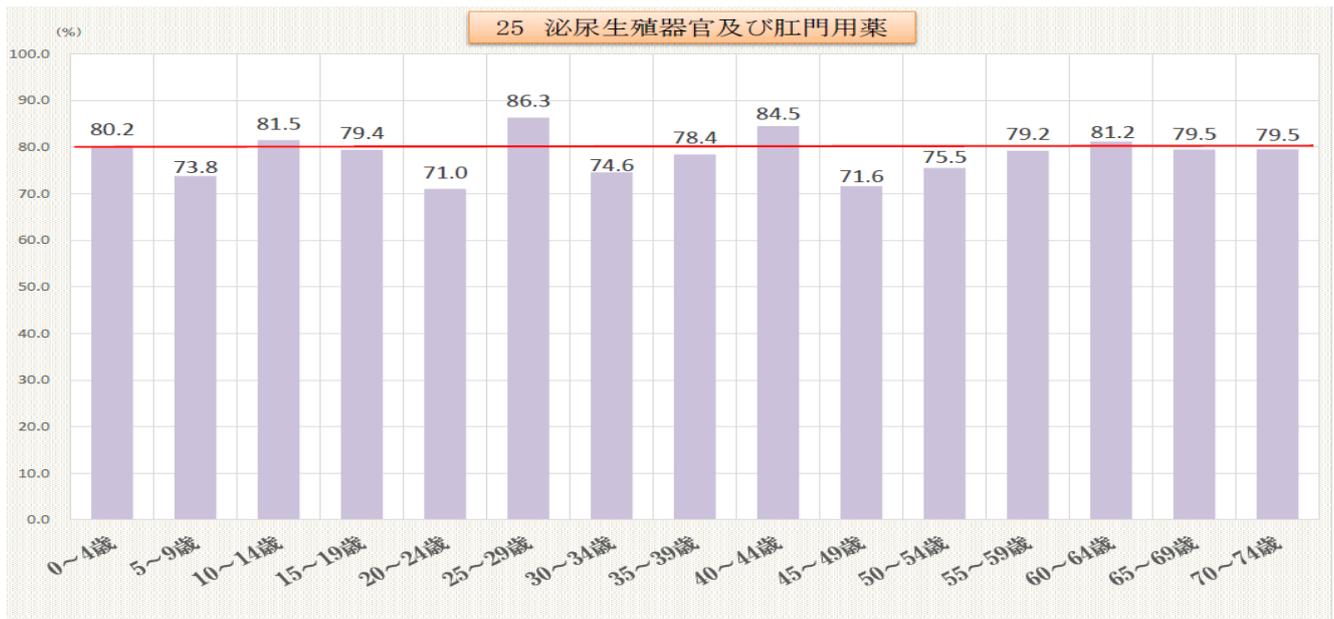
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



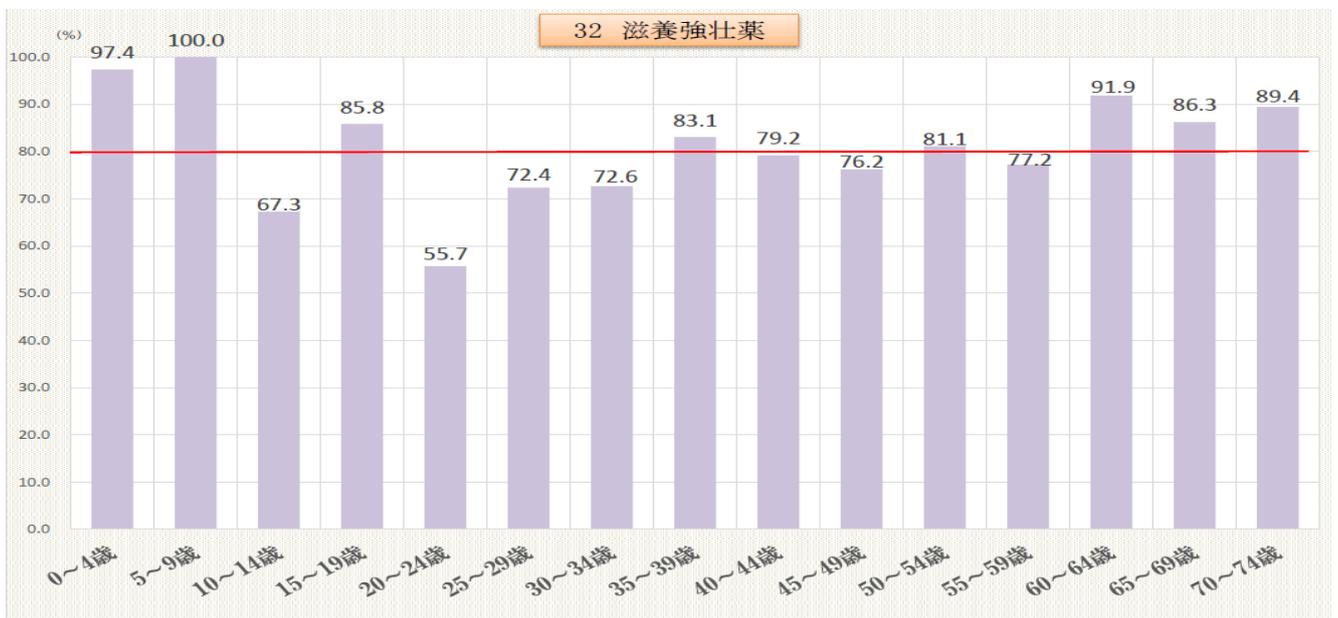
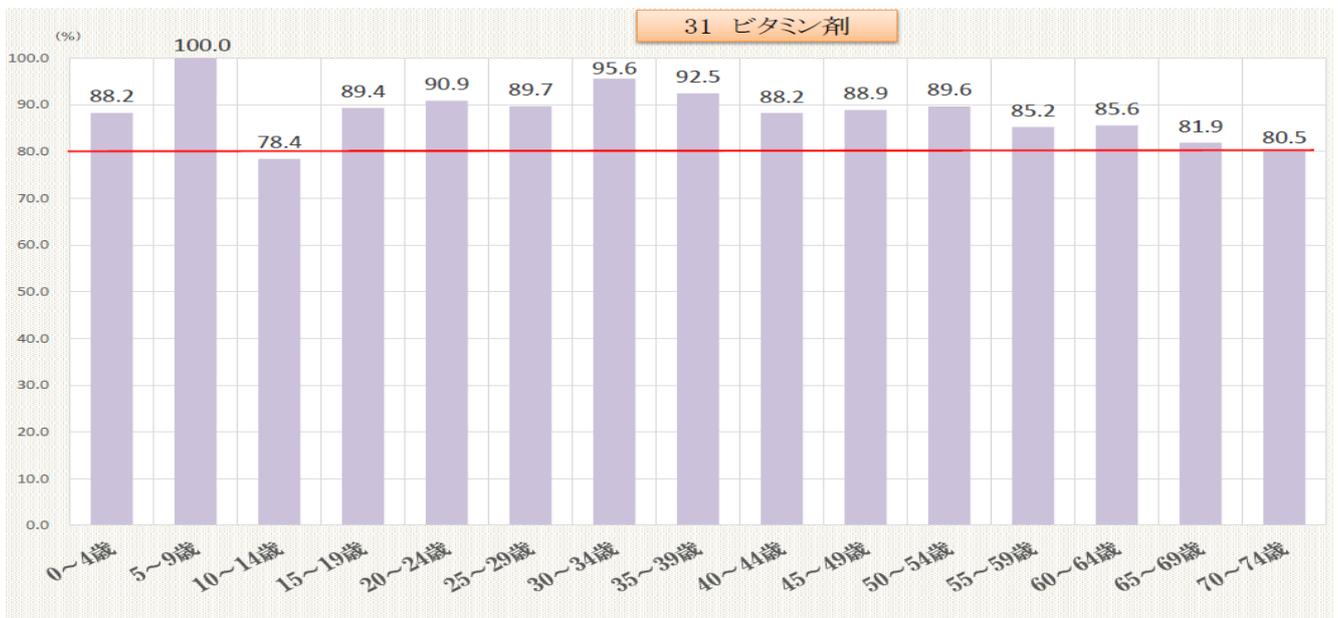
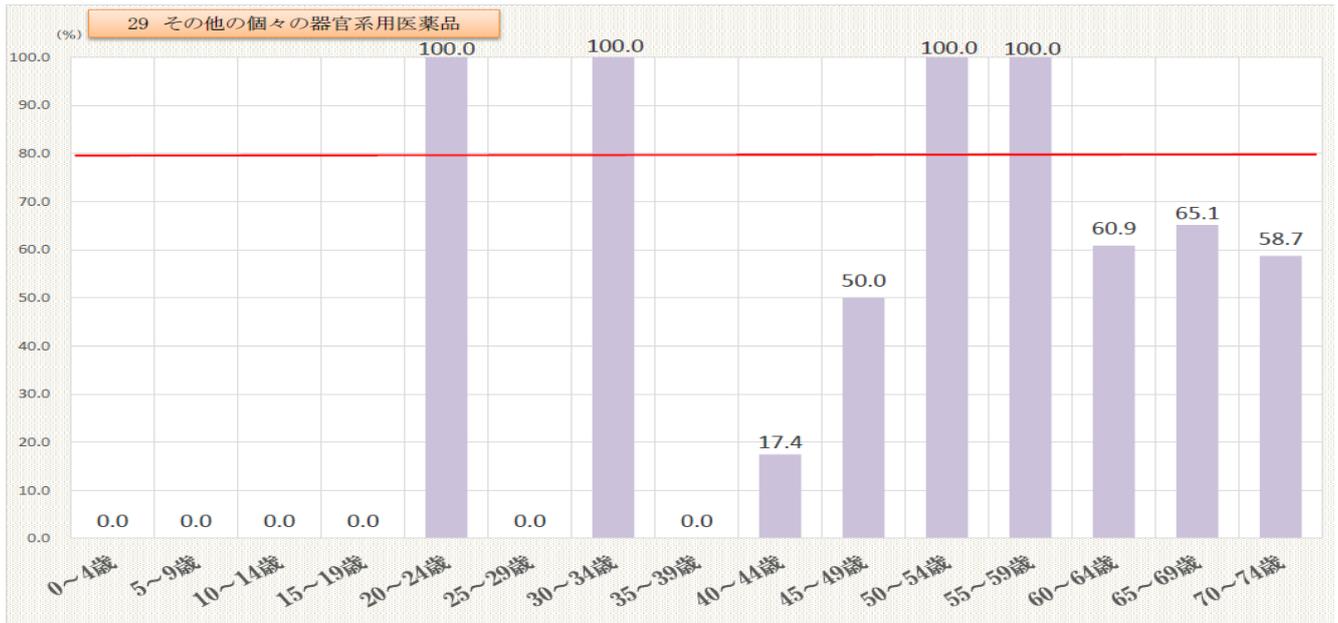
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



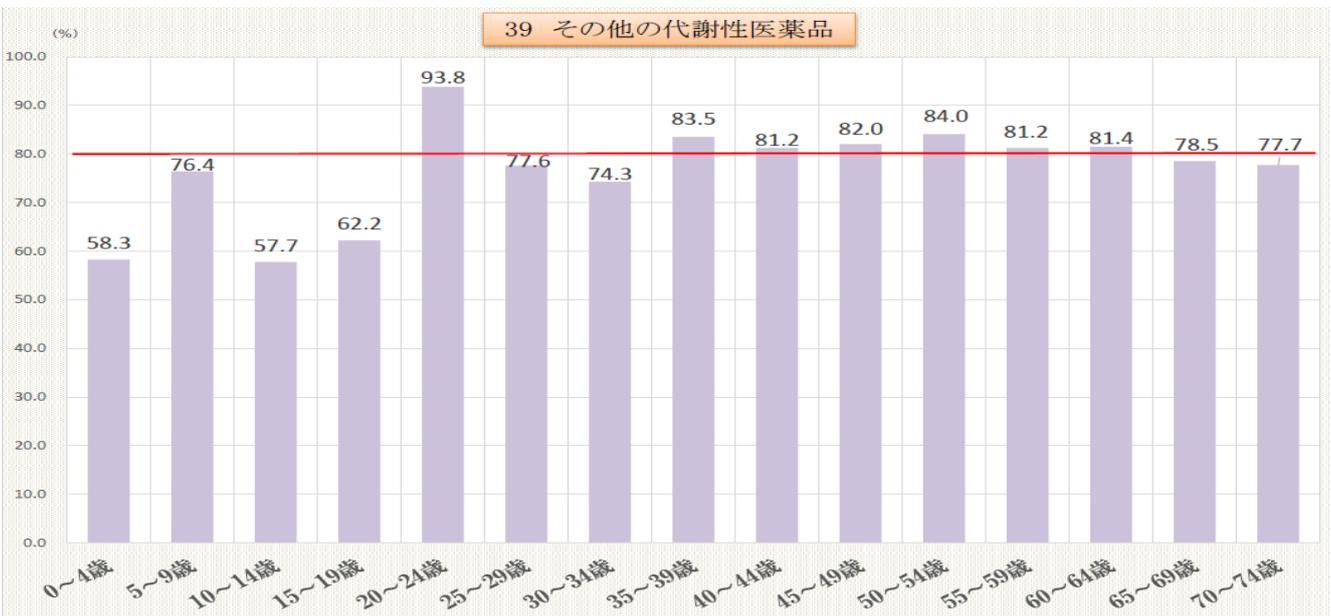
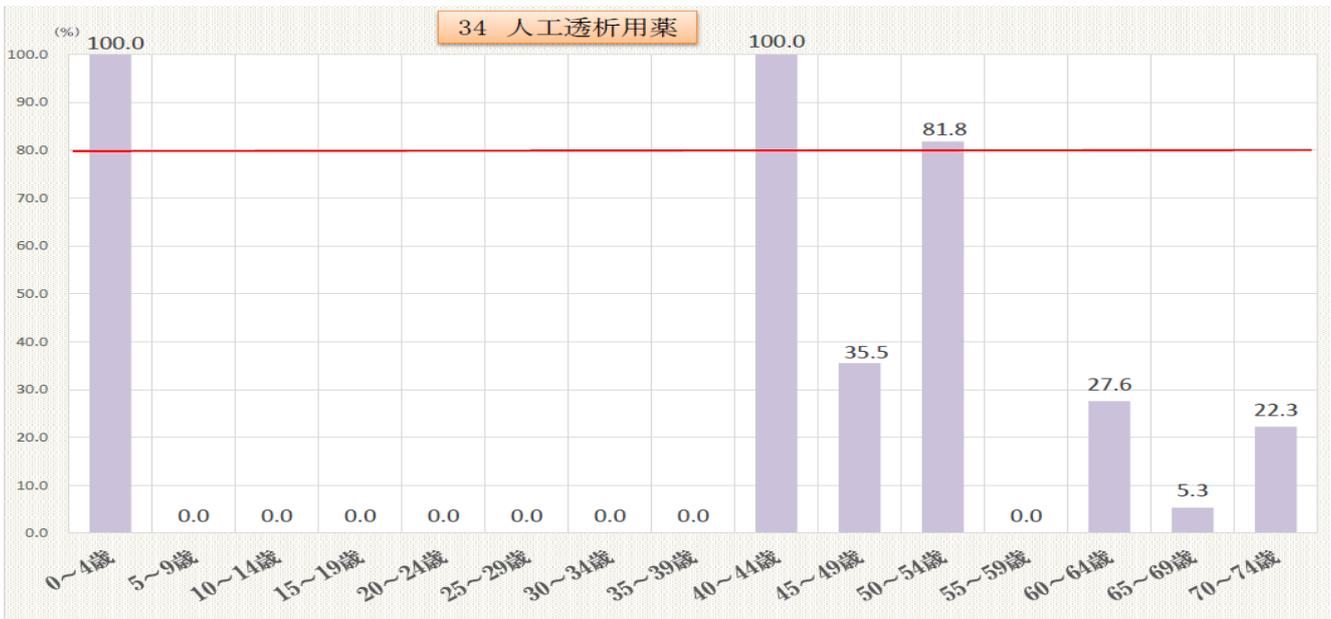
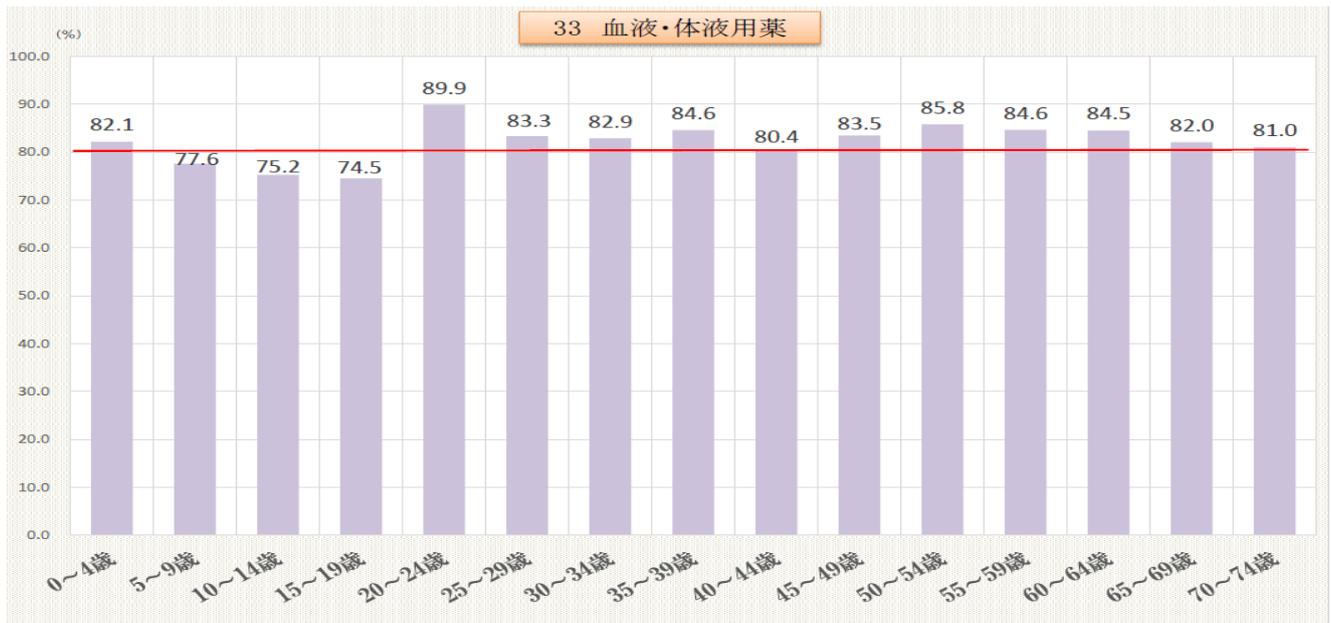
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



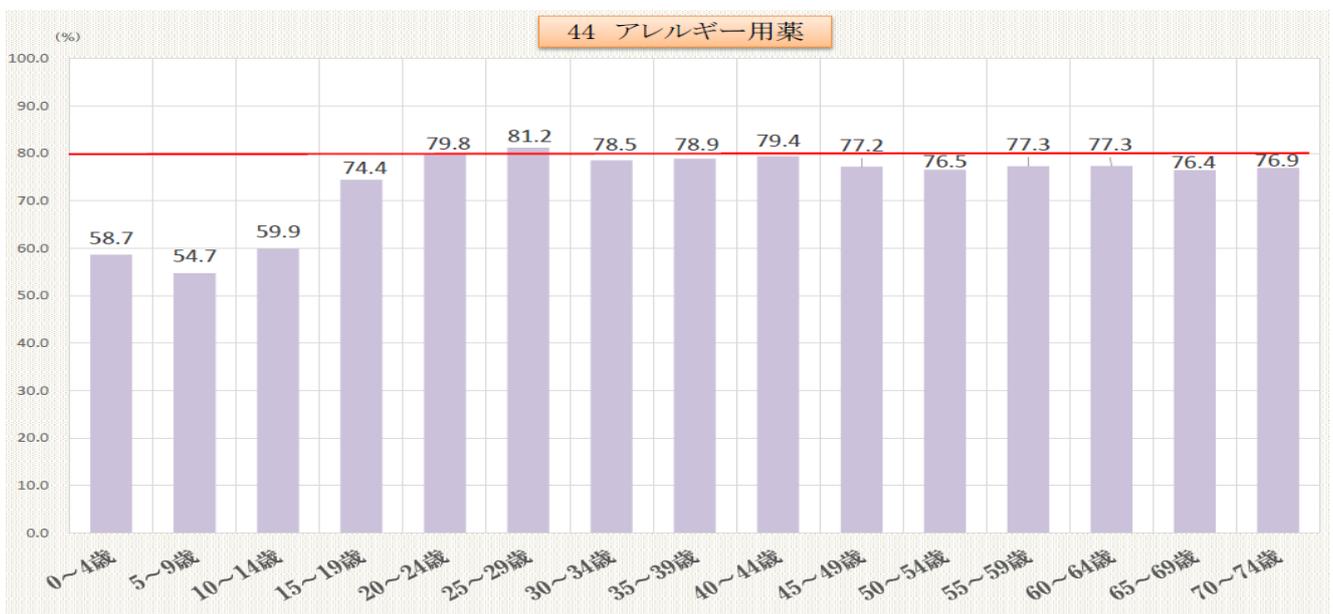
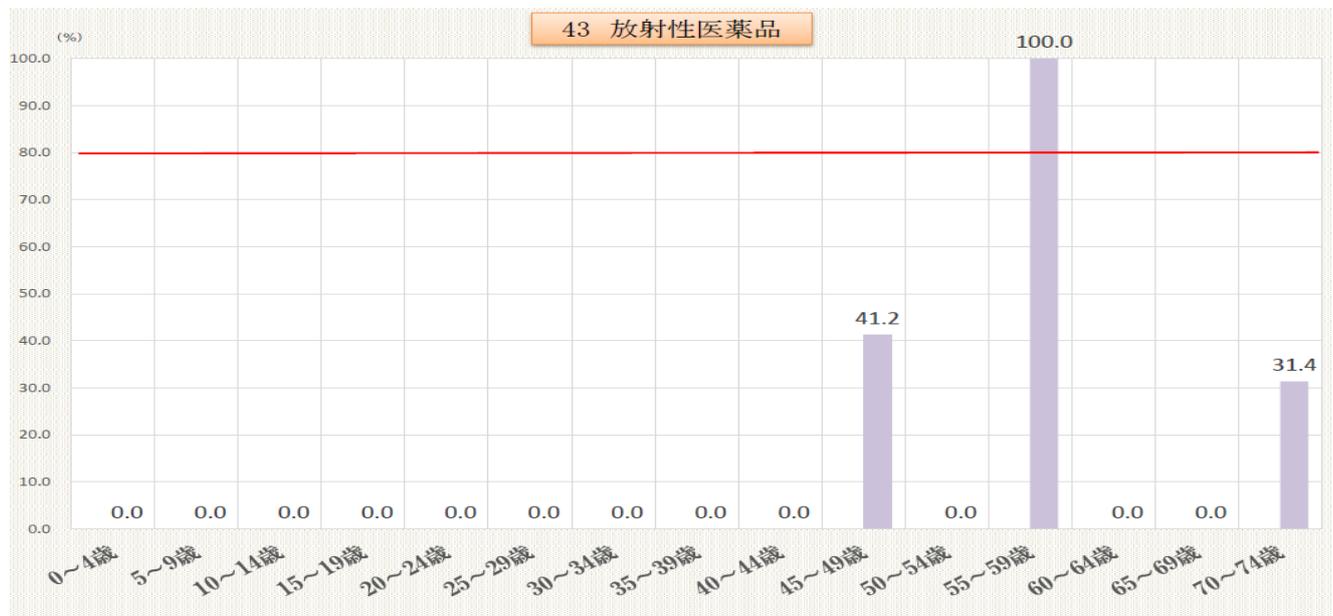
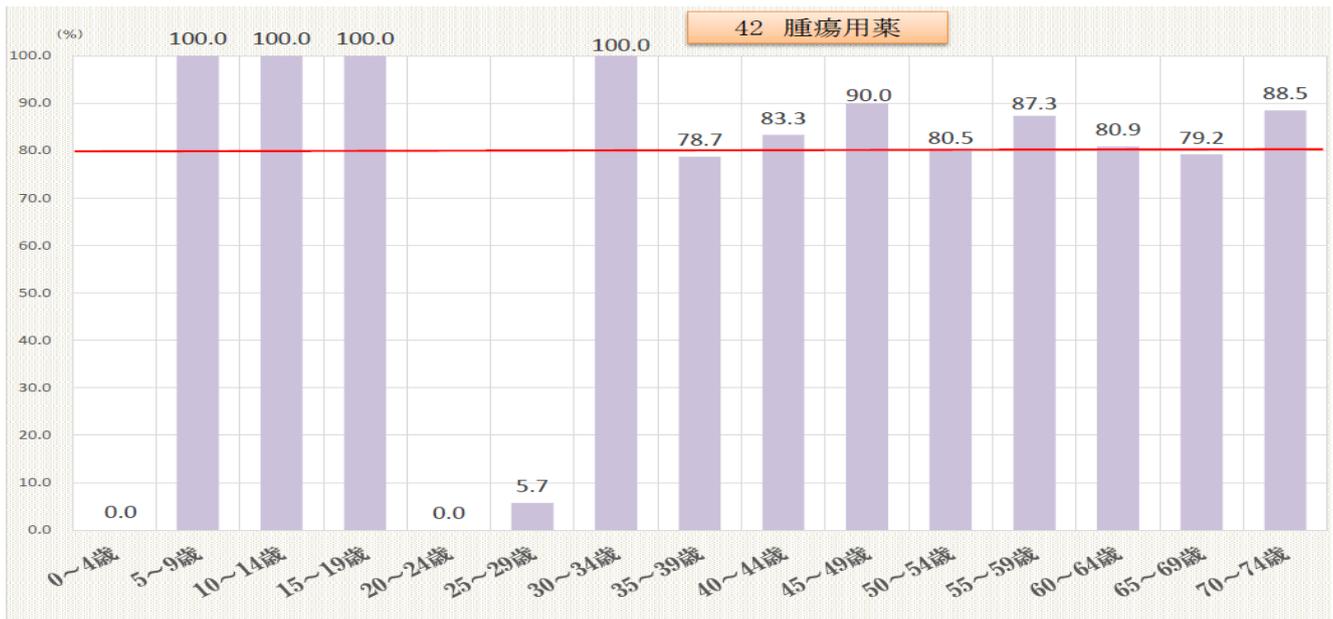
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



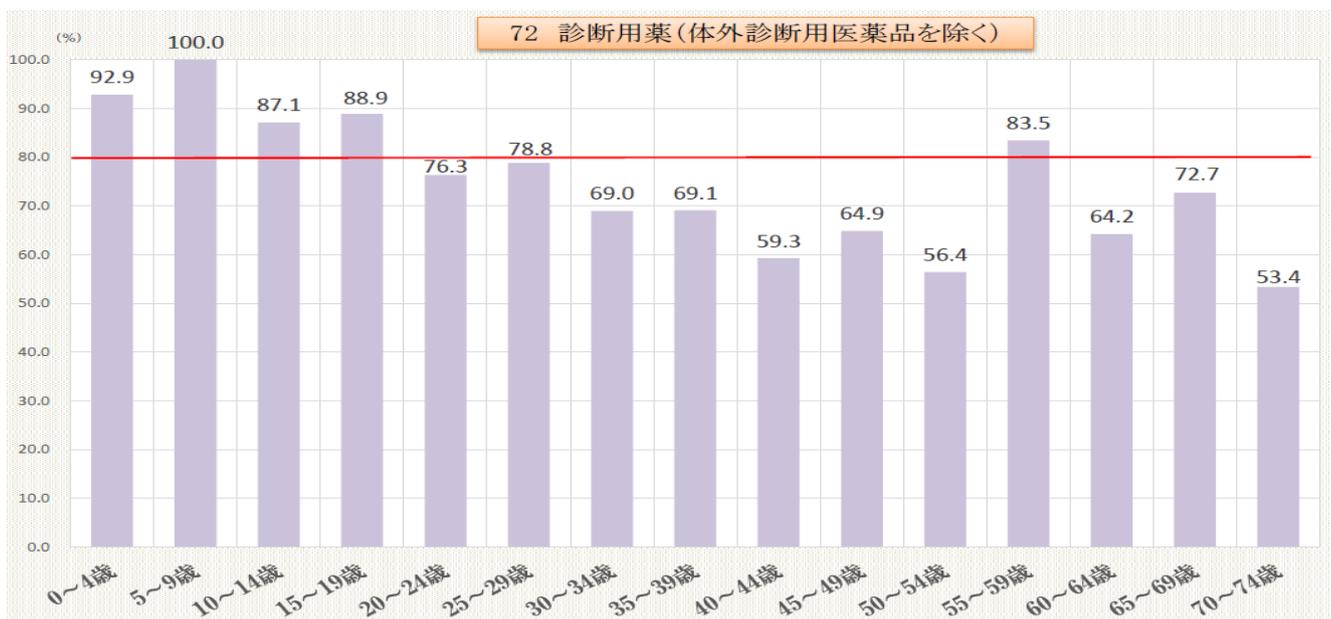
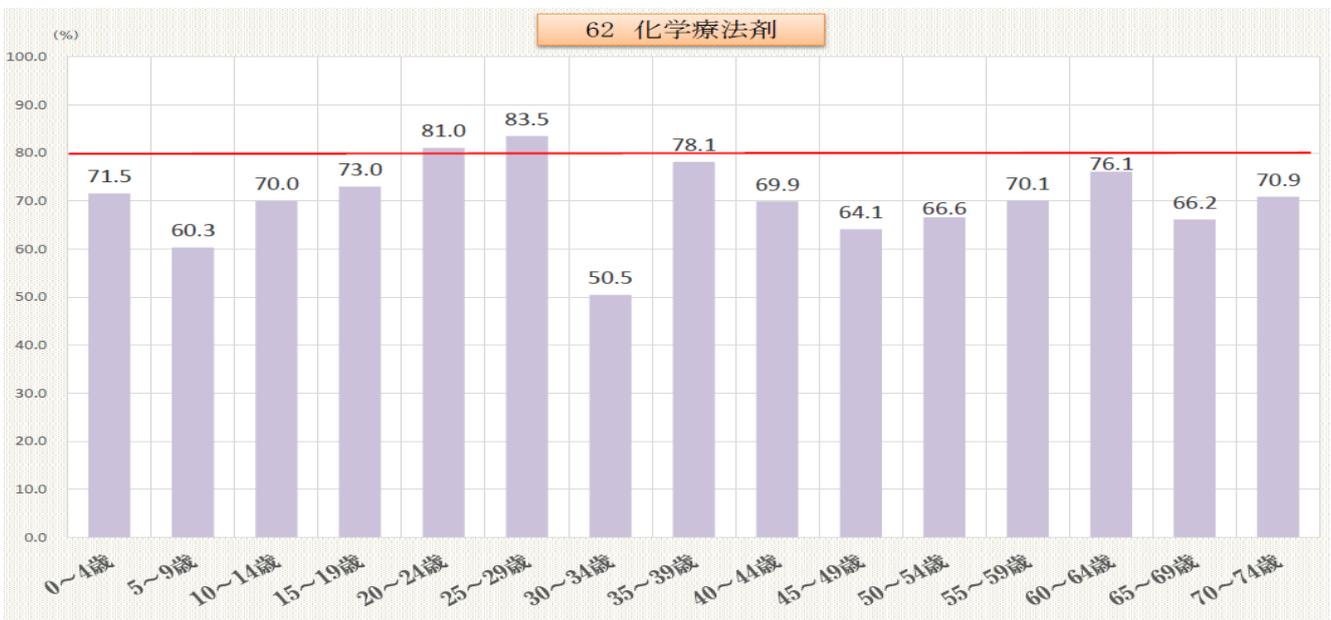
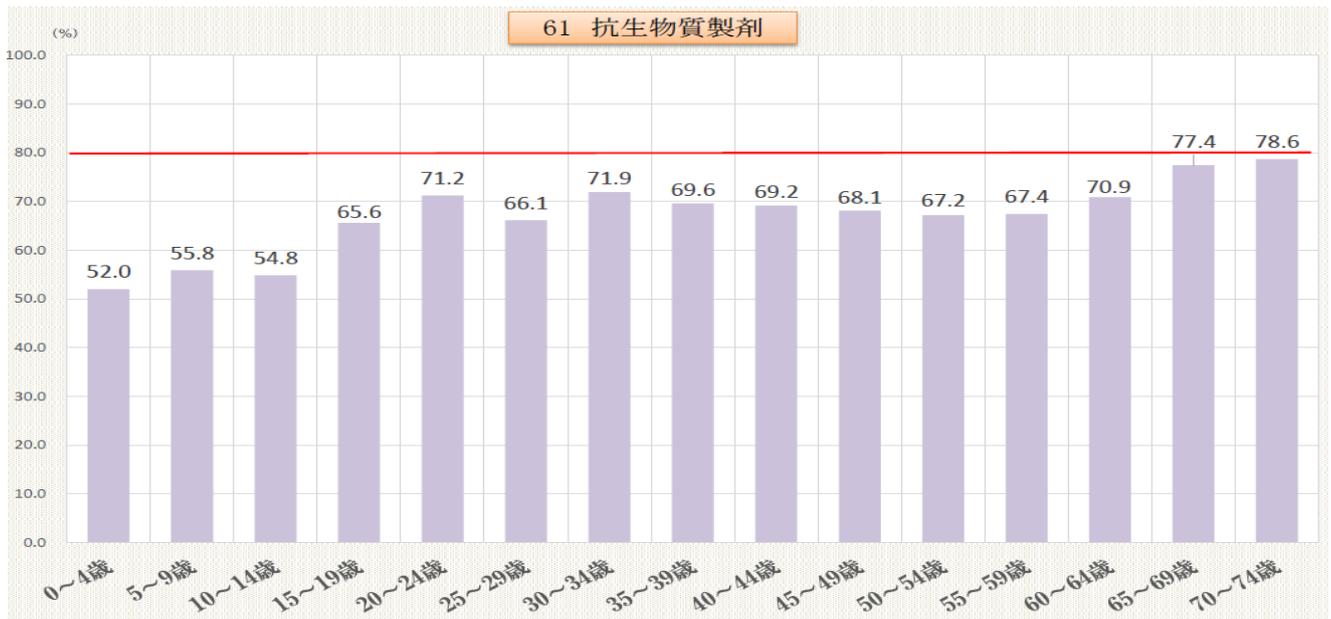
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



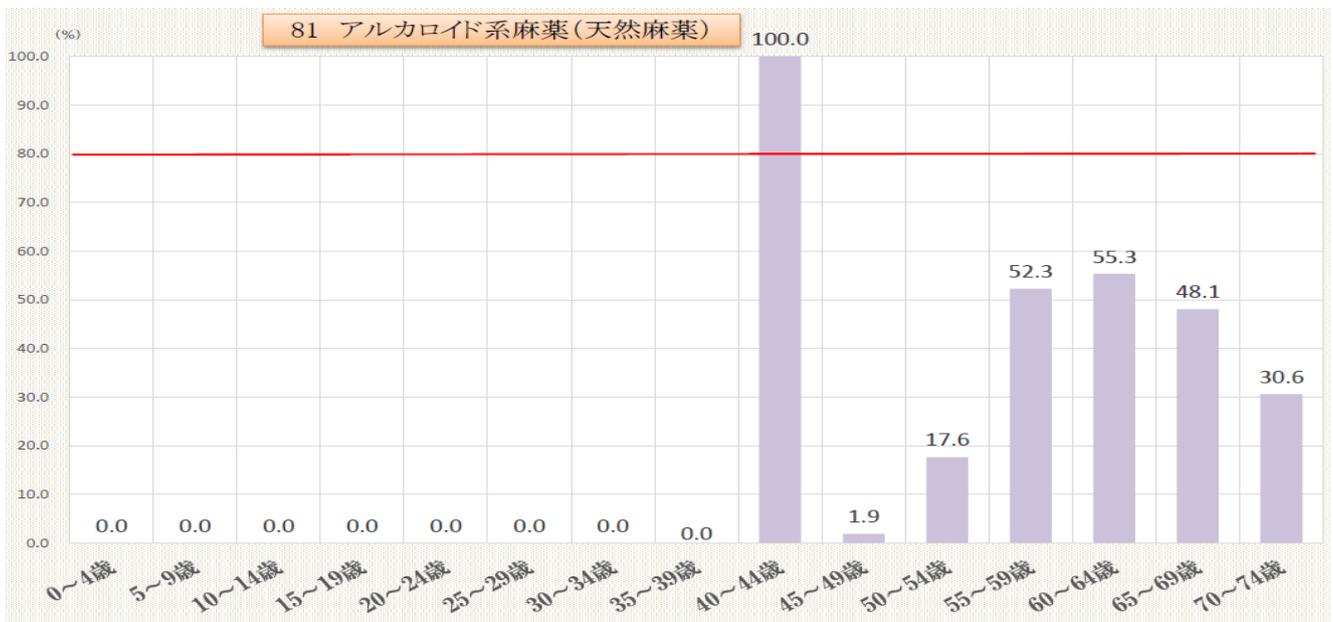
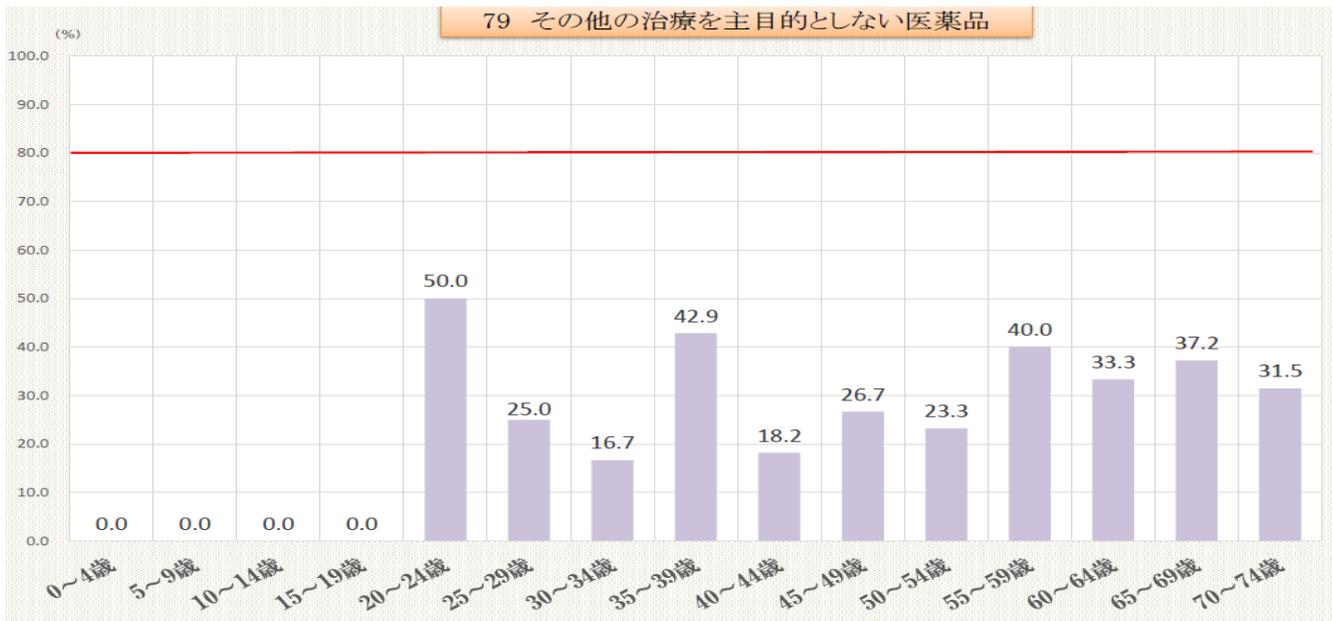
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



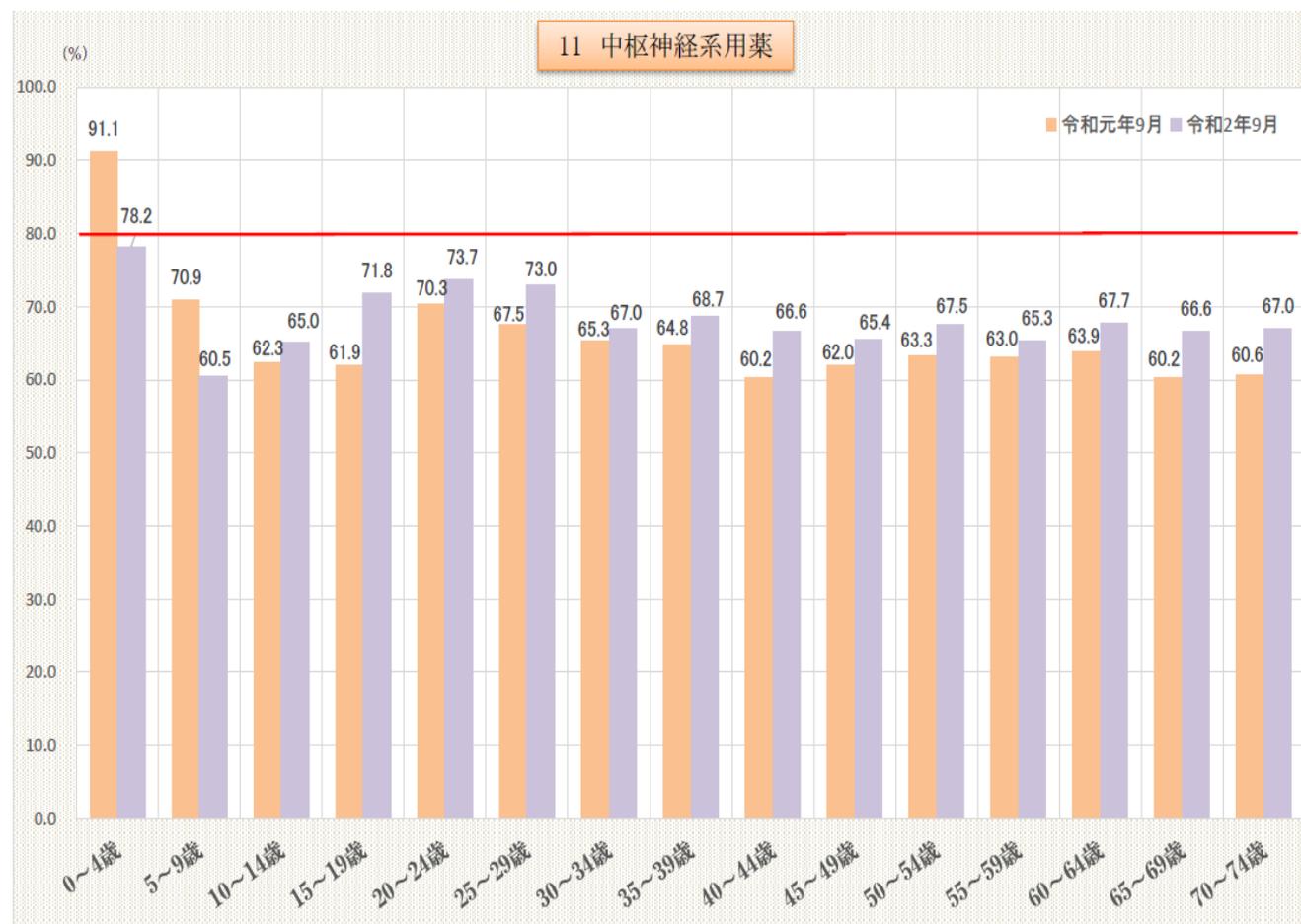
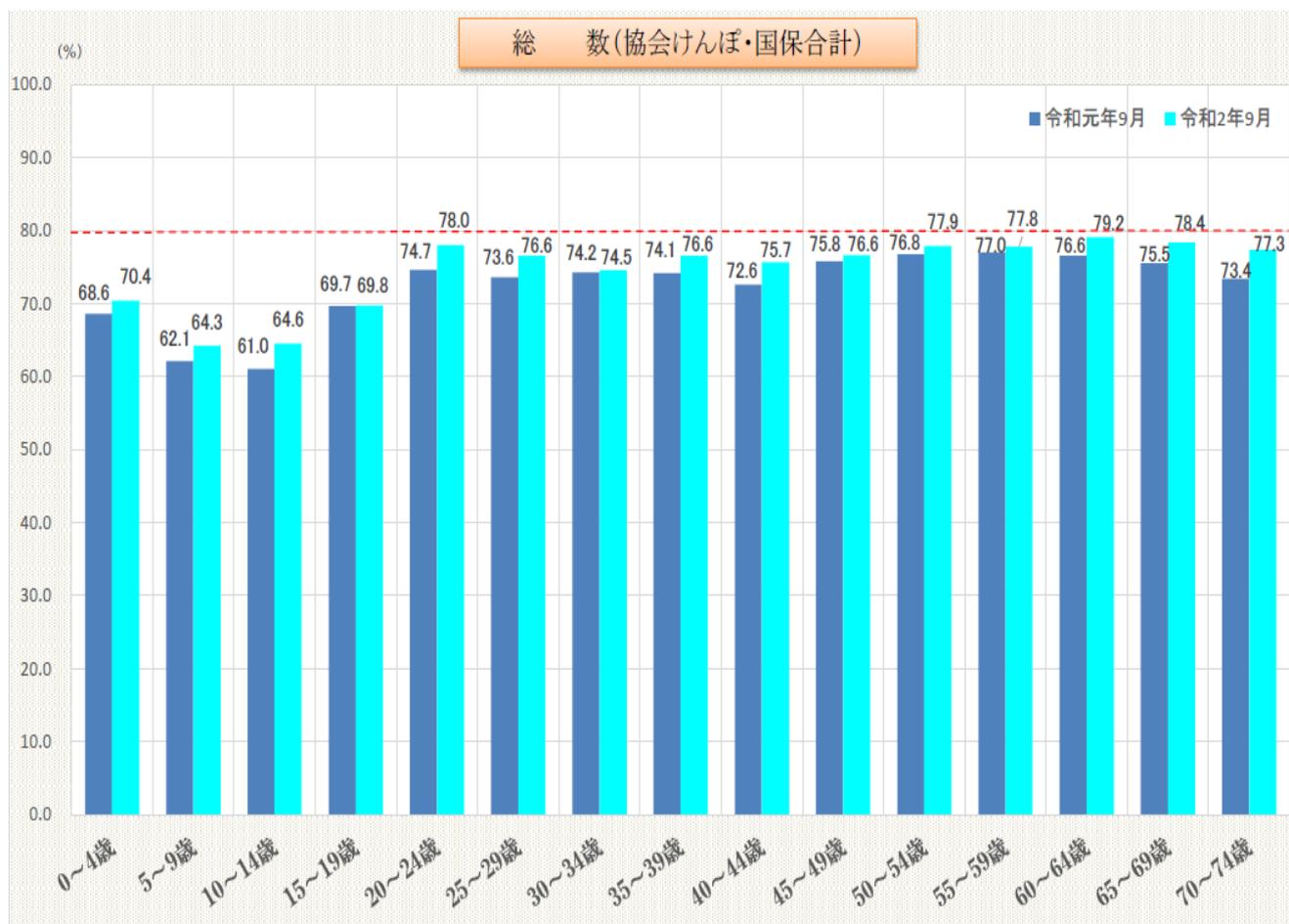
年齢階級別の使用割合

資料No.2-2

薬効分類別	0歳から4歳	5歳から9歳	10歳から14歳	15歳から19歳	20歳から24歳	25歳から29歳	30歳から34歳	35歳から39歳	40歳から44歳	45歳から49歳	50歳から54歳	55歳から59歳	60歳から64歳	65歳から69歳	70歳から74歳
	合計 使用割合(%)														
総数	70.4	64.3	64.6	69.8	78.0	76.6	74.5	76.6	75.7	76.6	77.9	77.8	79.2	78.4	77.3
11 中枢神経系用薬	78.2	60.5	65.0	71.8	73.7	73.0	67.0	68.7	66.6	65.4	67.5	65.3	67.7	66.6	67.0
12 末梢神経系用薬	43.4	81.4	66.8	74.4	71.3	64.3	70.6	73.3	67.2	72.3	68.4	68.3	68.8	69.1	66.6
13 感覚器用薬	69.4	71.6	67.0	74.5	75.6	76.4	50.5	65.5	66.9	69.6	58.8	60.9	62.3	59.8	56.1
19 その他の神経系及び感覚器用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21 循環器用薬	54.9	50.2	45.0	60.4	91.6	89.2	80.0	88.8	88.0	85.4	85.4	84.5	84.0	83.4	81.6
22 呼吸器用薬	77.6	73.4	70.8	75.5	82.2	85.0	84.9	85.8	77.9	79.5	78.2	76.7	77.6	81.5	76.7
23 消化器用薬	87.8	90.0	86.7	86.2	90.4	86.1	88.3	85.2	84.1	85.4	86.4	85.9	86.1	85.6	85.2
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	33.6	41.0	45.6	70.0	88.9	72.8	82.3	85.6	88.3	90.1	74.4	76.6	73.5	70.7	63.3
25 泌尿生殖器用薬及び肛門用薬	80.2	73.8	81.5	79.4	71.0	86.3	74.6	78.4	84.5	71.6	75.5	79.2	81.2	79.5	79.5
26 外皮用薬	52.8	47.8	53.5	48.4	54.3	54.9	56.8	60.4	59.5	62.7	60.9	62.2	63.7	61.3	60.7
27 歯科口腔用薬	—	100.0	100.0	100.0	99.2	99.1	100.0	99.2	97.6	92.9	90.7	93.7	94.2	94.1	92.2
29 その他の個々の器官系用医薬品	—	—	—	—	100.0	—	100.0	—	17.4	50.0	100.0	100.0	60.9	65.1	58.7
31 ビタミン剤	88.2	100.0	78.4	89.4	90.9	89.7	95.6	92.5	88.2	88.9	89.6	85.2	85.6	81.9	80.5
32 滋養強壮薬	97.4	100.0	67.3	85.8	55.7	72.4	72.6	83.1	79.2	76.2	81.1	77.2	91.9	86.3	89.4
33 血液・体液用薬	82.1	77.6	75.2	74.5	89.9	83.3	82.9	84.6	80.4	83.5	85.8	84.6	84.5	82.0	81.0
34 人工透析用薬	100.0	—	—	—	—	—	—	—	100.0	35.5	81.8	0.0	27.6	5.3	22.3
39 その他の代謝性医薬品	58.3	76.4	57.7	62.2	93.8	77.6	74.3	83.5	81.2	82.0	84.0	81.2	81.4	78.5	77.7
41 細胞賦活用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
42 腫瘍用薬	—	100.0	100.0	100.0	—	5.7	100.0	78.7	83.3	90.0	80.5	87.3	80.9	79.2	88.5
43 放射性医薬品	—	—	—	—	—	0.0	—	—	0.0	41.2	—	100.0	—	0.0	31.4
44 アレルギーマネジメント用薬	58.7	54.7	59.9	74.4	79.8	81.2	78.5	78.9	79.4	77.2	76.5	77.3	77.3	76.4	76.9
49 その他の組織細胞機能用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
51 生薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
52 漢方製剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
61 抗生物質製剤	52.0	55.8	54.8	65.6	71.2	66.1	71.9	69.6	69.2	68.1	67.2	67.4	70.9	77.4	78.6
62 化学療法剤	71.5	60.3	70.0	73.0	81.0	83.5	50.5	78.1	69.9	64.1	66.6	70.1	76.1	66.2	70.9
63 生物学的製剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
64 寄生動物用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
69 その他の病原生物に対する医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
71 調剤用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	92.9	100.0	87.1	88.9	76.3	78.8	69.0	69.1	59.3	64.9	56.4	83.5	64.2	72.7	53.4
73 公衆衛生用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
74 体外診断用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
79 その他の治療を主目的としない医薬品	—	—	—	50.0	—	25.0	16.7	42.9	18.2	26.7	23.3	40.0	33.3	37.2	31.5
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	—	—	—	—	—	—	0.0	—	100.0	1.9	17.6	52.3	55.3	48.1	30.6
82 非アルカロイド系麻薬	52.9	67.0	87.5	69.0	74.0	87.6	45.6	32.8	52.5	61.5	27.2	27.7	55.8	27.9	37.4

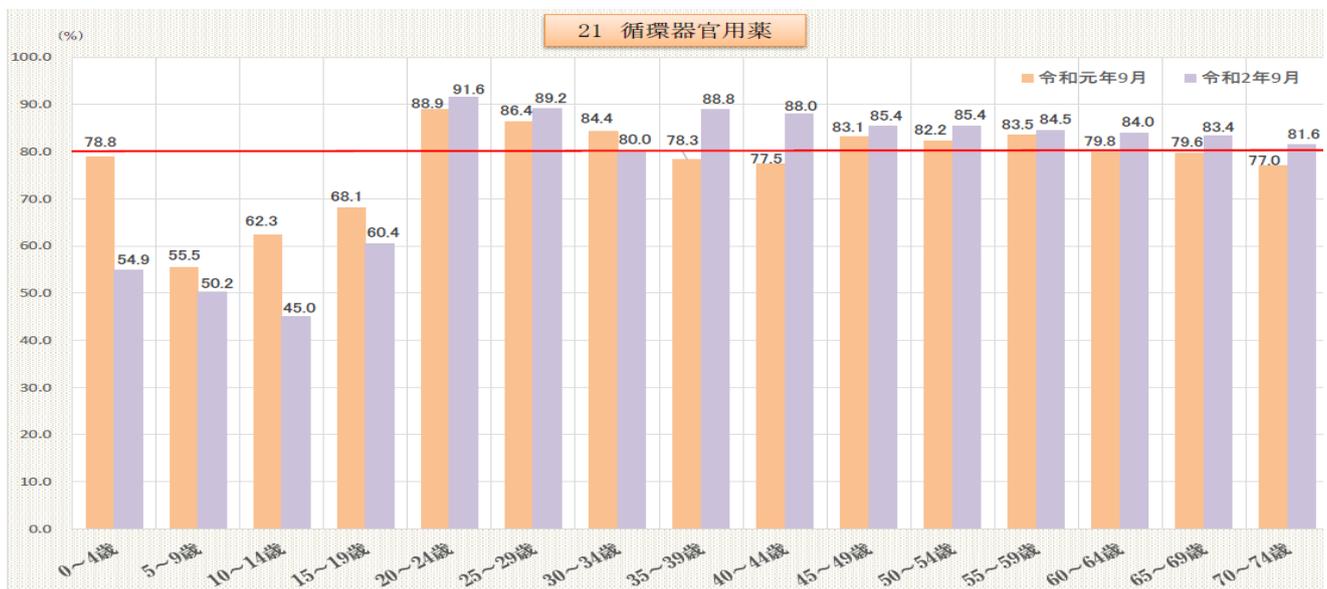
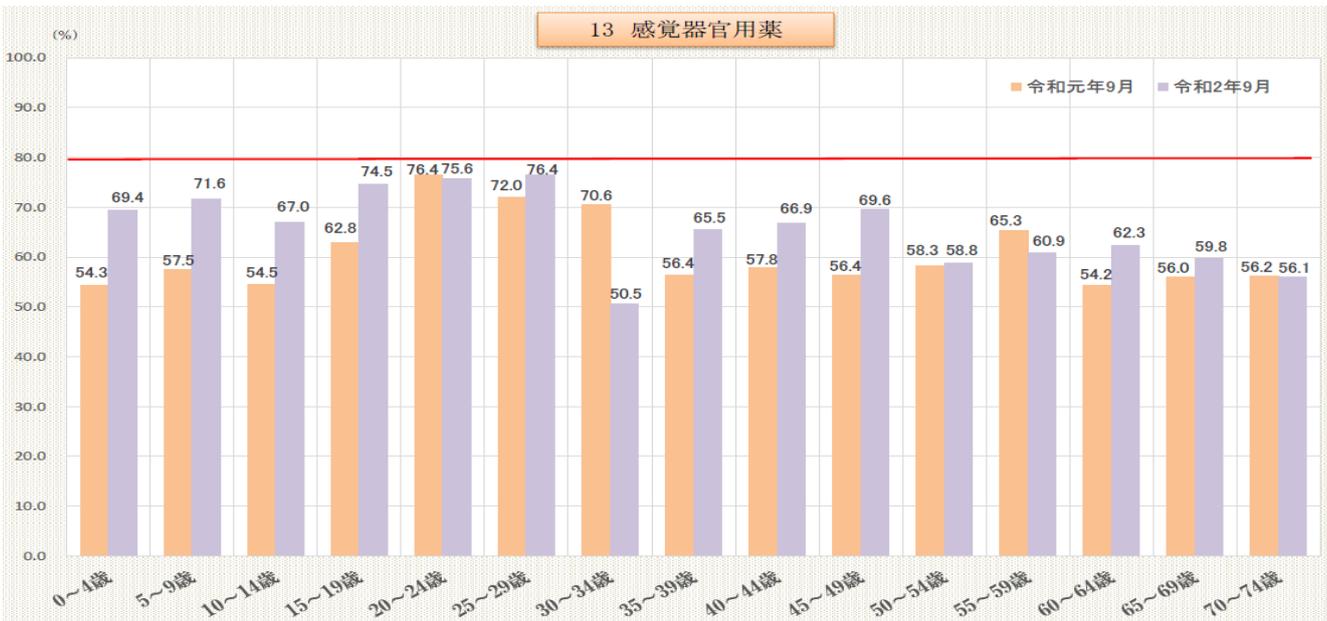
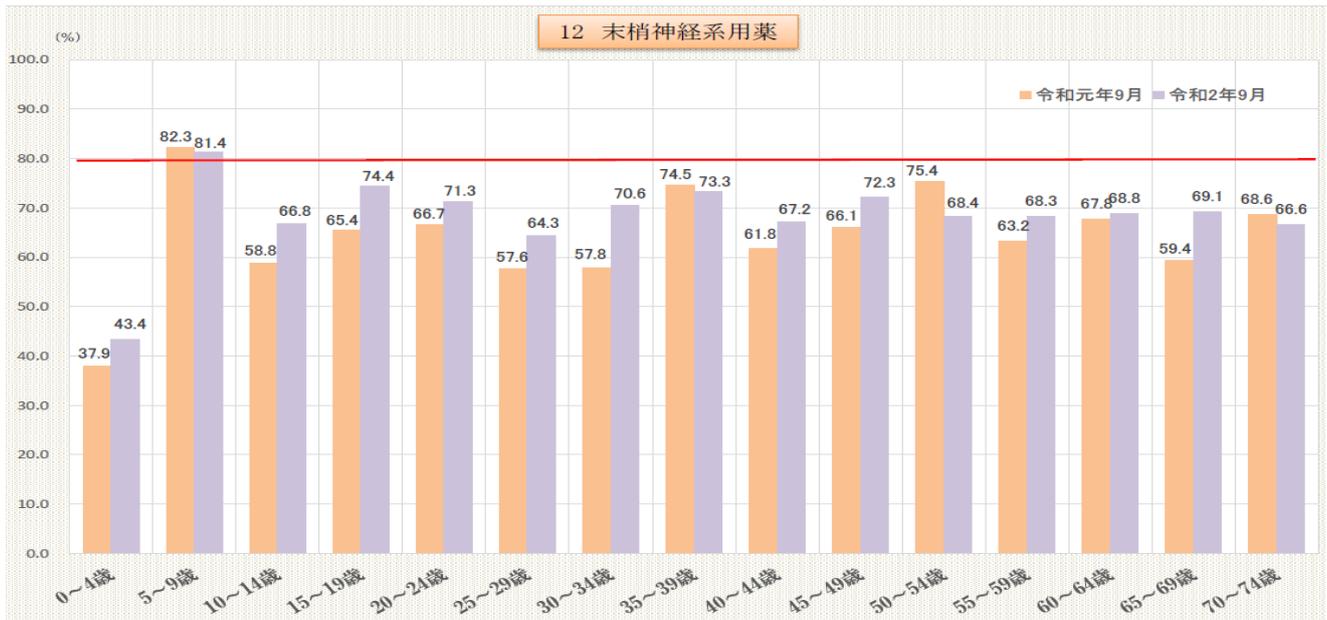
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



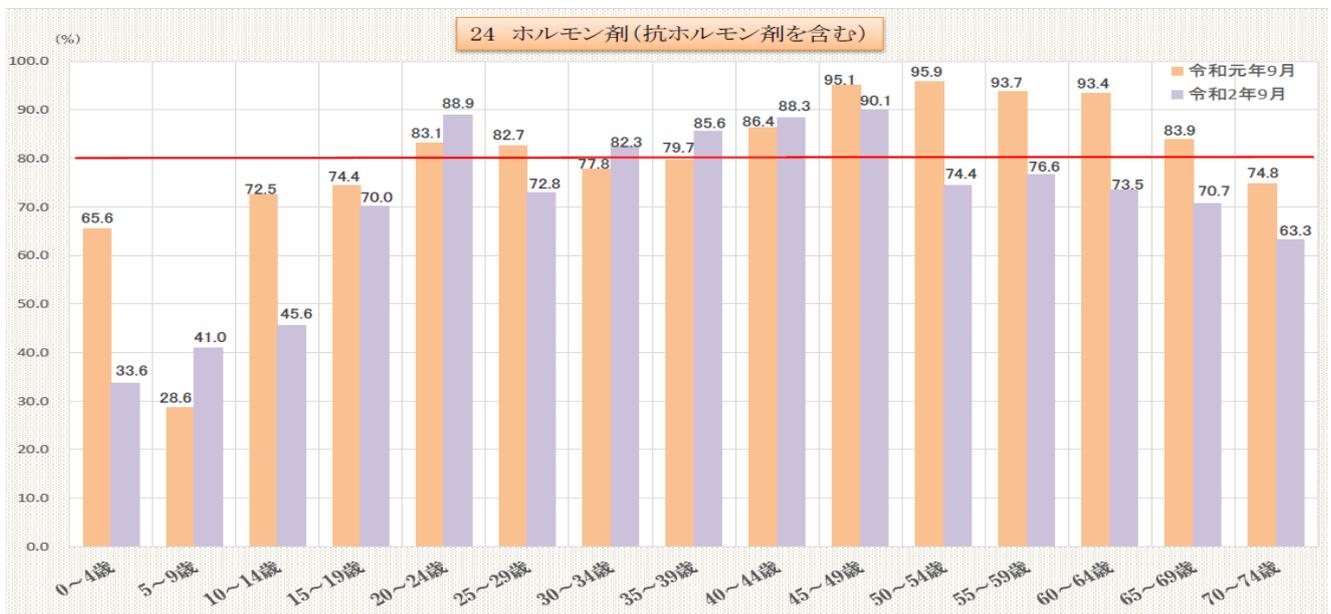
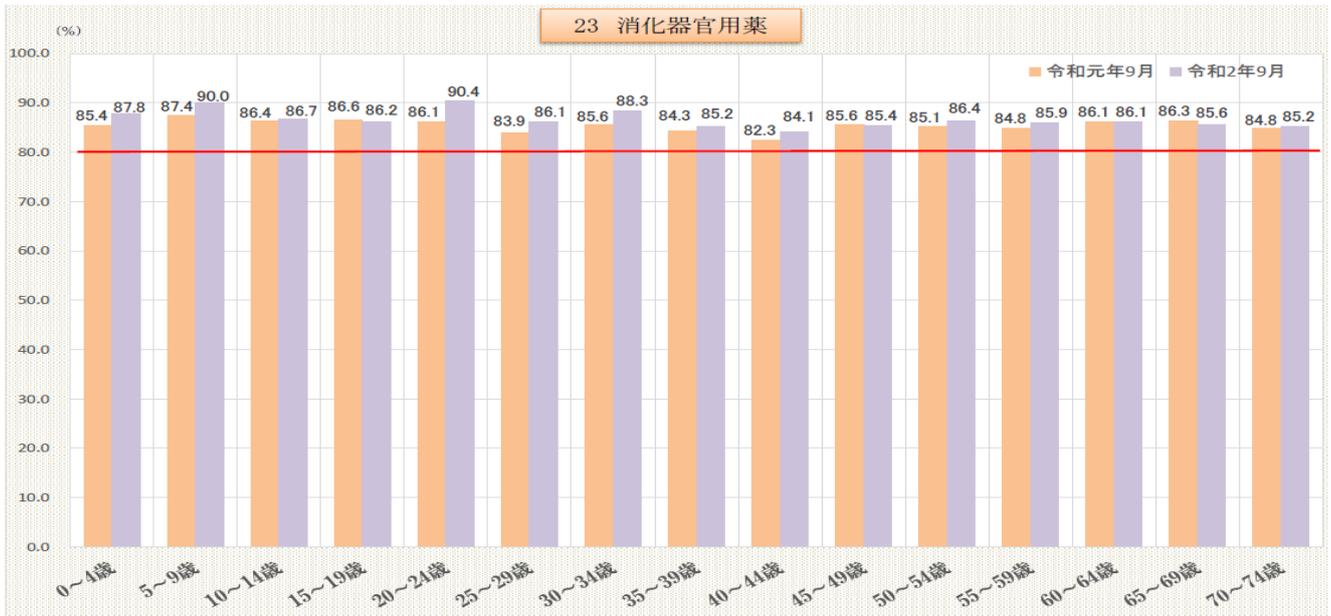
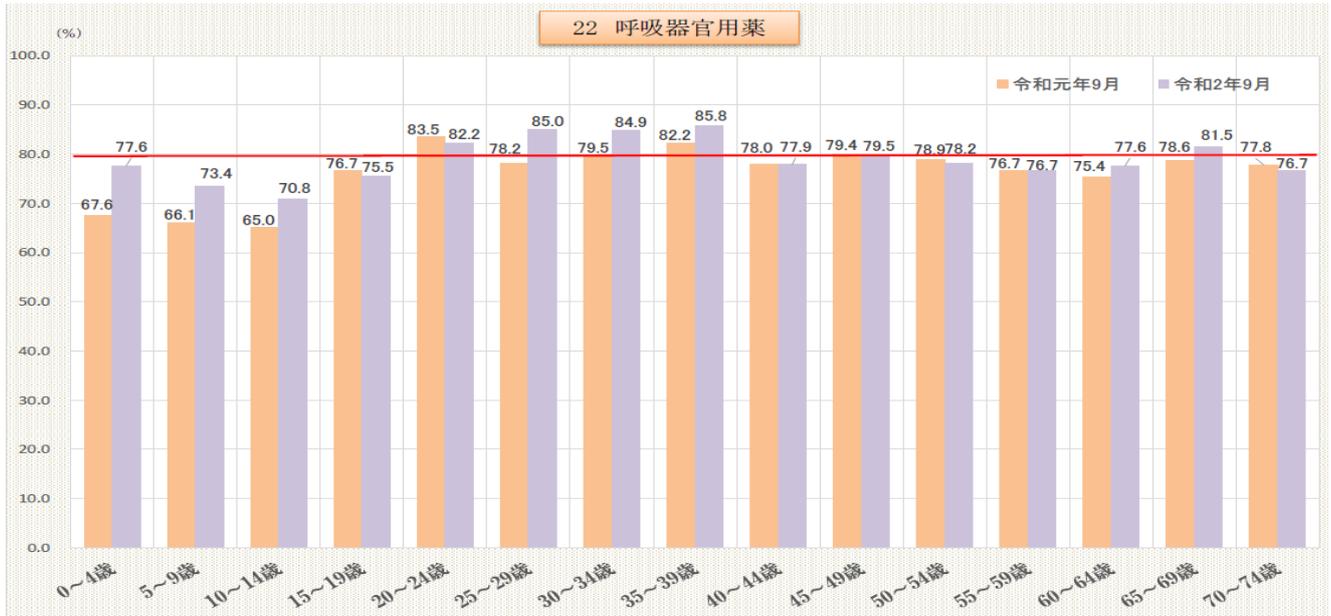
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



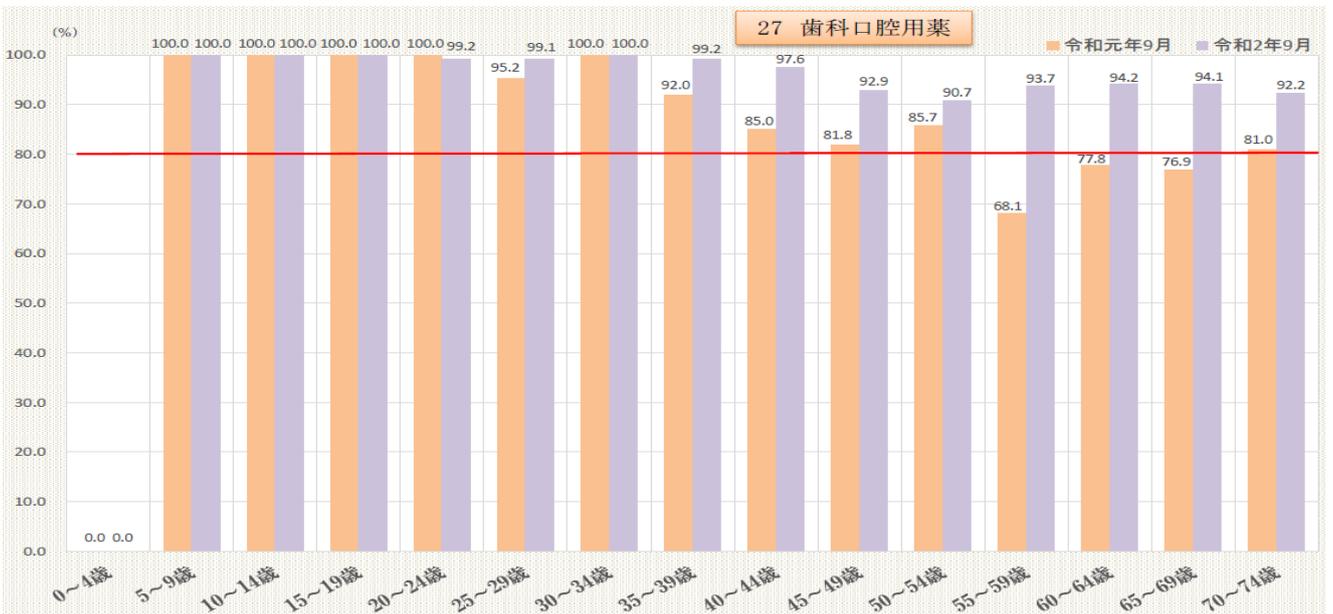
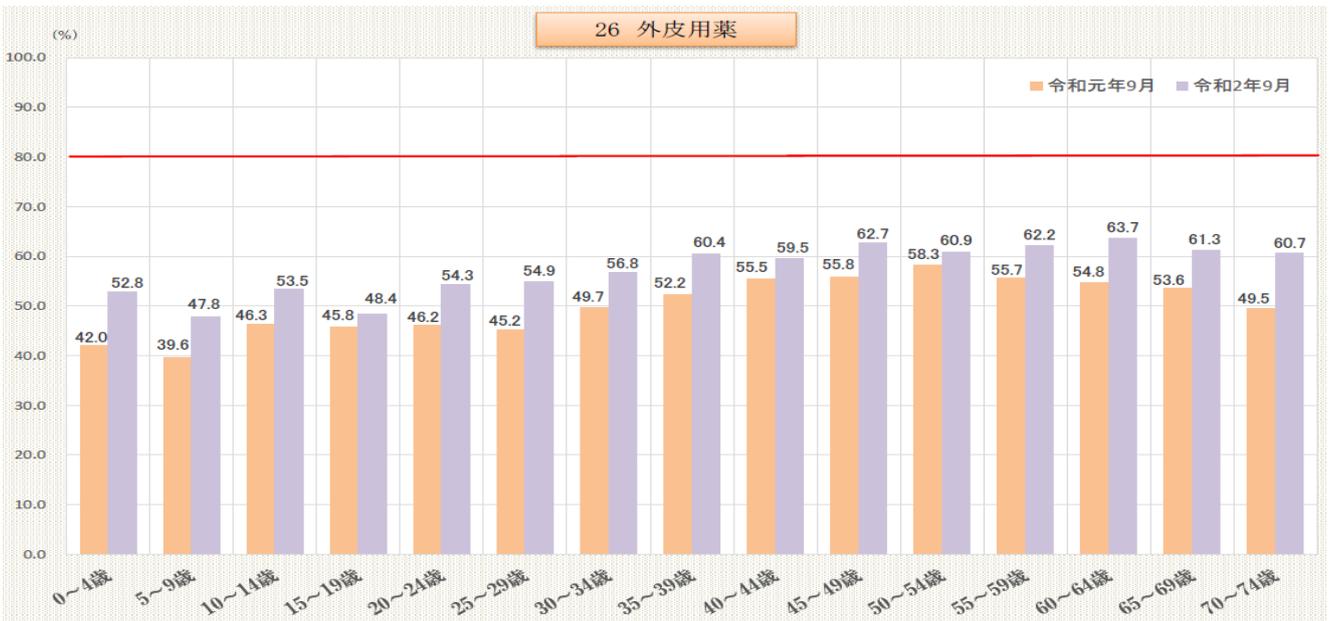
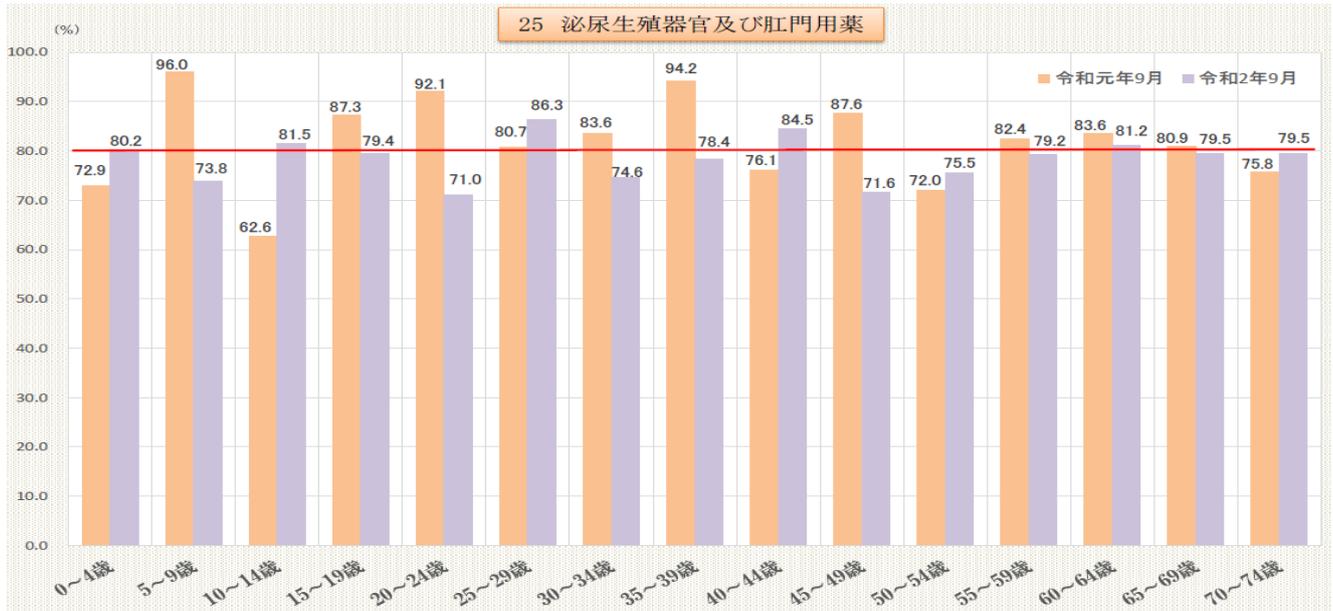
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



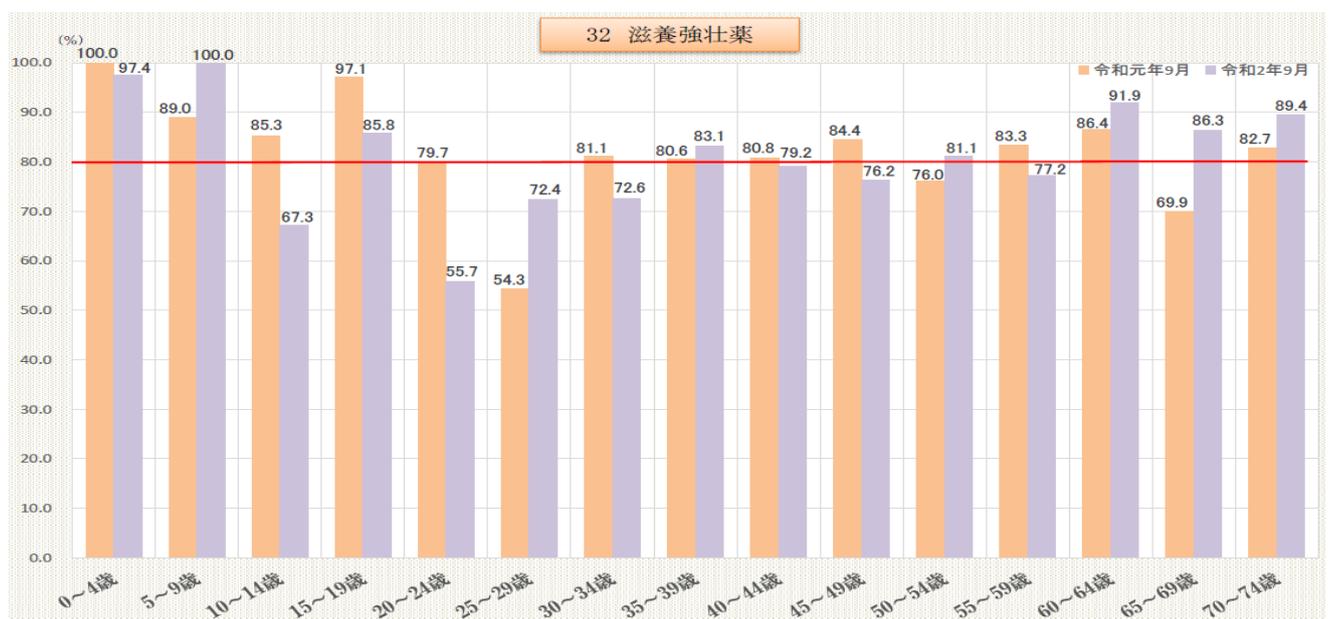
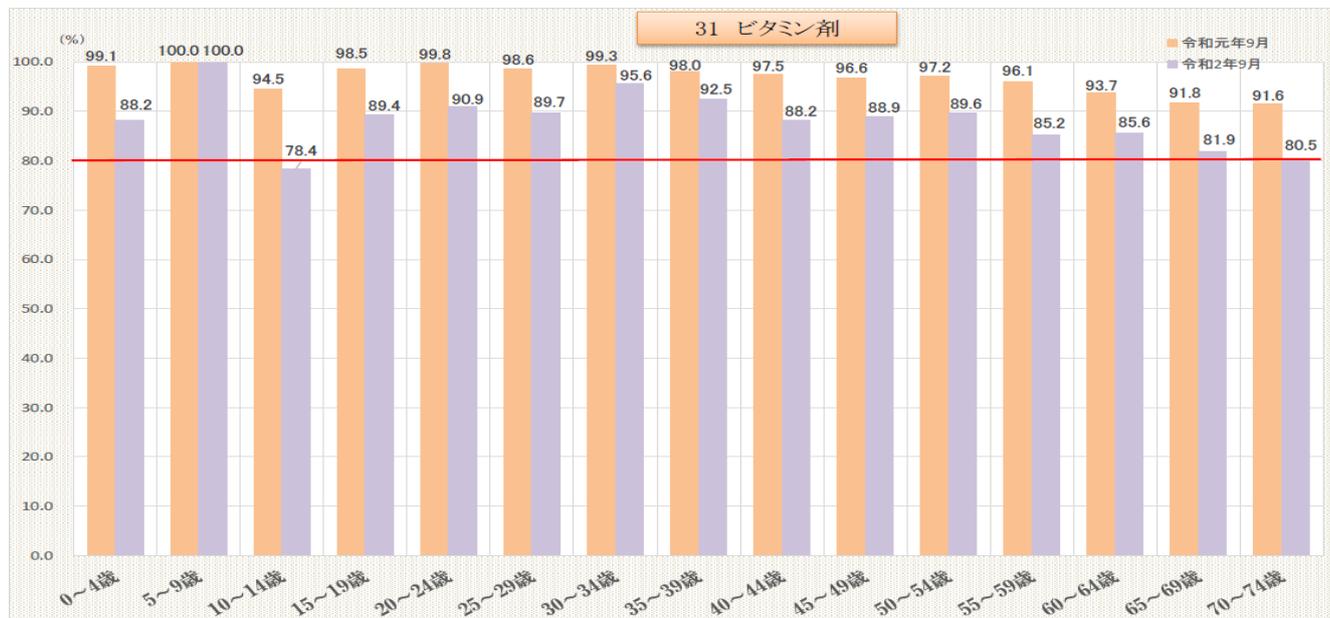
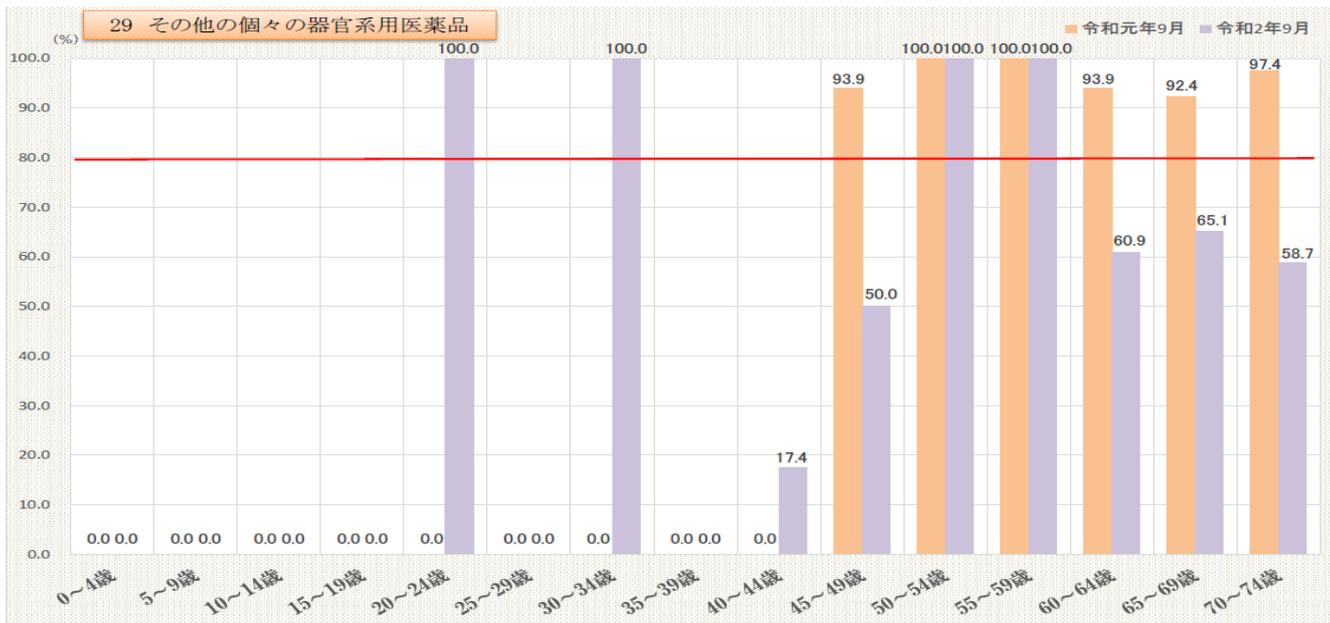
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



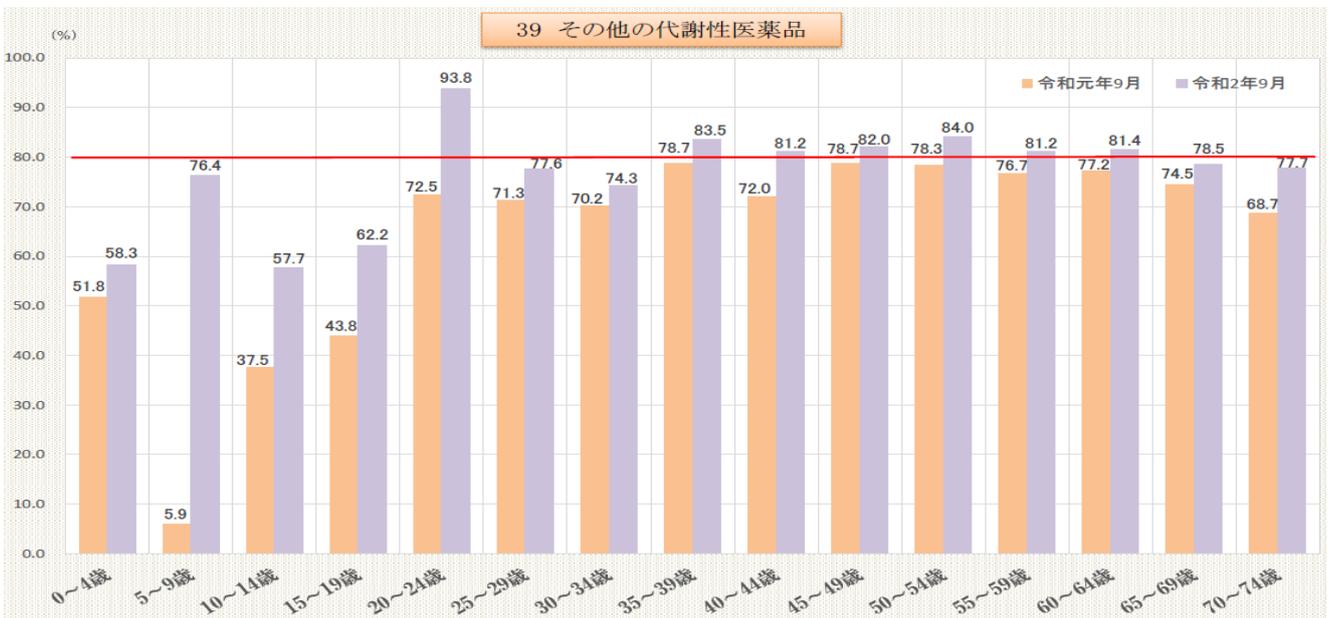
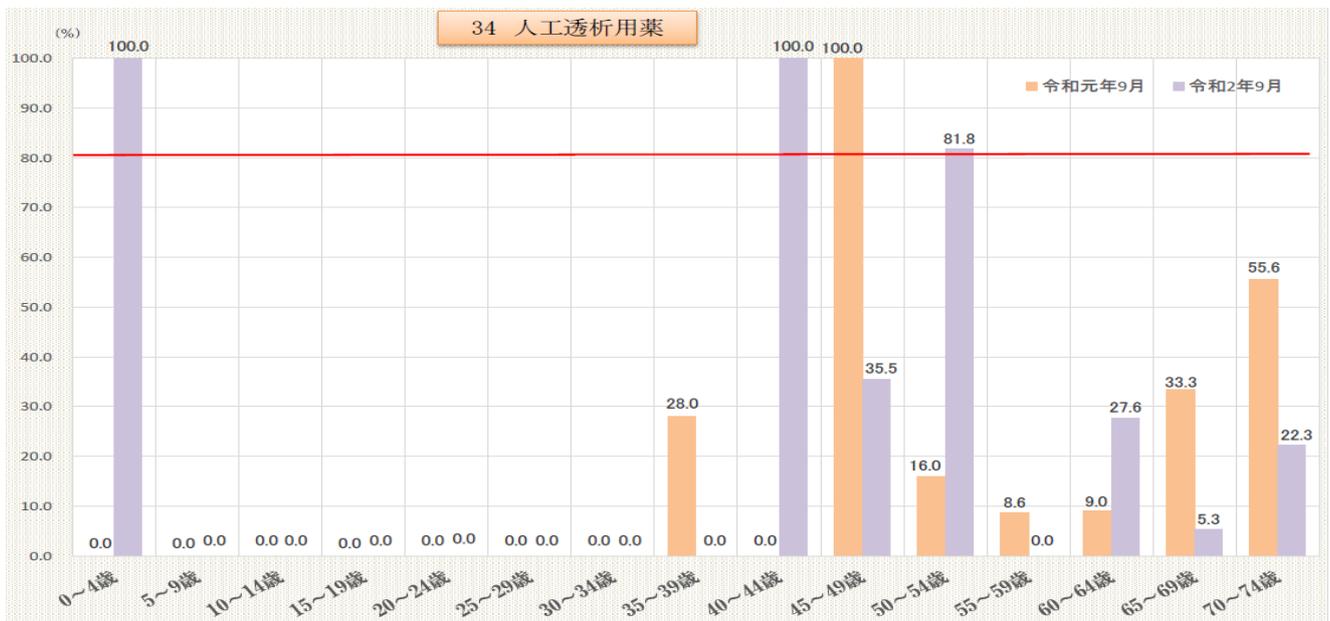
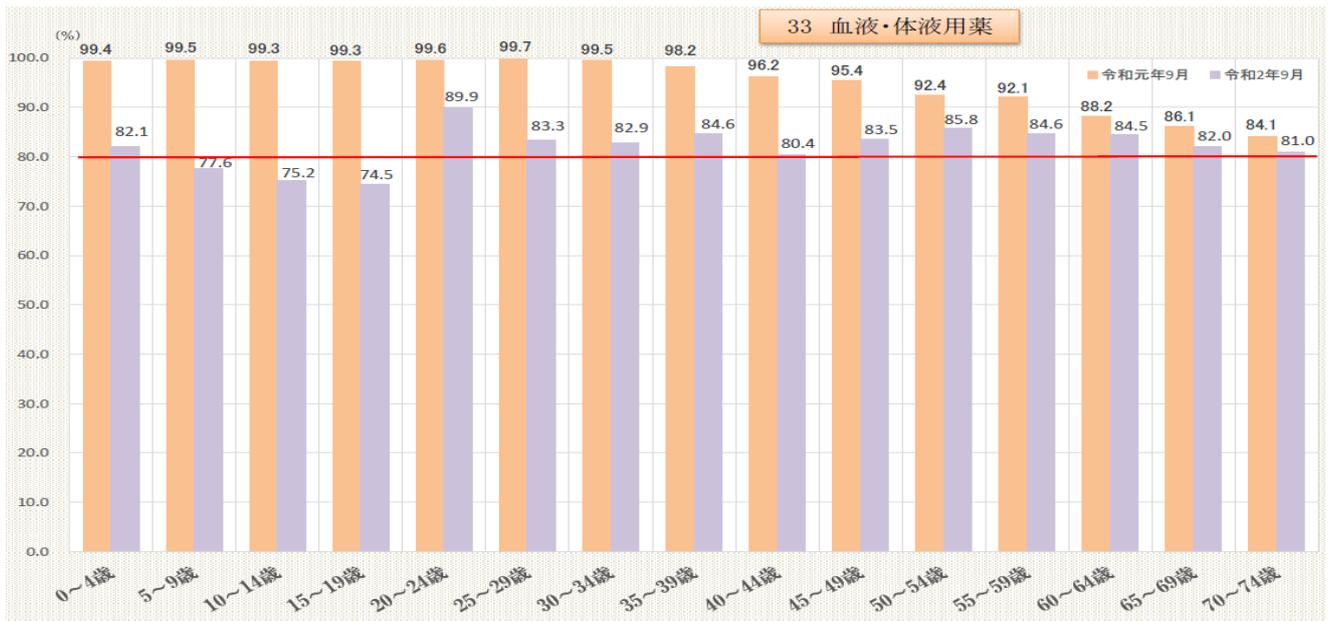
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



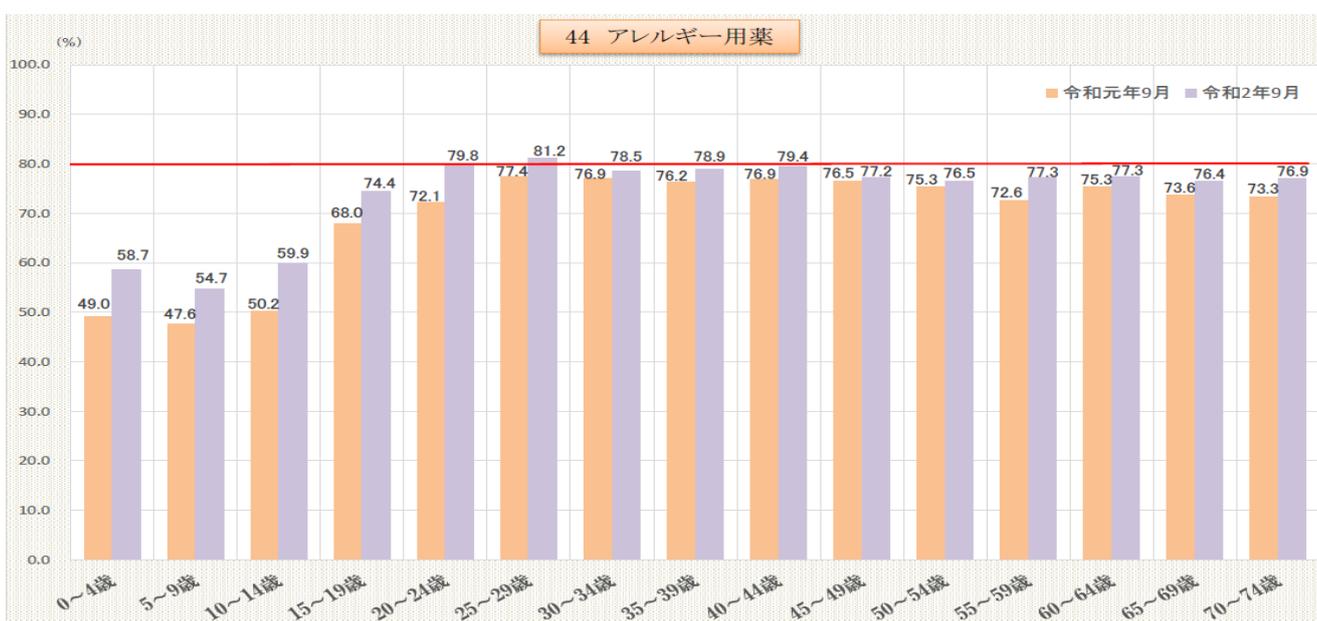
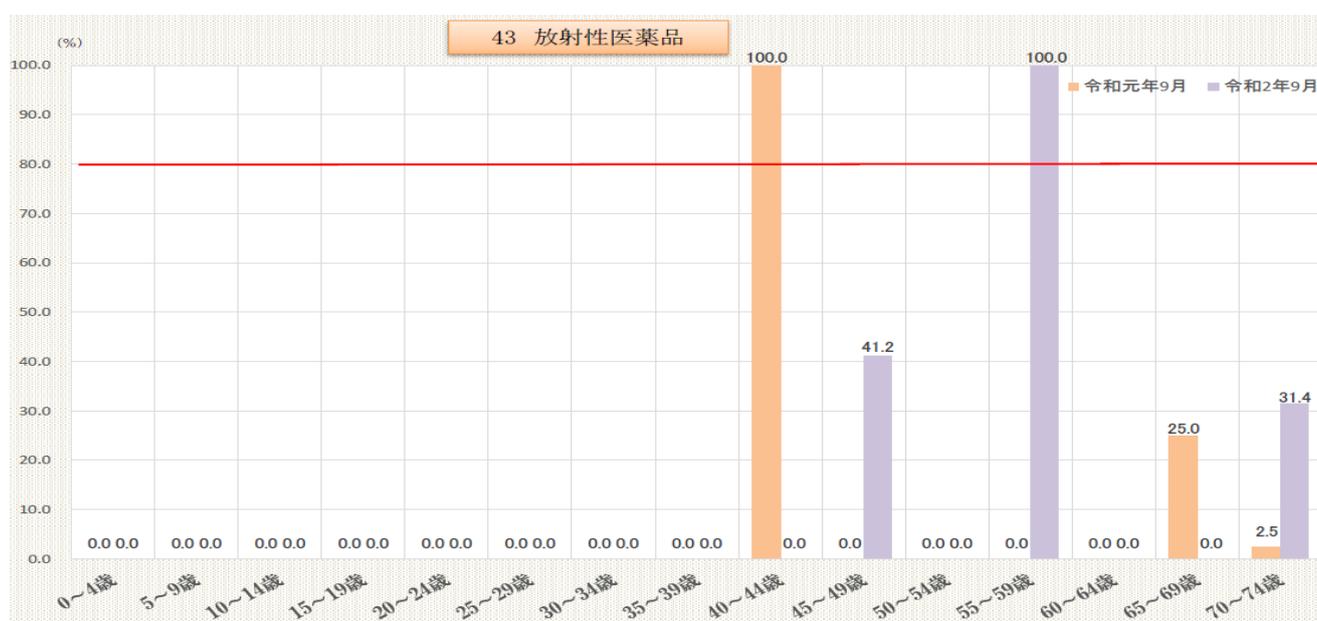
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



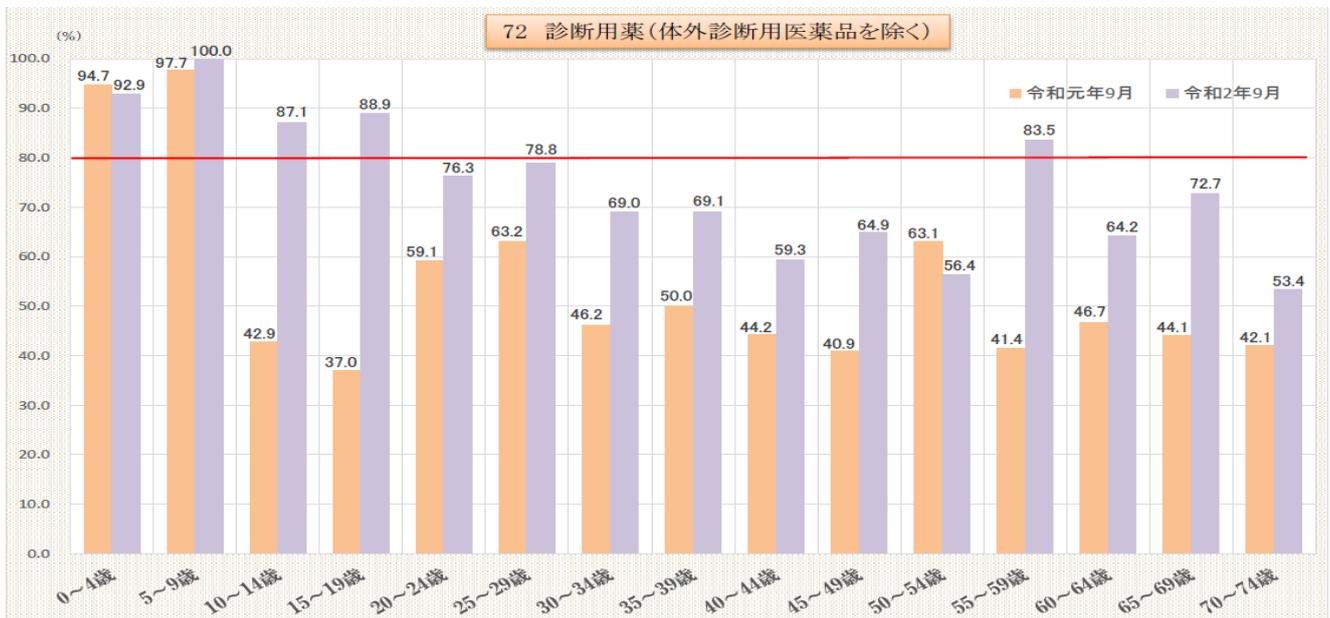
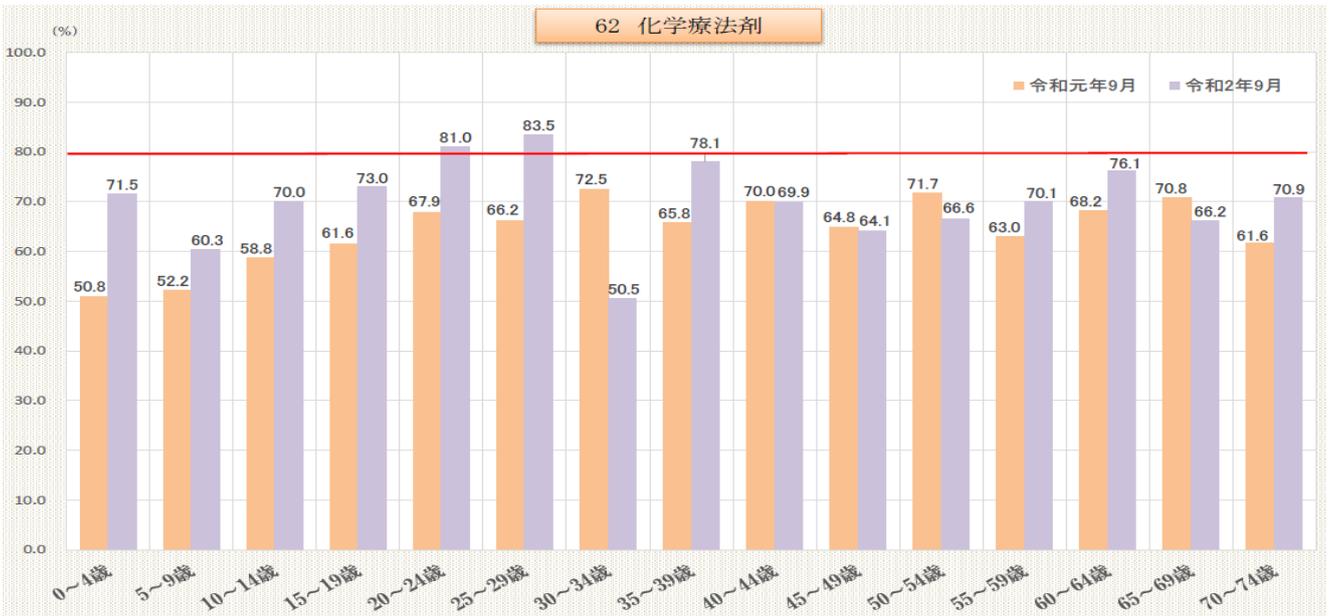
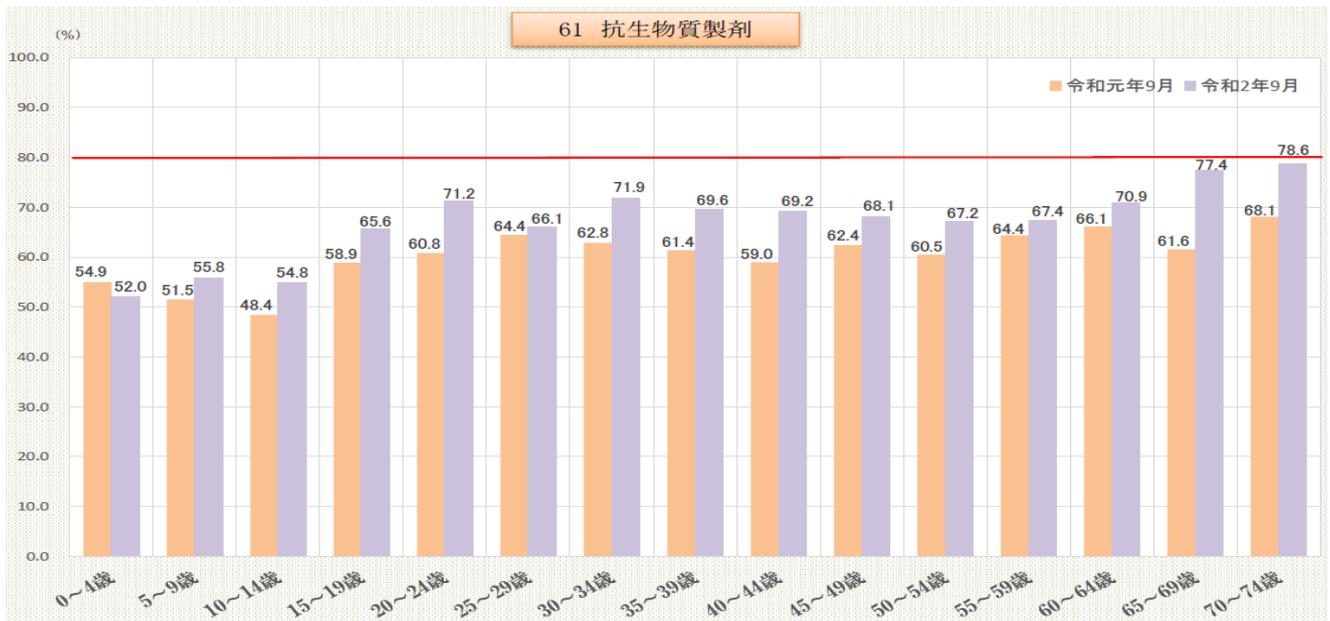
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



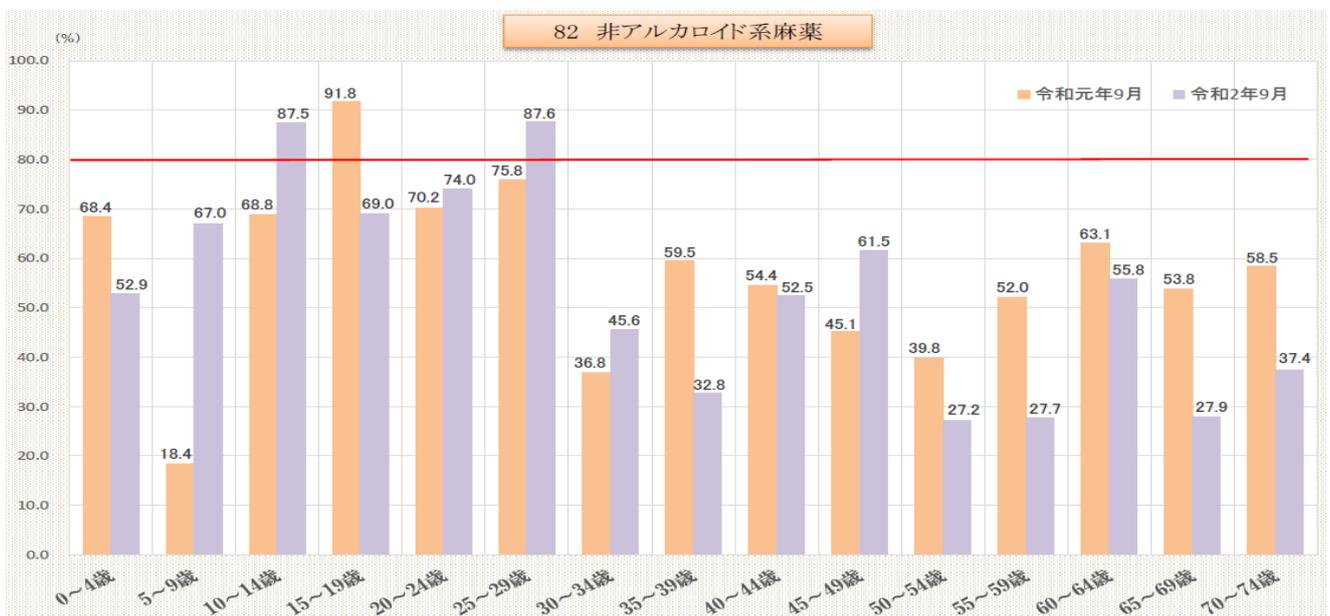
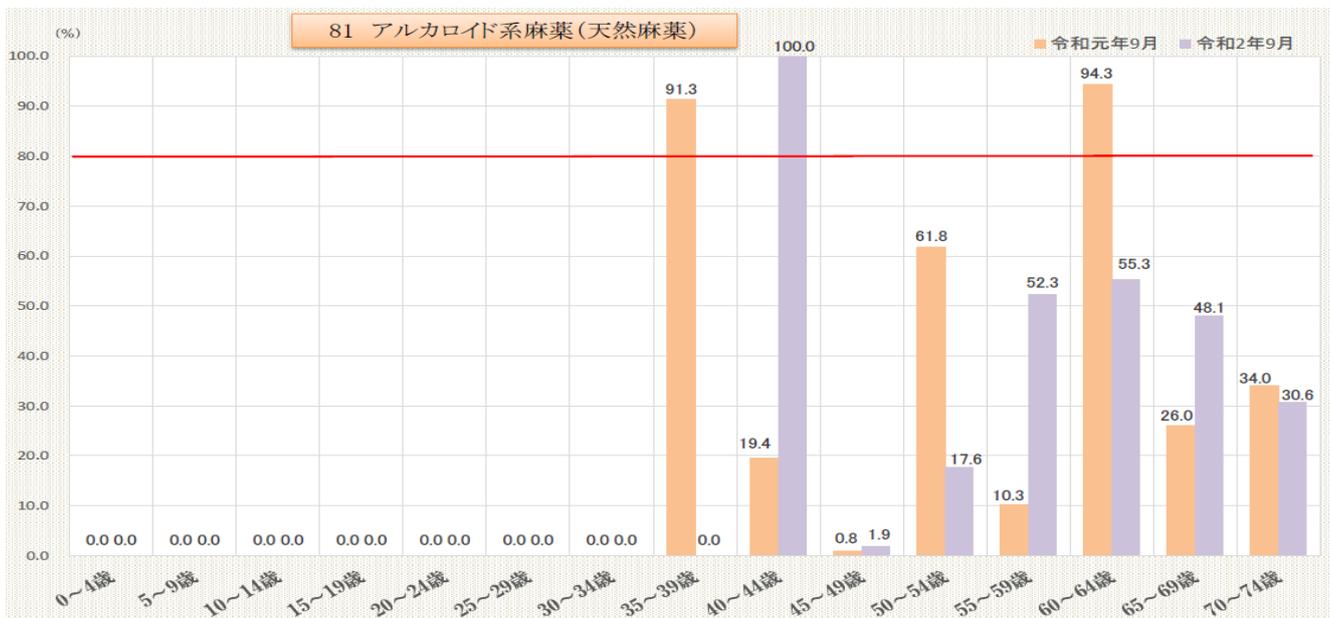
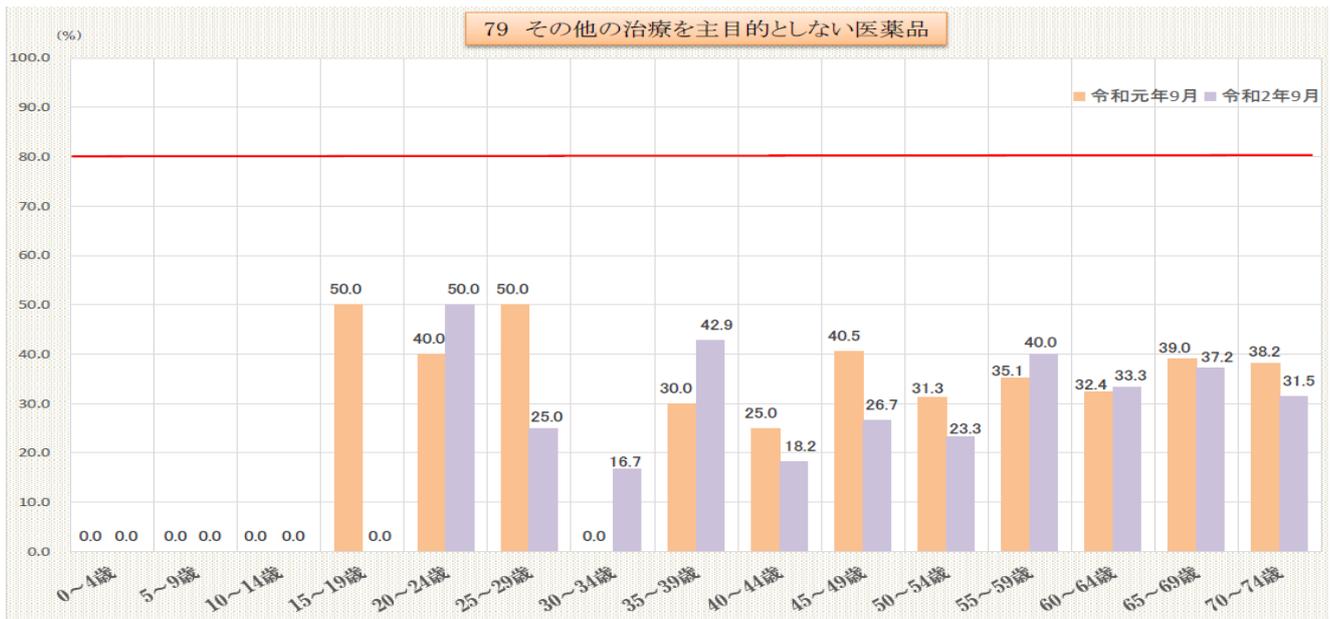
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



年齢階級別の使用割合(対前年度比)

薬効分類別	診療月	年齢階級別の使用割合(対前年度比)																
		0歳から4歳 使用割合(%)	5歳から9歳 使用割合(%)	10歳から14歳 使用割合(%)	15歳から19歳 使用割合(%)	20歳から24歳 使用割合(%)	25歳から29歳 使用割合(%)	30歳から34歳 使用割合(%)	35歳から39歳 使用割合(%)	40歳から44歳 使用割合(%)	45歳から49歳 使用割合(%)	50歳から54歳 使用割合(%)	55歳から59歳 使用割合(%)	60歳から64歳 使用割合(%)	65歳から69歳 使用割合(%)	70歳から74歳 使用割合(%)		
総数	令和元年9月	68.6	62.1	61.0	69.7	74.7	73.6	74.2	74.1	72.6	75.8	76.8	76.6	76.6	75.5	73.4		
	令和2年9月	70.4	64.3	64.6	69.8	78.0	76.6	74.5	76.6	75.7	76.6	77.9	79.2	78.1	78.1	77.3		
	差	1.8	2.2	3.5	0.1	3.4	2.9	0.3	2.0	1.2	0.8	1.2	0.8	2.6	2.9	3.9		
11 中枢神経系用薬	令和元年9月	91.1	70.9	62.3	61.9	70.3	67.5	65.3	64.8	60.2	62.0	63.3	63.9	63.9	60.2	60.6		
	令和2年9月	78.2	60.5	65.0	71.8	73.0	73.0	67.0	68.7	66.6	65.1	67.3	67.7	66.6	67.0	67.0		
	差	△12.9	△10.4	2.7	9.8	3.4	5.5	1.7	3.9	3.4	4.2	4.2	2.3	3.8	6.4	6.4		
12 末梢神経系用薬	令和元年9月	37.9	82.3	58.8	65.4	66.7	57.6	57.8	74.5	61.8	66.1	75.4	63.2	67.8	59.4	68.6		
	令和2年9月	43.4	81.4	66.8	74.4	71.3	64.3	70.6	73.3	67.2	72.3	68.4	68.3	68.8	69.1	66.6		
	差	5.5	△0.9	8.0	9.0	4.7	6.7	12.8	6.1	5.4	6.1	△1.0	5.1	1.0	9.7	△2.0		
13 感覚器用薬	令和元年9月	54.3	57.5	54.5	62.8	76.4	72.0	70.6	56.4	57.8	56.4	58.3	54.2	54.2	56.0	56.2		
	令和2年9月	69.4	71.6	67.0	74.5	75.6	76.4	50.5	65.5	66.9	69.6	58.8	62.3	59.8	56.1	56.1		
	差	15.1	14.1	12.4	11.7	△0.8	4.4	△20.0	9.1	13.2	13.2	0.5	△4.4	8.0	3.7	△0.1		
19 その他の神経系及び 感覚器用医薬品	令和元年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
21 循環器用薬	令和元年9月	78.8	55.5	62.3	68.1	88.9	86.4	84.4	78.3	77.5	83.1	82.2	79.8	79.6	77.0	77.0		
	令和2年9月	54.9	50.2	45.0	60.4	91.6	89.2	80.0	88.8	88.0	85.4	85.4	84.0	83.4	83.4	81.6		
	差	△23.9	△5.3	△17.3	△17.7	2.7	2.8	△4.4	10.5	10.5	2.3	3.1	1.0	4.2	3.8	4.5		
22 呼吸器用薬	令和元年9月	67.6	73.4	70.8	75.5	82.2	85.0	84.9	85.8	78.2	79.4	78.9	76.7	75.4	78.6	77.8		
	令和2年9月	77.6	73.4	70.8	75.5	82.2	85.0	84.9	85.8	78.2	79.4	78.9	76.7	75.4	78.6	77.8		
	差	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
23 消化器用薬	令和元年9月	85.4	87.4	86.4	86.6	86.1	83.9	85.6	84.3	82.3	85.6	85.1	84.8	86.1	86.3	84.8		
	令和2年9月	87.8	90.0	86.7	86.2	90.4	86.1	88.3	85.2	84.1	85.4	86.4	86.1	86.1	85.6	85.2		
	差	2.4	2.6	0.3	△0.4	4.2	2.2	2.7	0.9	1.7	△0.2	1.2	1.1	△0.0	△0.7	0.4		
24 ホルモン剤(初ホルモン剤を含む)	令和元年9月	65.6	28.6	72.5	74.4	83.1	82.7	77.8	79.7	86.4	95.1	95.9	93.7	93.4	83.9	74.8		
	令和2年9月	33.6	41.0	45.6	74.0	88.9	72.8	74.4	82.3	88.3	90.1	76.6	76.6	73.5	70.7	63.3		
	差	△31.9	12.4	△27.0	△14.4	5.8	△9.8	4.6	5.9	2.0	△5.0	△21.5	△17.1	△19.9	△13.2	△11.5		
25 泌尿生殖器及び視覚用薬	令和元年9月	72.9	96.0	62.6	87.3	92.1	86.3	83.6	94.2	76.1	87.6	82.4	83.6	80.9	75.8	75.8		
	令和2年9月	80.2	73.8	81.5	79.4	71.0	86.3	74.6	78.4	84.5	71.6	75.5	81.2	81.2	79.5	79.5		
	差	7.3	△22.2	18.9	△17.9	△21.0	△15.8	△9.0	△15.8	8.4	△16.0	△3.2	△2.5	△2.5	△1.4	3.7		
26 外皮用薬	令和元年9月	42.0	39.6	46.3	45.8	46.2	45.2	49.7	52.2	55.5	55.8	58.3	55.7	54.8	53.6	49.5		
	令和2年9月	52.8	47.8	53.5	48.4	54.3	54.9	56.8	60.4	59.5	62.7	60.9	62.2	63.7	61.3	60.7		
	差	10.8	8.2	7.2	2.6	8.1	9.7	7.1	8.2	4.0	6.9	2.6	6.5	8.9	7.7	11.2		
27 歯科口腔用薬	令和元年9月	—	100.0	100.0	100.0	100.0	95.2	100.0	92.0	85.7	81.8	88.1	77.8	76.9	81.0	81.0		
	令和2年9月	—	100.0	100.0	100.0	99.2	99.1	100.0	99.2	97.6	92.9	90.7	94.2	94.1	92.2	92.2		
	差	—	0.0	0.0	0.0	△0.8	3.9	0.0	7.2	12.6	11.1	5.0	25.6	16.4	17.1	11.3		
29 その他の種々の薬品 用医薬品	令和元年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
31 ビタミン剤	令和元年9月	99.1	100.0	94.5	98.5	99.8	98.6	99.3	98.0	97.5	96.6	97.2	96.1	91.8	91.6	80.5		
	令和2年9月	88.2	100.0	78.4	89.4	90.9	89.7	95.6	92.5	88.2	88.9	89.6	85.2	85.6	81.9	80.5		
	差	△10.9	0.0	△16.1	△12.2	△0.9	△1.1	△5.7	△4.5	△0.7	△0.7	△1.7	△0.6	△0.0	△0.7	△11.1		
32 滋養増進薬	令和元年9月	100.0	89.0	85.3	97.1	79.7	54.3	81.1	80.6	80.8	84.4	83.3	86.4	86.4	69.9	82.7		
	令和2年9月	97.4	100.0	67.3	85.8	55.7	72.4	72.6	83.1	79.2	76.2	77.2	91.9	86.3	86.3	89.4		
	差	△2.6	11.0	△18.0	△11.3	△24.0	18.1	△8.5	2.5	△1.7	△0.4	0.5	5.5	0.0	0.0	6.7		
33 血液・体液用薬	令和元年9月	99.4	99.5	99.3	99.3	99.6	99.7	99.7	98.2	96.2	95.4	92.4	88.2	86.1	84.1	84.1		
	令和2年9月	82.1	77.6	75.2	74.5	89.9	83.3	82.9	84.6	80.4	83.5	85.8	84.5	82.0	81.0	81.0		
	差	△17.3	△21.9	△24.0	△24.8	△9.7	△16.4	△16.6	△15.8	△15.8	△11.9	△6.6	△3.7	△4.0	△4.0	△3.1		
34 人工透析用薬	令和元年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	令和2年9月	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
39 その他の代謝性医薬品	令和元年9月	51.8	5.9	37.5	43.8	72.5	71.3	70.2	78.7	72.0	78.7	76.7	77.2	74.5	68.7	68.7		
	令和2年9月	58.3	76.1	57.7	62.2	93.8	77.6	74.3	83.5	81.2	82.0	81.2	81.4	78.5	77.7	77.7		
	差	6.5	70.4	20.2	18.4	21.3	6.3	4.1	5.8	9.2	3.3	4.5	4.3	4.0	9.1	9.1		
41 細胞賦活用薬	令和元年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		

年齢階級別の使用割合(対前年度比)

薬効分類別	診療月	年齢階級別の使用割合(対前年度比)															
		0歳から4歳 使用割合(%)	5歳から9歳 使用割合(%)	10歳から14歳 使用割合(%)	15歳から19歳 使用割合(%)	20歳から24歳 使用割合(%)	25歳から29歳 使用割合(%)	30歳から34歳 使用割合(%)	35歳から39歳 使用割合(%)	40歳から44歳 使用割合(%)	45歳から49歳 使用割合(%)	50歳から54歳 使用割合(%)	55歳から59歳 使用割合(%)	60歳から64歳 使用割合(%)	65歳から69歳 使用割合(%)	70歳から74歳 使用割合(%)	
42 腫瘍用薬	令和元年9月	100.0	—	—	—	—	33.5	62.6	56.3	78.7	76.7	69.6	74.8	84.2	75.0		
	令和2年9月	—	100.0	—	—	—	5.7	100.0	83.3	90.0	80.5	87.3	80.9	79.2	88.5		
	差	—	—	—	—	—	△ 27.7	37.4	4.6	13.3	6.1	17.7	6.1	△ 5.0	13.5		
43 放射線医薬品	令和元年9月	—	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—		
	令和2年9月	—	—	—	—	—	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—		
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
44 アレルギイ用薬	令和元年9月	49.0	47.6	50.2	68.0	72.1	77.4	76.9	76.2	76.5	75.3	72.6	75.3	73.6	73.3		
	令和2年9月	58.7	54.7	59.9	74.4	79.8	81.2	78.5	79.4	77.2	76.5	77.3	77.3	76.4	76.9		
	差	9.7	7.2	9.7	6.4	7.6	3.8	1.6	2.6	2.5	0.7	4.6	2.1	2.8	3.6		
49 その他の組織細胞機能用医薬品	令和元年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
51 生薬	令和元年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
52 漢方製剤	令和元年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	令和元年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
61 抗生物質製剤	令和元年9月	54.9	51.5	48.4	58.9	60.8	64.4	62.8	61.4	59.0	62.4	60.5	66.1	61.6	68.1		
	令和2年9月	52.0	55.8	54.8	65.6	71.2	66.1	71.9	69.6	69.2	68.1	67.2	70.9	77.4	78.6		
	差	△ 3.0	4.3	6.4	6.8	10.4	1.7	9.1	8.2	10.2	5.7	6.7	4.8	15.9	10.6		
62 化学療法剤	令和元年9月	50.8	52.2	58.8	61.6	67.9	66.2	72.3	65.8	70.0	64.8	71.7	68.2	70.8	61.6		
	令和2年9月	71.5	60.3	70.0	73.0	81.0	83.5	50.5	78.1	69.9	64.1	66.6	76.1	66.2	70.9		
	差	20.7	8.1	11.3	11.4	13.1	17.3	△ 22.0	12.3	△ 0.1	△ 0.6	△ 5.1	8.0	△ 4.6	9.2		
63 生物学的製剤	令和元年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
64 畜生動物用薬	令和元年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
69 その他の病原生物に対する医薬品	令和元年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
71 調剤用薬	令和元年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	令和元年9月	94.7	97.7	42.9	37.0	59.1	63.2	46.2	50.0	44.2	40.9	41.4	46.7	44.1	42.1		
	令和2年9月	92.9	100.0	87.1	88.9	76.3	78.8	69.0	69.3	59.3	64.9	83.5	64.2	72.7	53.4		
	差	△ 1.9	2.3	44.2	51.9	17.2	15.7	22.8	19.1	15.1	24.0	42.0	17.5	28.6	11.3		
73 公衆衛生用薬	令和元年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
74 体外診断用医薬品	令和元年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
79 その他の治療を主目的とした医薬品	令和元年9月	—	—	—	50.0	40.0	50.0	0.0	30.0	25.0	40.5	31.3	32.4	39.0	38.2		
	令和2年9月	—	—	—	50.0	50.0	16.7	16.7	42.9	18.2	26.7	23.3	33.3	37.2	31.5		
	差	—	—	—	—	10.0	△ 25.0	16.7	12.9	△ 6.8	△ 13.9	△ 8.0	0.9	△ 1.8	△ 6.7		
81 アレルギイ系(天然麻薬)	令和元年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
82 非アルコール系系麻薬	令和元年9月	68.4	18.4	68.8	91.8	70.2	75.8	36.8	59.5	54.4	45.1	39.8	63.1	53.8	58.5		
	令和2年9月	52.9	67.0	87.5	69.0	74.0	87.6	45.6	32.8	52.5	61.5	27.2	55.8	27.9	37.4		
	差	△ 15.5	48.6	18.8	△ 22.8	3.8	11.8	8.8	△ 26.7	△ 2.0	16.3	△ 12.6	△ 24.3	△ 25.9	△ 21.1		

4. 統計分析 (3)若年層における薬効分類別の使用割合

(資料No.3-1、3-2、3-3、3-4)

《若年層(0歳から19歳)における使用割合の薬剤の状況》

- 若年層での使用割合が高い薬剤については、歯科口腔用薬、ビタミン剤、滋養強壮剤、診断用薬【体外診断医薬品を除く】の使用割合が高い結果となりました。
- 若年層での使用割合が低い薬剤については、ホルモン剤【抗ホルモン剤を含む】、外皮用薬、循環器官用薬、その他の代謝性医薬品、抗生物質製剤、アレルギー用薬という結果となりました。

《年齢階級別の使用割合の高い薬剤の状況》

- 0歳から19歳の年齢階級において使用割合が高い薬剤は、0歳から4歳は人工透析用薬 100.0%、滋養強壮薬 97.4%、診断用薬【体外診断用医薬品を除く】92.9%でした。
- 5歳から9歳は歯科口腔用薬 100%、ビタミン剤 100.0%、滋養強壮薬 100%、腫瘍用薬 100%、診断用薬(体外診断用医薬品を除く)100%、でした。
- 10歳から14歳は歯科口腔用薬 100%、腫瘍用薬 100.0%、非アルカロイド系麻薬 87.5%でした。
- 15歳から19歳は歯科口腔用薬 100%、腫瘍用薬 100.0%、ビタミン剤 89.4%でした。

《年齢階級別の使用割合の低い薬剤の状況》

- 0歳から19歳の年齢階級において、使用割合が低い薬剤は0歳から4歳はホルモン剤【抗ホルモン剤を含む】33.6%、末梢神経系用剤 43.4%、抗生物質製剤 52.0%でした。
- 5歳から9歳はホルモン剤【抗ホルモン剤を含む】41.0%、外皮用薬 47.8%、循環器官用薬 50.2%でした。
- 10歳から14歳は循環器官用薬 45.0%、ホルモン剤【抗ホルモン剤を含む】45.6%、外皮用薬 53.5%でした。
- 15歳から19歳は外皮用薬 48.4%、循環器官用薬 60.4%、その他の代謝性医薬品 62.2%でした。

【0歳から4歳薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
人工透析用薬 (6÷6)	100.0%	ホルモン剤 【抗ホルモン剤を含む】 (167÷496)	33.6%
滋養強壮薬 (1,714÷1,760)	97.4%	末梢神経系用薬 (64÷148)	43.4%
診断用薬 【体外診断用医薬品を除く】 (13÷14)	92.9%	抗生物質製剤 (4,750÷9,136)	52.0%

【5歳から9歳薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (151÷151)	100.0%	ホルモン剤【抗ホルモン剤含む】 (97÷237)	41.0%
ビタミン剤 (144÷144)	100.0%		
滋養強壯薬 (571÷571)	100.0%	外皮用薬 (13,676÷28,606)	47.8%
腫瘍用薬 (28÷28)	100.0%		
診断用薬(体外診断用医薬品を除く) (25÷25)	100.0%	循環器官用薬 (98÷194)	50.2%

【10歳から14歳薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (114÷114)	100.0%	循環器官用薬 (2,411÷5,359)	45.0%
腫瘍用薬 (8÷8)	100.0%	ホルモン剤【抗ホルモン剤含む】 (383÷841)	45.6%
非アルカロイド系麻薬 (21÷24)	87.5%	外皮用薬 (26,559÷49,688)	53.5%

【15歳から19歳薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (38÷38)	100.0%	外皮用薬 (27,431÷56,662)	48.4%
腫瘍用薬 (14÷14)	100.0%	循環器官用薬 (3,957÷6,549)	60.4%
ビタミン剤 (11,102÷12,424)	89.4%	その他の代謝性医薬品 (4,242÷6,820)	62.2%

※非アルカロイド系麻薬

合成麻薬等

※ホルモン剤【抗ホルモン剤を含む】

脳下垂体ホルモン剤、
甲状腺、副甲状腺ホルモン剤等

※その他の代謝性医薬品

肝臓疾患用剤、糖尿病用剤等

※放射性医薬品

放射性医薬品

※泌尿器生殖器官及び肛門薬

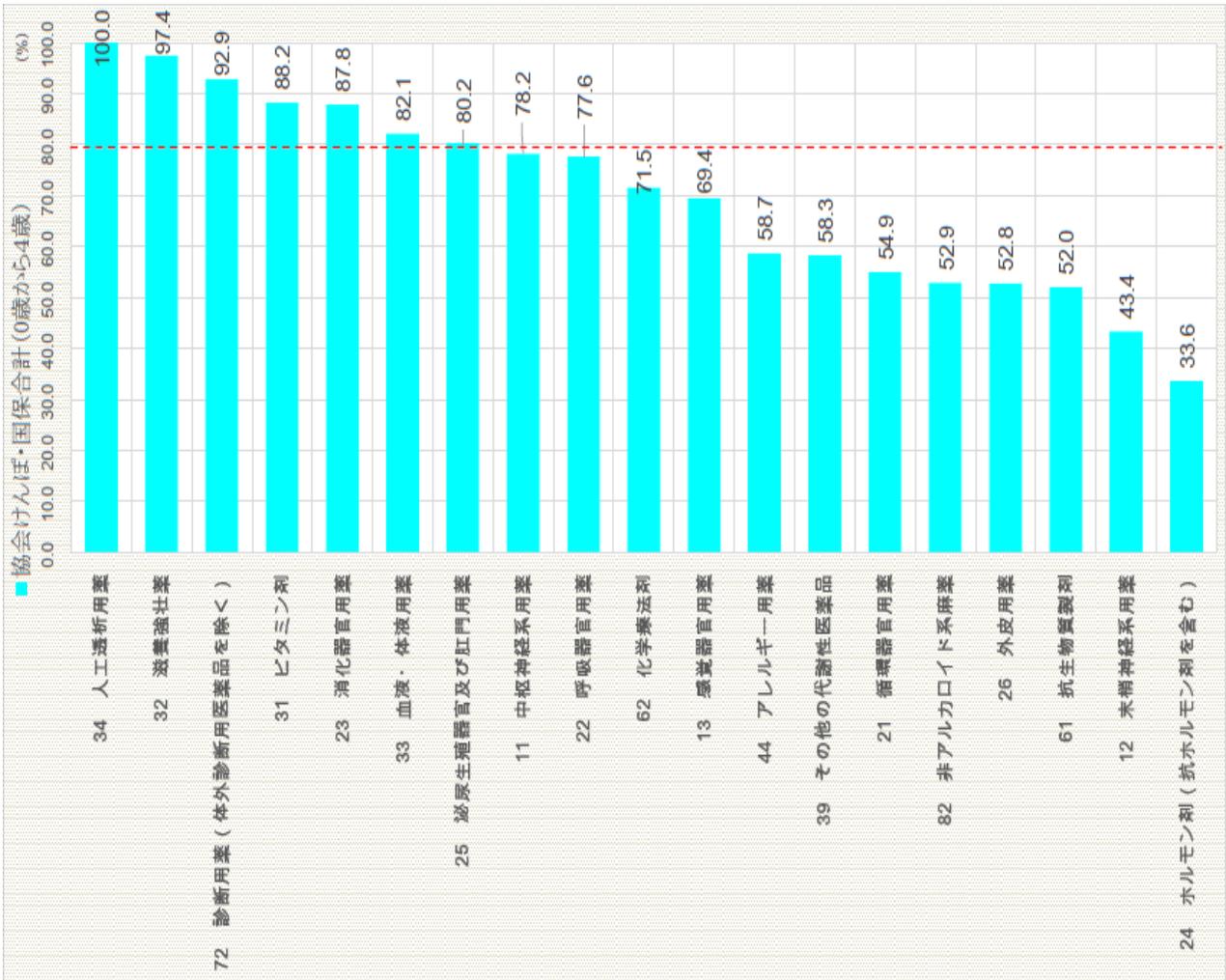
泌尿器官用剤、痔疾用剤等

※外皮用薬

化膿性疾患用剤、鎮痛、鎮痒等

若年層における薬効分類別の使用割合

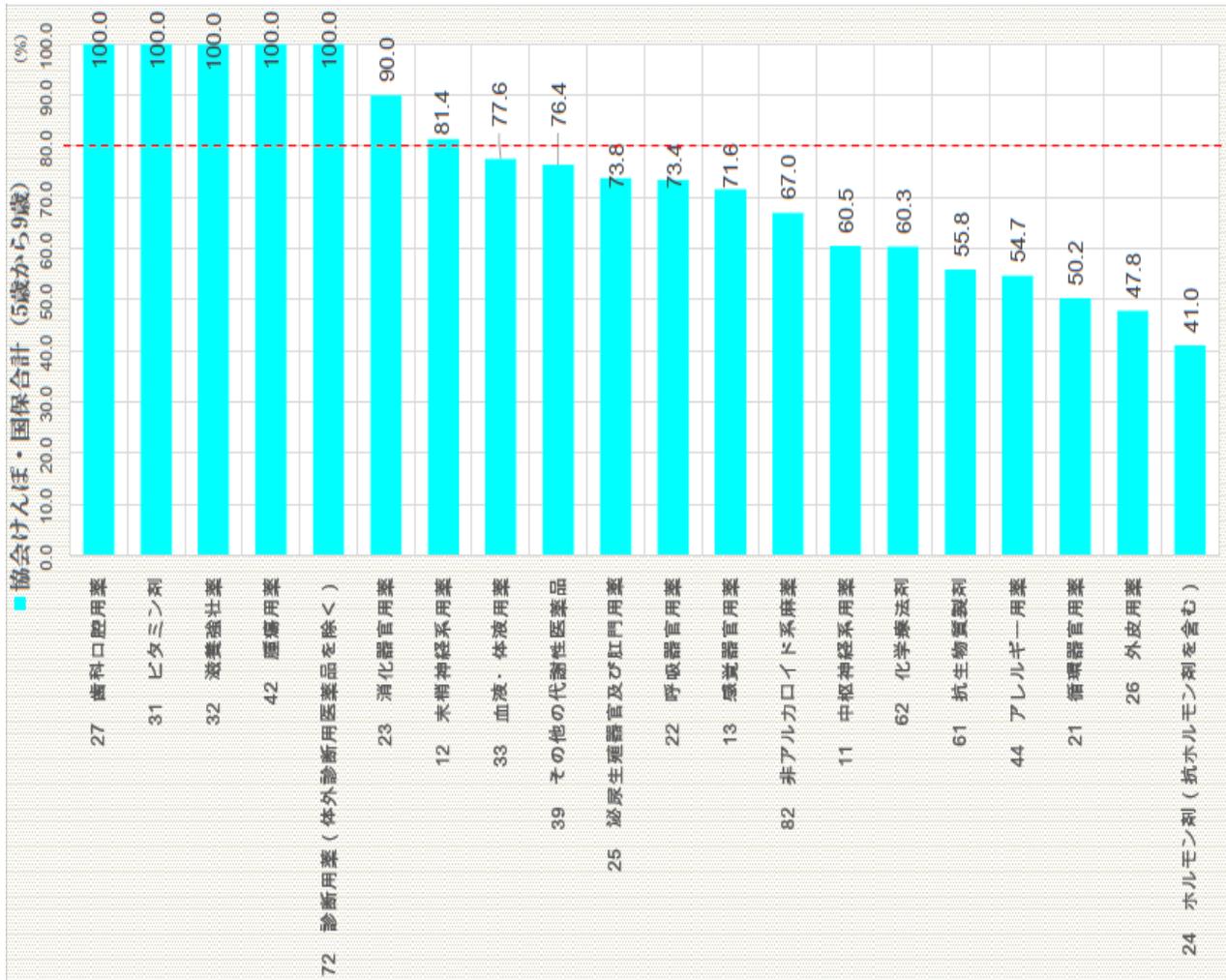
資料No.3-1



薬効分類別	協会けんぽ・国保合計(0歳から4歳)	
	使用割合(%)	対象薬剤数
34 人工透析用薬	100.0	6
32 滋養強壮薬	97.4	1,760
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	92.9	14
31 ビタミン剤	88.2	17
23 消化器官用薬	87.8	4,291
33 血液・体液用薬	82.1	88,195
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	80.2	172
11 中枢神経系用薬	78.2	9,116
22 呼吸器官用薬	77.6	128,034
62 化学療法剤	71.5	495
13 感覚器官用薬	69.4	1,507
44 アレルギー用薬	58.7	106,368
39 その他の代謝性医薬品	58.3	16,262
21 循環器官用薬	54.9	307
82 非アルカロイド系麻薬	52.9	40
26 外用薬	52.8	28,424
61 抗生物質製剤	52.0	9,136
12 末梢神経系用薬	43.4	148
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	33.6	496

若年層における薬効分類別の使用割合

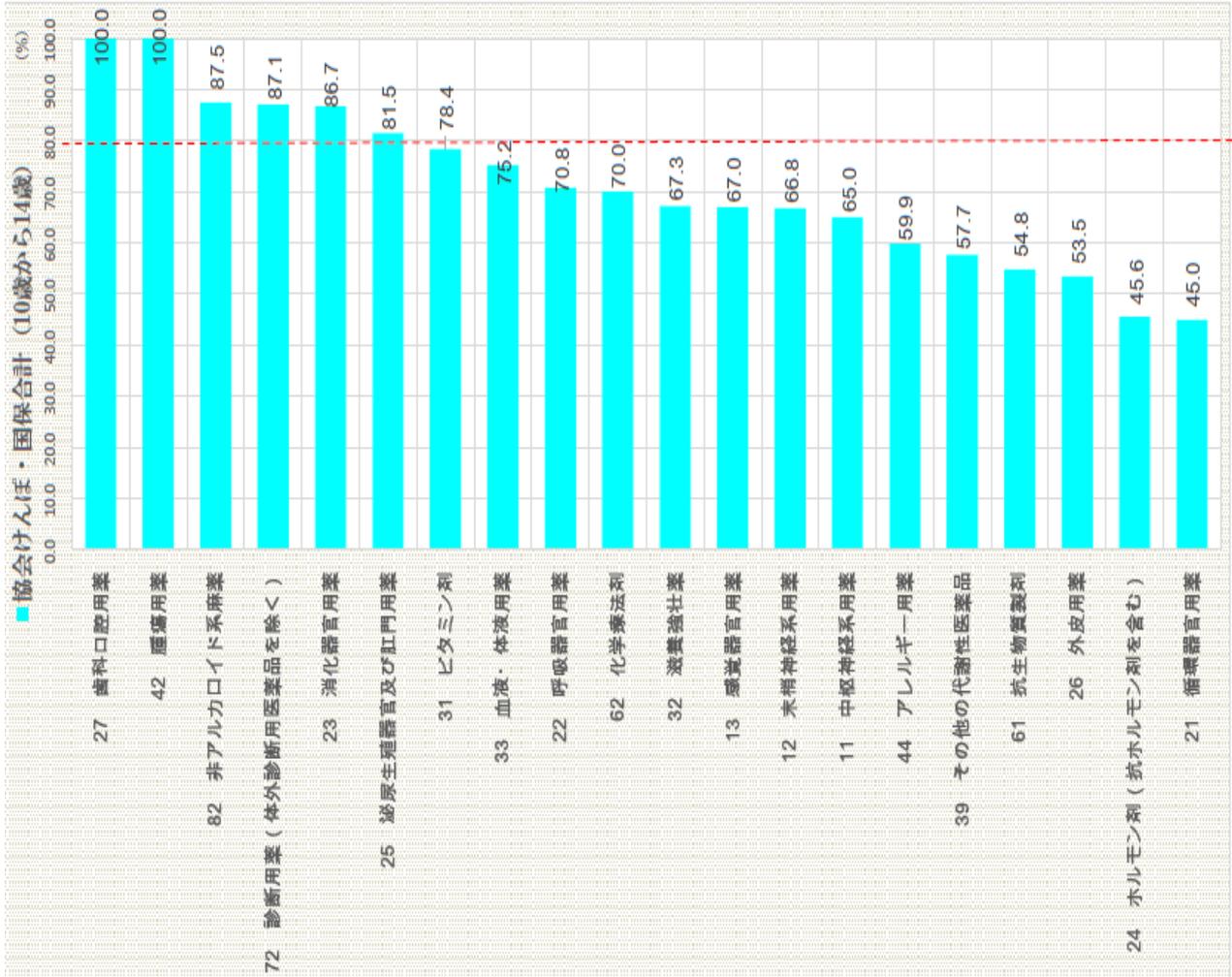
資料No.3-1



薬効分類別	協会けんぽ・国保合計 (5歳から9歳)	
	使用割合 (%)	対象薬剤数 / 切替薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	151 / 151
31 ビタミン剤	100.0	144 / 144
32 滋養強壮薬	100.0	571 / 571
42 腫瘍用薬	100.0	28 / 28
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	100.0	25 / 25
23 消化器官用薬	90.0	8,168 / 7,350
12 末梢神経系用薬	81.4	317 / 258
33 血液・体液用薬	77.6	69,828 / 54,153
39 その他の代謝性医薬品	76.4	3,411 / 2,605
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	73.8	629 / 464
22 呼吸器官用薬	73.4	63,568 / 46,681
13 感覚器官用薬	71.6	3,124 / 2,237
82 非アロカロイド系麻薬	67.0	36 / 24
11 中枢神経系用薬	60.5	14,373 / 8,693
62 化学療法剤	60.3	558 / 337
61 抗生物質製剤	55.8	12,353 / 6,898
44 アレルギー用薬	54.7	124,985 / 68,413
21 循環器官用薬	50.2	194 / 98
26 外皮用薬	47.8	28,606 / 13,676
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	41.0	237 / 97

若年層における薬効分類別の使用割合

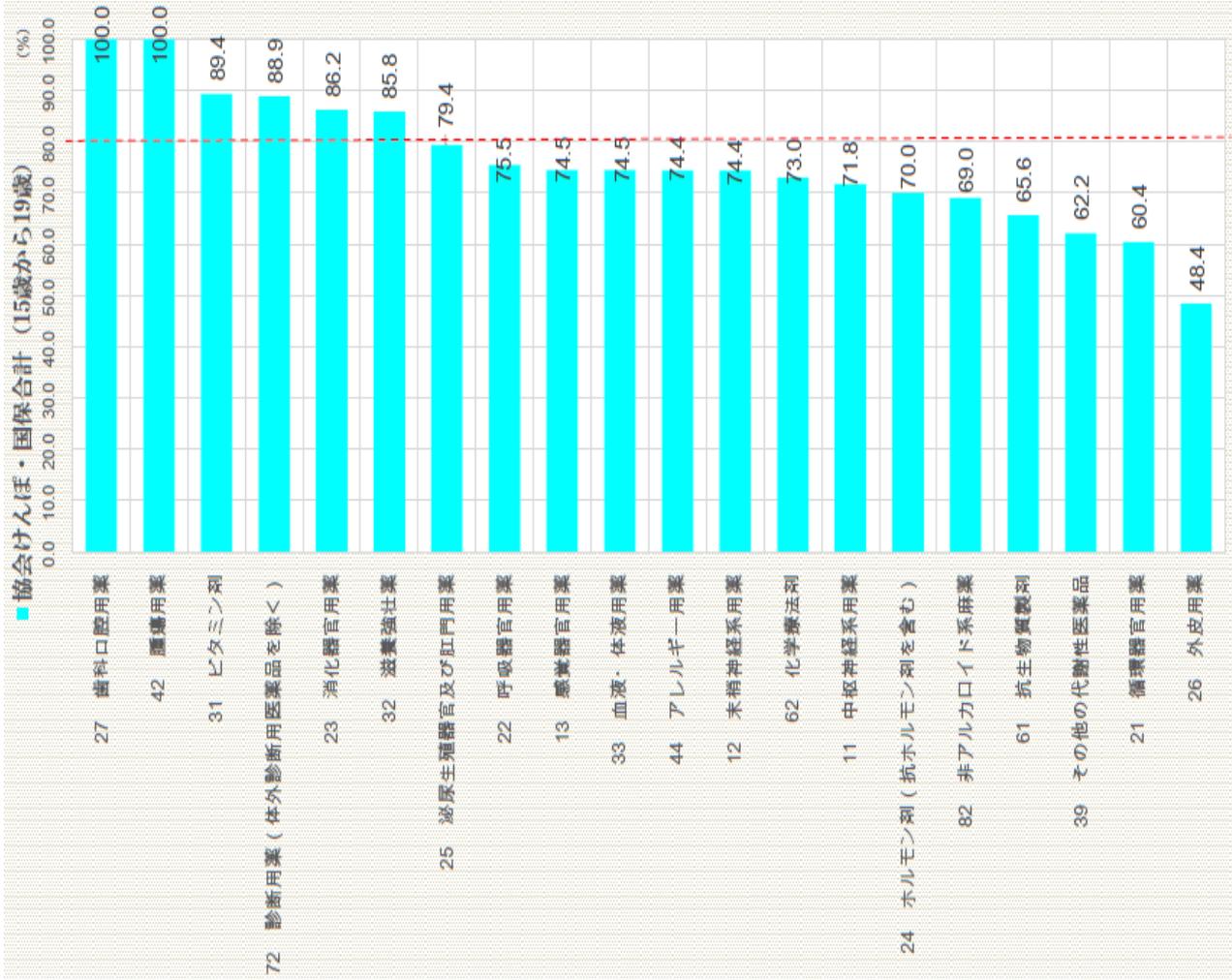
資料No.3-1



薬効分類別	協会けんぽ・国保合計 (10歳から14歳)	
	使用割合 (%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	114
42 腫瘍用薬	100.0	8
82 非アロカロイド系麻薬	87.5	24
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	87.1	31
23 消化器官用薬	86.7	20,616
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	81.5	784
31 ビタミン剤	78.4	5,571
33 血液・体液用薬	75.2	45,387
22 呼吸器官用薬	70.8	25,115
62 化学療法剤	70.0	1,211
32 滋養強壮薬	67.3	1,711
13 感覚器官用薬	67.0	3,002
12 末梢神経系用薬	66.8	1,880
11 中枢神経系用薬	65.0	36,925
44 アレルギー用薬	59.9	87,546
39 その他の代謝性医薬品	57.7	7,612
61 抗生物質製剤	54.8	9,953
26 外用薬	53.5	49,688
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	45.6	841
21 循環器官用薬	45.0	5,359

若年層における薬効分類別の使用割合

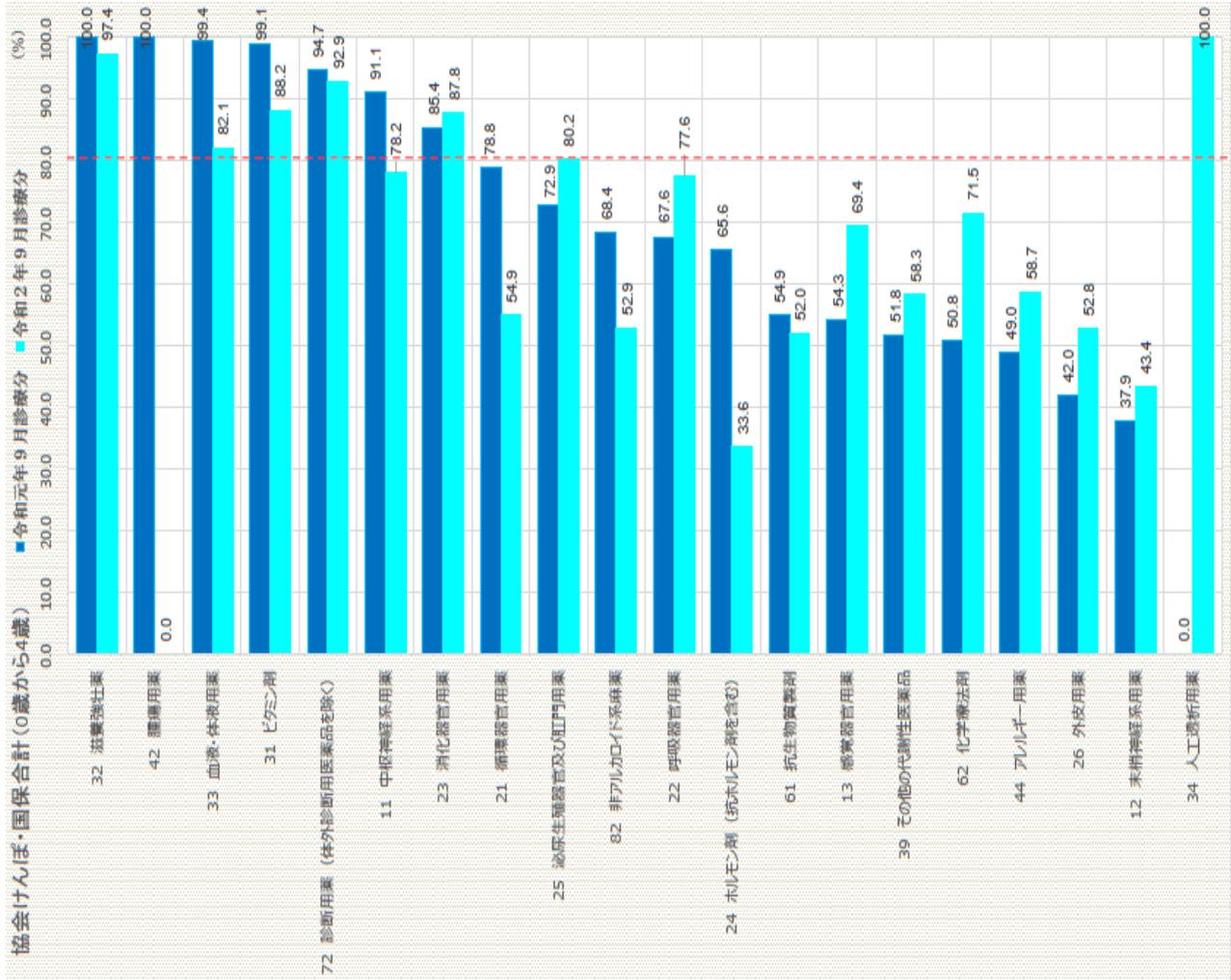
資料No.3-1



薬効分類別	協会けんぽ・国保合計 (15歳から19歳)	
	使用割合 (%)	対象薬剤数 切替薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	38
42 腫瘍用薬	100.0	14
31 ビタミン剤	89.4	12,424
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	88.9	45
23 消化器官用薬	86.2	31,275
32 滋養強壮薬	85.8	2,190
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	79.4	413
22 呼吸器官用薬	75.5	11,367
13 感覚器官用薬	74.5	2,239
33 血液・体液用薬	74.5	36,609
44 アレルギー用薬	74.4	42,148
12 末梢神経系用薬	74.4	4,143
62 化学療法剤	73.0	1,424
11 中枢神経系用薬	71.8	53,495
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	70.0	2,558
82 非アロカロイド系麻薬	69.0	113
61 抗生物質製剤	65.6	13,060
39 その他の代謝性医薬品	62.2	6,820
21 循環器官用薬	60.4	6,549
26 外皮用薬	48.4	56,662

若年層における薬効分類別の使用割合

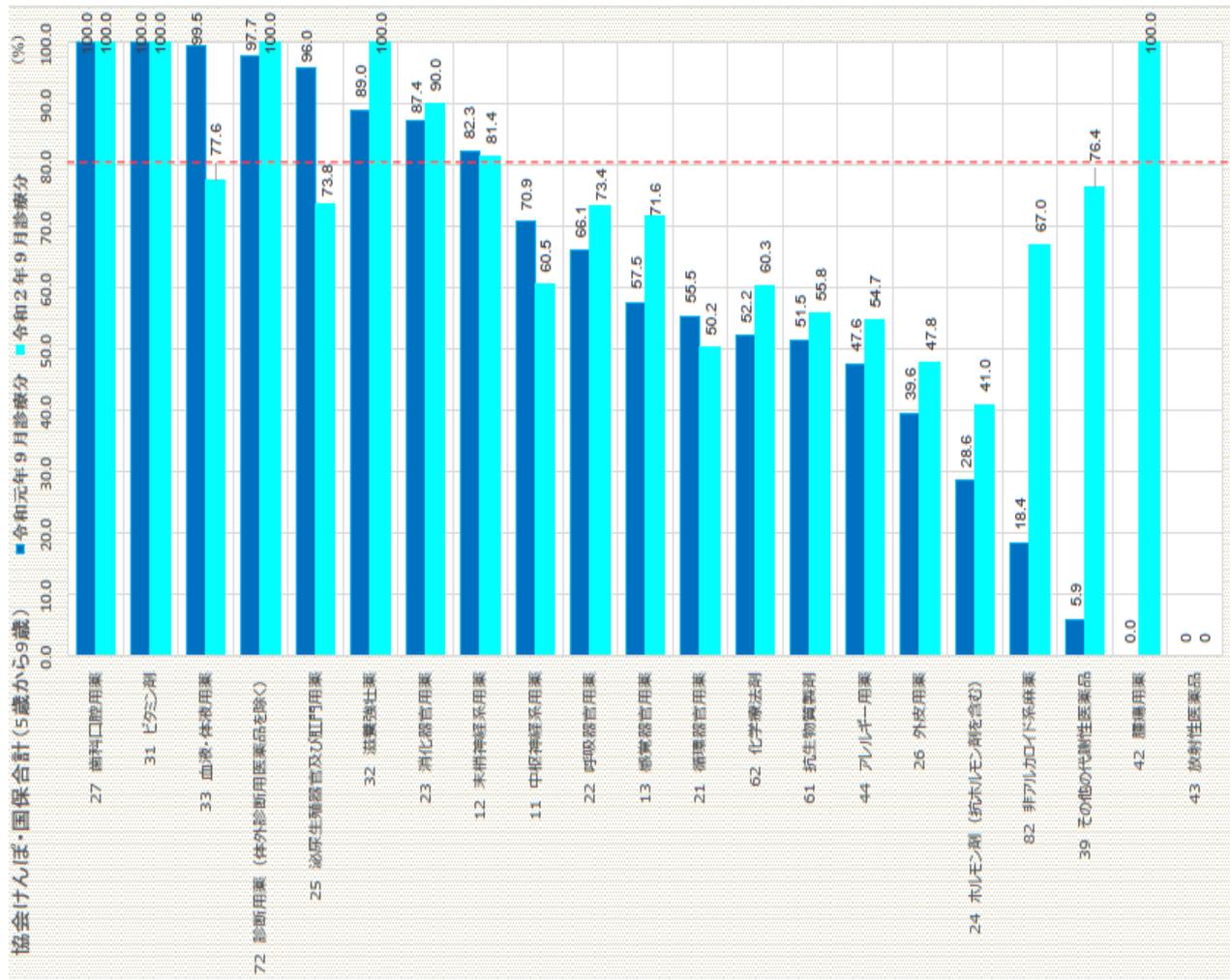
資料No.3-2



薬効分類別	令和元年9月診療分		令和2年9月診療分	
	使用割合(%)	対象薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数
32 滋養強壮薬	100.0	1,805	97.4	1,760
42 腫瘍用薬	100.0	6	-	-
33 血液・体液用薬	99.4	56,741	82.1	88,195
31 ビタミン剤	99.1	111	88.2	17
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	94.7	19	92.9	14
11 中枢神経系用薬	91.1	13,735	78.2	9,116
23 消化器官用薬	85.4	9,502	87.8	4,291
21 循環器官用薬	78.8	354	54.9	307
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	72.9	85	80.2	172
82 非アロイド系麻薬	68.4	57	52.9	40
22 呼吸器官用薬	67.6	203,474	77.6	128,034
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	65.6	261	33.6	496
61 抗生物質製剤	54.9	19,339	52.0	9,136
13 感覚器官用薬	54.3	2,496	69.4	1,507
39 その他の代謝性医薬品	51.8	12,438	58.3	16,262
62 化学療法剤	50.8	1,633	71.5	495
44 アレルギー用薬	49.0	46,379	58.7	106,368
26 外用薬	42.0	23,687	52.8	28,424
12 末梢神経系用薬	37.9	129	43.4	148
34 人工透析用薬	-	-	100.0	6

若年層における薬効分類別の使用割合

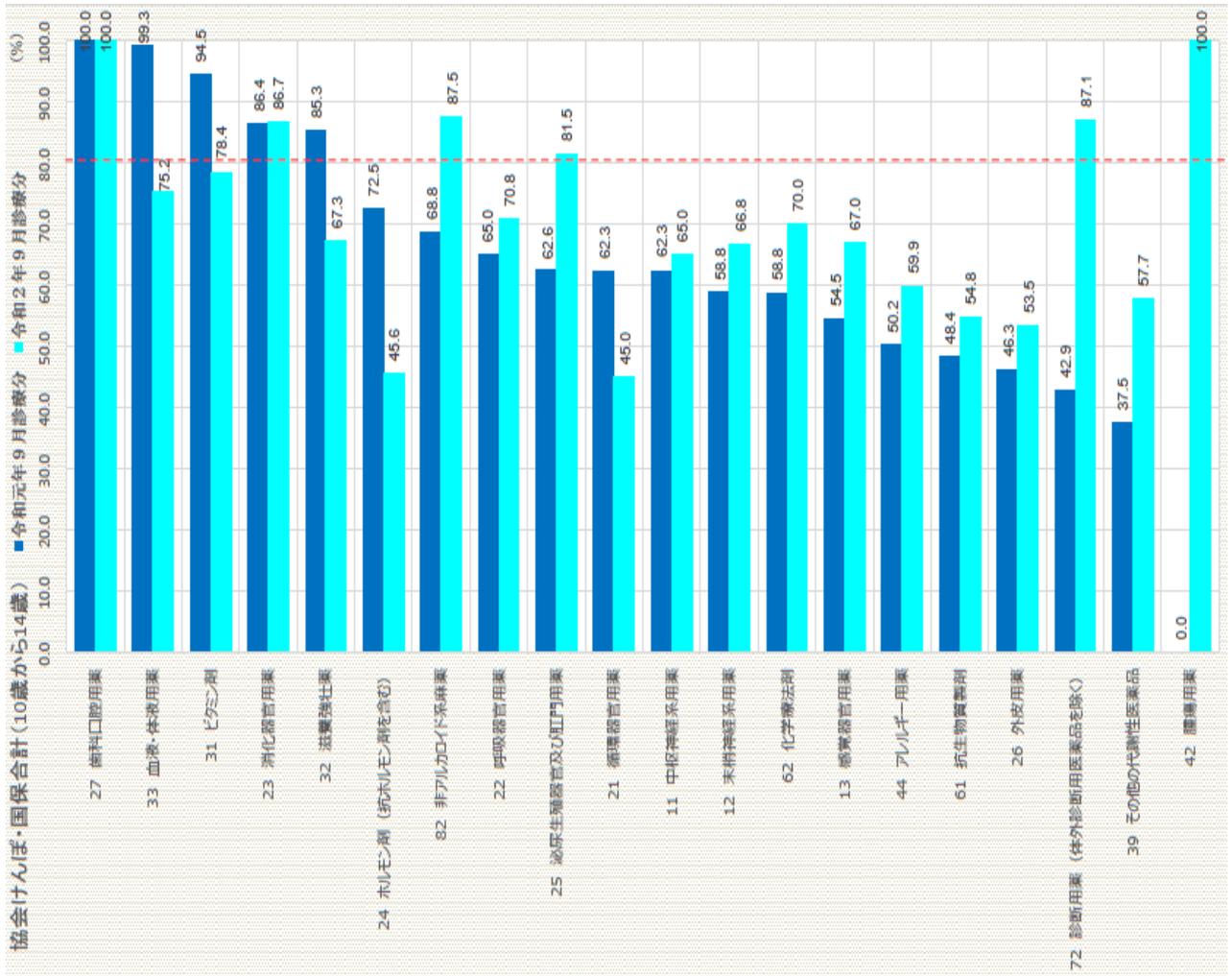
資料No.3-2



薬効分類	令和元年9月診療分			令和2年9月診療分		
	使用割合 (%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合 (%)	対象薬剤数	切替薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	4	4	100.0	151	151
31 ビタミン剤	100.0	462	462	100.0	144	144
33 血液・体液用薬	99.5	34,668	34,488	77.6	69,828	54,153
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	97.7	44	43	100.0	25	25
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	96.0	445	427	73.8	629	464
32 滋養強壮薬	89.0	500	445	100.0	571	571
23 消化器官用薬	87.4	12,469	10,894	90.0	8,168	7,350
12 末梢神経系用薬	82.3	268	220	81.4	317	258
11 中枢神経系用薬	70.9	17,044	12,085	60.5	14,373	8,693
22 呼吸器官用薬	66.1	86,828	57,376	73.4	63,568	46,681
13 感覚器官用薬	57.5	3,048	1,753	71.6	3,124	2,237
21 循環器官用薬	55.5	550	305	50.2	194	98
62 化学療法剤	52.2	1,229	642	60.3	558	337
61 抗生物質製剤	51.5	23,432	12,070	55.8	12,353	6,898
44 アレルギ-用薬	47.6	80,378	38,230	54.7	124,985	68,413
26 外皮用薬	39.6	24,584	9,739	47.8	28,606	13,676
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	28.6	207	59	41.0	237	97
82 非アルコール系麻薬	18.4	38	7	67.0	36	24
39 その他の代謝性医薬品	5.9	2,708	161	76.4	3,411	2,605
42 腫瘍用薬	-	-	-	100.0	28	28
43 放射性医薬品	0	11	0	-	-	-

若年層における薬効分類別の使用割合

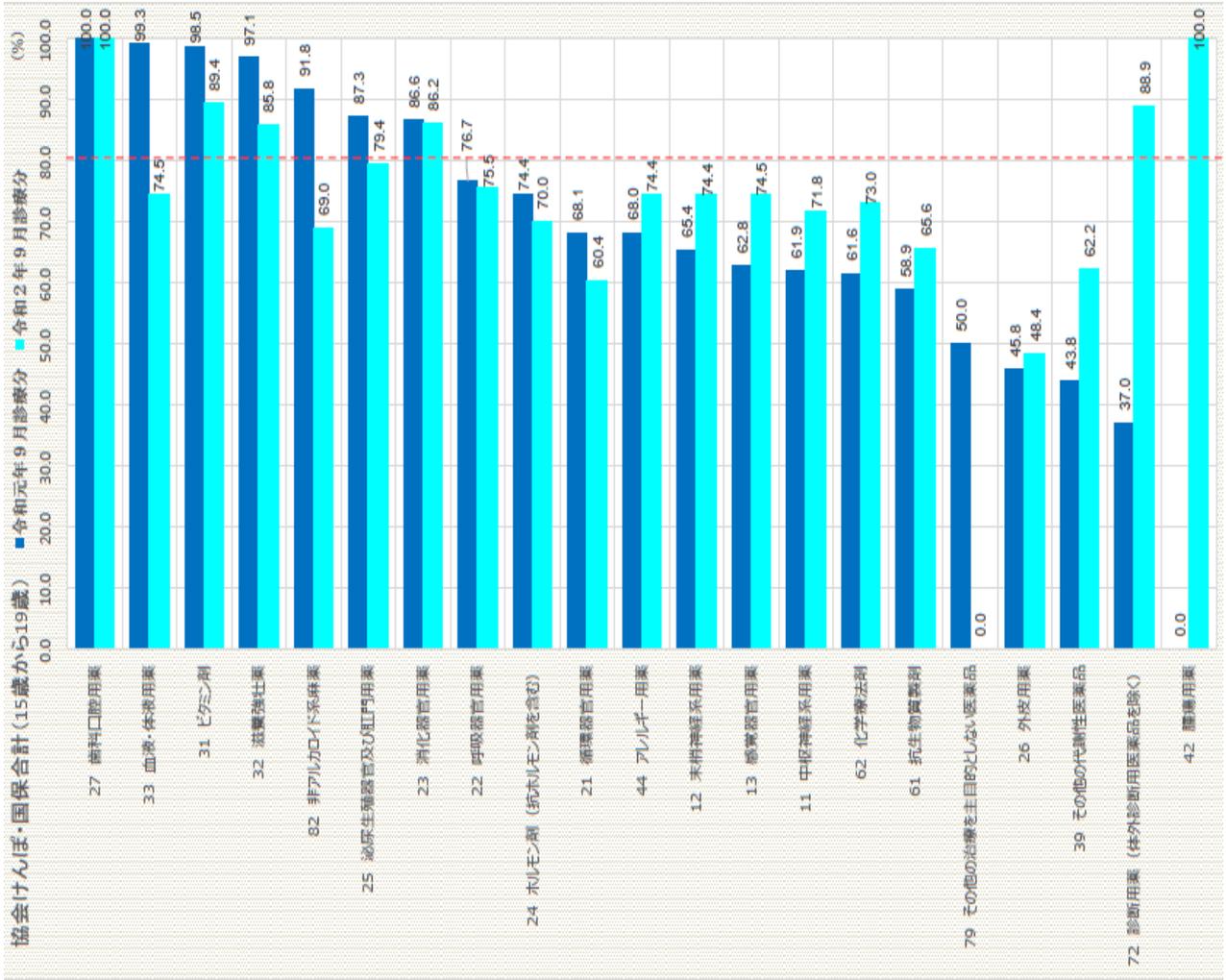
資料No.3-2



薬効分類別	令和元年9月診療分		令和2年9月診療分	
	使用割合(%)	対象薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	2	100.0	114
33 血液・体液用薬	99.3	18,901	75.2	45,387
31 ビタミン剤	94.5	3,334	78.4	5,571
23 消化器官用薬	86.4	17,800	86.7	20,616
32 滋養強壮薬	85.3	890	67.3	1,711
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	72.5	331	45.6	841
82 非アルカロイド系麻薬	68.8	32	87.5	24
22 呼吸器官用薬	65.0	35,852	70.8	25,115
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	62.6	412	81.5	784
21 循環器官用薬	62.3	3,943	45.0	5,359
11 中枢神経系用薬	62.3	27,874	65.0	36,925
12 末梢神経系用薬	58.8	1,126	66.8	1,880
62 化学療法剤	58.8	1,187	70.0	1,211
13 感覚器官用薬	54.5	2,745	67.0	3,002
44 アルブール用薬	50.2	60,858	59.9	87,546
61 抗生物質製剤	48.4	16,738	54.8	9,953
26 外用薬	46.3	36,751	53.5	49,688
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	42.9	7	87.1	31
39 その他の代謝性医薬品	37.5	2,435	57.7	7,612
42 腫瘍用薬	-	-	100.0	8

若年層における薬効分類別の使用割合

資料No.3-2



薬効分類	令和元年9月診療分		令和2年9月診療分	
	使用割合 (%)	対象薬剤数	使用割合 (%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	10	100.0	38
33 血液・体液用薬	99.3	21,638	74.5	36,609
31 ビタミン剤	98.5	7,650	89.4	12,424
32 滋養強壮薬	97.1	2,170	85.8	2,190
82 非アロピド系麻薬	91.8	73	69.0	113
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	87.3	409	79.4	413
23 消化器官用薬	86.6	26,185	86.2	31,275
22 呼吸器官用薬	76.7	17,916	75.5	11,367
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	74.4	1,658	70.0	2,558
21 循環器官用薬	68.1	3,994	60.4	6,549
44 アレルギ-用薬	68.0	32,192	74.4	42,148
12 末梢神経系用薬	65.4	1,723	74.4	4,143
13 感覚器官用薬	62.8	1,972	74.5	2,239
11 中枢神経系用薬	61.9	38,934	71.8	53,495
62 化学療法剤	61.6	1,057	73.0	1,424
61 抗生物質製剤	58.9	12,917	65.6	13,060
79 その他の治療を主目的としない医薬品	50.0	2	-	-
26 外皮用薬	45.8	34,769	48.4	56,662
39 その他の代謝性医薬品	43.8	5,618	62.2	6,820
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	37.0	27	88.9	45
42 腫瘍用薬	-	-	100.0	14

5. まとめ

《後発医薬品の使用促進について》

国では医療費適正化の一環としてジェネリック医薬品の使用割合を 80%以上にするための使用促進を行っています。

今般の統計結果より、本県では昨年度と同様に、若年層の使用割合が低いことが分かりました。

このことより、保険者協議会としても県、医師会、歯科医師会、薬剤師会などの関係機関と連携した取り組みを行い、保護者の方々にジェネリック医薬品が安心・安全な薬剤であることや医療費の抑制につながることを引き続き周知していく必要があると考えます。